

DEEP INSIDE



「風神雷神図屏風」 俵屋宗達

BY WILD INVESTORS

DEEP INSIDE

- | | | |
|---|--------------------------------|-----|
| 1 | 米株強気へ転換！ただし日米二重内戦と第三次世界大戦激化に注意 | 1 |
| 2 | 【再掲】投資戦略アップデート[週末]メール | 72 |
| 3 | 【再掲】投資戦略アップデート[特別]メール | 101 |

10

ワイルドインベスターズ

会員専用投資レポート

2024 年 10 月号

“DEEP INSIDE” 2024/10

©Wild Investors Inc. <http://www.wildinvestors.com/>



01 米株強気へ転換！ただし日米二重内戦と第三次世界大戦激化に注意

2024 年 10 月 29 日（火）

ワイルドインベスターズ代表 安間 伸

=====
長期金利が 上昇も

景気・業績 底堅い

「暴落の秋」 を通過して

ゴルディロックス 濃厚に

リセッション懸念が後退したため米債 ETF を売って株 100%に戻す

米株に隙はないが日米二重内戦と第三次世界大戦激化には要注意
=====

文章内のリンクに飛んだとき、ブラウザによっては「戻る」ボタンを押しても元の文章に戻らずレポート最初のページに戻ってしまうことがあります。そのような場合はリンクの上で右クリックをして「リンクを新しいタブで開く」を選択すると、別タブが開いてリンク先を読むことができます。[青文字アンダーラインがなくても飛べるリンクがありますのでお試しください。](#)

「目次のページ番号」や文章内の「図表番号」「章の番号やタイトル」などは原則的に「相互参照」となっており、クリックすると[青文字アンダーライン](#)でなくてもそのリンク先に飛ぶようになっています。参照したい場合はお試しください（ただし相互参照になっていない場合もあります）。

レポートの後ろにすでに送信した会員さん向けメールを収録しています。「【再掲】投資戦略アップデート」の章で、[週末] [特別]の 2 つに分かれています。これらにより時系列として何が起こったのかを後から振り返ることができます。メールで送った内容ですから、覚えている方は基本的に読む必要はありません。ただし読んだけれども忘れてしまった方や、途中から入会した方などはもう一度読んでいただくと話がわかりやすくなると思います。

目次

1.	概要.....	3
2.	先月の市況：香港ブチ上げで強烈な「ブル逆流」	5
3.	先月（2024 年 09 月）のパフォーマンス	7
4.	雇用統計と CPI 予想上回り利下げ観測後退	11
5.	輸出入物価はドル高・エネルギー下落・景気スローダウンでさらに低下	17
6.	11 月 12 月それぞれ 25bp 利下げ、ターミナルレートも大幅縮小。	19
7.	コモディティは横ばい	20
8.	米中期ゾーン金利が特に上昇	23
9.	実質金利差再拡大でドル買い円売りキャリートレード再開か	26
10.	ドル円急反発。購買力平価に対した乖離を始める。	28
11.	ドル高の中、一部新興国通貨さらに弱さ際立つ	30
12.	「非」製造業さらに好調でインフレ鎮静化と両立	32
13.	（パターン a）で米株ブチ強く、新興国総じて弱い	34
14.	2024 年 09 月は「AI 業種御三家」復活で二極化再開	39
15.	企業業績と経済指標堅調でゴールドロックシナリオ濃厚に	43
16.	気になる高額所得者と中年の延滞率上昇	49
17.	VIX 指数建玉はさらに強い買い場を示唆	52
18.	マグニフィセント 7 占有率、二極化再開でさらに上昇	54
19.	10 月上旬、債券 ETF を諦めて米株を買い戻した	58
20.	保守層離反で自民党大敗、立憲民主は得票増えずとも議席大幅増。	59
21.	石破首相続投で自民党は「トルドー自由党型衰退」か	61
22.	日米で「二重内戦」激化。中国にとっては絶好のボーナスステージ。	64
23.	まとめ：米株強気へ転換！ただし日米二重内戦と第三次世界大戦激化に注意	64
24.	【再掲】投資戦略アップデート[週末]メール	72
	（20241006）西側経済から切り離され仕手化する香港株。米金利上昇・ドル高で米株上がる（パターン a）。信用収縮でなければ米株を買うべきだが。	72
	（20241013）9 月のパフォーマンス訂正、マイナス大幅縮小。10 月プラスだが指数に対する劣後は厄介。結局米債 ETF を売り、米株を買い戻した。	79
	（20241019）パフォーマンスはどの戦略も大きく挽回。中国株急騰で米株上昇かと思ったら関係なし。中国、84 兆円住宅支援でさらに供給過剰へ。	87
	（20241025）「選挙前アノマリー」全く効かず日本株下落。しかも円安ドル高なのに売られる激弱くん。自民大敗でいったん日本株は買い戻される。	93
25.	【再掲】投資戦略アップデート[特別]メール	101
	今月も整理する時間がなかったので、後日まとめます	101

1. 概要

米国の経済指標は堅調でリセッション懸念が後退、利下げサイクルの最終到達金利であるターミナルレートも切り上げられました。市場が予測したゴルディロックスシナリオが正しかったということで、私は10月上旬に米株に対し弱気から強気に転換しました。今でもエヌビディアなど AI 関連や一部大型グロス株によって主導される上昇には不安が付きまといまいます。しかしこれまではずっとそれらの銘柄が牽引してきたのに対し、今の上昇局面はバリュー株や中型株が主導する局面もあり 健全なセクターローテーションが継続しています。

これにより米長期金利と米ドルが急上昇しました。米長期金利は引き続き 空気入れの役割を果たすと考えています。それが低下してドル安になると、企業収益が好転する期待から米株が買われる ドットコムバブル期のパターンが復活しています。米国株のEPS（一株あたり利益）の伸びはゆるやかですが、世界から米国に資金が集中するため引き続き「米株を売るのは危険」と考えます。

- 一部の銘柄が市場全体を牽引する AI バブル第一段階はコスト倒れになることが見えてきて、いったん終わったと考える。しかし 第二段階は人間がやる仕事に取って代るため、今回とは比較にならないほどのバブルになると予想する。
- データセキュリティやデータソブリンなどの追い風に乗って半導体関連株はこれ以上ない追い風を受けてきた。しかしハードウェアには 収益逡増の法則が働きにくいこともあり、その期待を上回る収益はしばらく上げられないと考えている。
- 経済指標を見るとインフレ圧力が低下し、特に 住居費が低下し始めた。インフレが低下する一方で景気は堅調という ゴルディロックスシナリオが織り込まれている。これ以上景気がスローダウンすれば リセッション懸念が高まるはずだが、今のところその兆候は薄い。
- 米実質金利が再上昇し、米国に資金が集まる下地が復活した。新興国経済が立ち直る可能性は低く、いずれ 連鎖破綻の危機に陥ると考えている。
- 商業不動産(CRE)は引き続き オフィスビルに注意。 住宅販売も腰折れ気配。新築よりも中古の価格中央値が高いという異常事態になっている。住宅在庫が積み上がってきたが、これは金利低下を先読みした 買い控えである可能性がある。また 住宅ローンの借り手のスコアが高いことやロックイン効果によって住宅が叩き売られて価格が急落する可能性はかなり薄いと考える。
- 2020 年のレベルにまで ローン延滞率がジリジリ上昇している。さらに 奨学金ローン延滞が今年 10 月分からいきなり計上されることには要注意。
- 米中小銀行の中に不動産融資比率が高いものがまだ残っており、そこから危機が波及する可能性は十分ある。大手の米金融機関はほとんど心配ない。
- 米中小銀行の信用収縮や 新興国連鎖破綻の可能性続く。中国の経済対策により中国株が大きく反発しても、他の新興国はむしろ下げたりしている。新興国連鎖破綻のきっかけや中心になるのは中国ではないかもしれない。
- 日本の石破政権は 2009 年民主党以来の左派政権であり、経済や安全保障を根本から破壊す

る可能性がある。しかしこれは中国にとってチャンスであり、マスメディアや中国シンパは石破政権を存続させるはずである。

状況としては 1990 年代後半のドットコムバブルにまたも似てきました。下の 2 つの局面が循環的に訪れ、二極化とリバーサルを繰り返しながら昇ってゆくパターンが続いています。ただしこれまでのバブルと同じように、米国のイールドスプレッドがマイナスへと突入するかどうかはわからなくなってきました。

(パターン a) 好調な経済指標 → インフレ懸念強まる → 米金利上昇・ドル高 → 米株は小幅高

(パターン b) 経済指標悪化 → インフレ懸念やわらぐ → 米金利低下とドル安 → 米株は大幅上昇

中国の実態を知る人が増え、「中国からの大脱出が始まった」と解釈しています。私はかれこれ 20 年以上、中国を成長させることの危険性に対し警鐘を鳴らしてきました。それを多くの人々が知るようになり、資本流出が本格化してきたのだと思います。また情報やサプライチェーンのセキュリティが重視され、米中ともに経済ブロックを強化し潜在敵国企業を追い出そうとしています。そこを見誤った企業や投資家は大損する可能性があると考えてください。

米実質金利が再上昇し始めたので、新興国からの資金流出はまた増加するかもしれません。いずれにしても 1997-98 年のような「新興国連鎖破綻を契機とした世界的信用収縮はいつでもあり得る」と覚悟しておくべきでしょう。世界史上最大級の中国不動産バブル崩壊が現実になれば、人類史上見たことのないようなクラウドディングアウトが中国で起きると考えます。しかしそれが世界に与えるインパクトは、私が想像していたよりもずっと小さくなりそうです。

先月と比較すると弊社の「三大潮流シナリオ」のうち「(1)ドットコムバブル型の米株上昇」は主役が減りつつも再開の気配がしています。「(2)新興国クラッシュ」は米実質金利上昇により再開の可能性があります、将来的に新興国が連鎖破綻に至ることは不可避と考えます。「(3)再ブロック化」も米欧の中国排除政策と中国の「鎖国・囲い込み政策」の両輪で、お互いの企業を追い出し「戦時経済色」をさらに強めてゆくと考えます。

ワイルドインベスターズの三大潮流

1. ドットコムバブル型の米株上昇

2. 途中で新興国クラッシュ

3. 再ブロック化

米大統領選は金融市場や賭け率で「ほぼトランプ」を織り込んでいます。トランプ氏が大統領になりバンス氏が副大統領になれば、急速に保守回帰が進んで米国は繁栄するでしょう。しかしそれでは困る検閲産業複合体や反米国家は、民主党政権による米国弱体化を継続したいと考えています。そのためにトランプ氏に対して司法の武器化やフェイクニュースによる攻撃を続けてきたわけで、その手口が多くの人にバレたところでやめる理由もありません。「毒を食らわば皿まで」です。さらなる暗殺計画だけでなく不正選挙も仕掛けるはずで、すでにその一端が報告されています。ハリス氏が勝利した場合に怪しまれないため、マスメディアは極端な調査や情報の一部だけを取り出して「支持率は拮抗」というイメージを植え付けています。

ただし危険な兆候として、紅海などで米英が海洋覇権を失いつつあります。船舶を攻撃するフーシ派に屈し、欧米諸国は紅海を避けるようになりました。その裏には当然、中国・ロシア・イランが居ます。米国内の「共和党 vs 民主党」、共和党内の「トランプ派 vs 反トランプ派」の二重内戦が激化している間に、中国は海上交易で重要なチョークポイントを奪い取って行きました。世界最強の米軍もトップからしてポリコレの毒に冒されており、敵味方の区別すらついていないようです。もはやカネを食うだけの利権集団に近いかもしれません。中国はこの時を逃さず、台湾・尖閣というチョークポイントを奪うことを考えているでしょう。

すでに第三次世界大戦が始まっているというのに、日本では親中の岸田政権から親北親中の石破政権にバトンが渡されました。その結果、10月の選挙で自民党が少数与党に転落するという予測が当たりました。日本国内でも「自民党 vs 左派政党」、自民党内の「安倍派 vs 反安倍派」の二重内戦が激化しています。中国としては大きなチャンスで、石破氏が退陣しないように守って自民党を「トルドー政権的衰退」へと追いやろうとするでしょう。

総合的には引き続き

「中国など新興国から逃げた資金が米国に向かう」

という潮流に変化はないと考えます。米国の覇権は揺らいでいますが、だからといって中国がすんなりその地位を奪い取れる感じではありません。再ブロック化が進めば、新興国のほうが危うい状況にあることは変わりありません。「暴落の秋」が終わりつつあることも考慮し

米株ロング+新興国ショートの本流ポジションを維持

することを基本戦略とします。

2. 先月の市況：香港ブチ上げで強烈な「ブル逆流」

2024年09月はFOMCが50bp(0.50%)の大幅利下げを決定し、さらに追加で年内合計50-75bpと金融緩和急ぐとの期待から米株は史上最高値を更新しました。市場は「ゴルディロックスだったら買おう」「リセッションだったら売ろう」という思惑のせめぎ合いでしたが経済指標は意外と堅調で、後者が徐々に後退しました。原油価格が下げたことが効いて米国内のインフレ圧力が急速に後退し、米長期金利はさらに低下しドル安円高が進みました。AIへの巨額投資が回収不能になる懸念から売られていた「AI業種御三家」の情報技術・一般消費財・コミュニケーションサービスなどが反発しました。MSCIワールド株価指数はドルベースでこそ上昇したものの、円高によって打ち消され円ベースでは+0.10%と横ばいでした。MSCI新興国株指数は下げ続けていた香港株が+17%超と急反発したことから円ベースで+4.87%と上昇。株価が上昇しながら米株に対して新興国株が上がる「ブル逆流」でした。サーム・ルール発動で景気後退入りが懸念されましたが、その兆候が薄いことで株を一気に売った人々が少しずつ買い戻しているようです。テクニカルにはまだ警戒サインが残っているものの、下げを警戒して

いる投資家が増えているデータもあるため私が考えているような大幅調整は遠のいた気がします。現在は米長期債 ETF を中心とした「**信用収縮ポジション**」にしていますが、場合によっては米株を買い戻し**本流ポジション**に戻ることも考えています。

図表 1 は主要株価指数と通貨のパフォーマンスです。まず右側の「為替」の列を見ると円に対してドルは-1.74%と続落。ユーロは-0.96%、英ポンドは+0.08%と**総じて円高**でした。

真ん中の列は現地通貨ベースの主要株式指数リターンです。米 SP500 指数が+2.02%と続伸する一方、米 NASDAQ 指数は+2.68%とそれを上回りました。しかし日本株や英国株などが下げ、MSCI ワールド株価指数は+1.87%と米株を下回りました。一方で主要新興国は香港株が 17%超ぶち上げたために総じて強く、ドルベースで+6.72%と先進国を大きく上回りました。

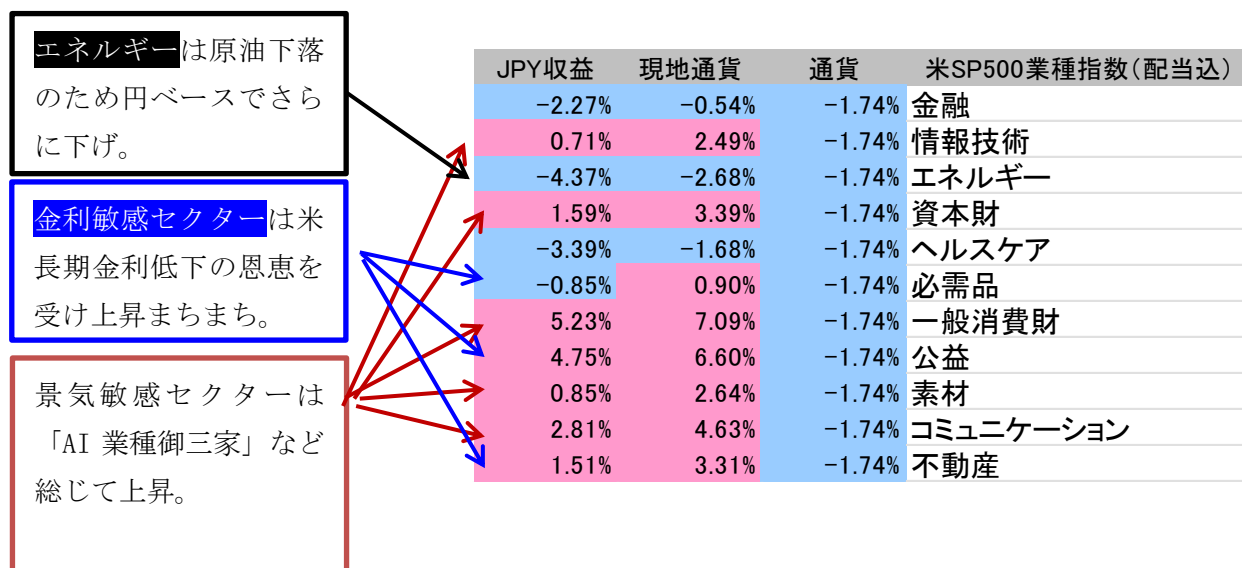
一番左は株価と通貨を合わせた「円ベース JPY 収益」です。MSCI ワールド株価指数は円高によって収益を引き下げられ+0.10%とかなりプラス。米 SP500 指数はそれを若干上回る+0.25%でした。MSCI 新興国指数はそれよりはるかに強い+4.87%。これにより株価全体は上げながら米株が新興国株に対して強い「**ブル逆流**」となり、仮にこの一か月ずっと「米 SP500 買い+新興国売り」の**本流ポジション**を持ちっぱなしにしていれば約 4.62%の損失になった計算となります。

図表 1 2024 年 09 月のパフォーマンス（株価指数・円ベース）

通貨は急激な円高継続。				
	JPY収益	現地通貨	通貨	株価指数
「米株買い+新興国売り」 で約 4.62%の損失	0.10%	1.87%	-1.74%	世界MSCI WORLD GR
	4.87%	6.72%	-1.74%	新興国EM
	0.25%	2.02%	-1.74%	米SP500指数
	0.90%	2.68%	-1.74%	米NASDAQ COMPOS/d
米 NASDAQ は米 SP500 を約 0.65%ポイント上回っ た。	-2.46%	-2.46%	0.00%	東証TOPIX
	-1.88%	-1.88%	0.00%	日経平均
	1.23%	2.21%	-0.96%	独XETRA DAX PF/d
	-1.58%	-1.67%	0.09%	英FTSE 100 EOD IDX
日経は TOPIX を 0.58% 下回った。	3.17%	4.17%	-0.96%	スペインIBEX 35 INDEX/d
	15.80%	17.48%	-1.43%	香港恒生指数/d
	16.54%	17.39%	-0.72%	上海上証綜合指數/d
	-1.93%	-3.08%	1.19%	ブラジルBVSP BOVESPA I/d
新興国株は香港がブチ上 げ、韓国・ブラジル・台湾 などの下落を余裕でカバ ーした。	0.64%	2.28%	-1.61%	インドNIFTY 50/d
	-1.17%	-0.20%	-0.97%	台湾加權指數TAIWAN WEIGHT
	-4.91%	-4.64%	-0.28%	韓国KOSPI 200 INDEX
	2.63%	2.20%	0.43%	豪S&P/ASX 200
	3.42%	5.25%	-1.74%	金スポット
	-8.93%	-7.31%	-1.74%	WTI原油先物期近
	-0.39%	1.38%	-1.74%	米国10年債リターン

図表 2 は米国のセクターパフォーマンスです。ドルベースでは総じて強かったです。**景気敏感セクター**は情報技術・一般消費財・コミュニケーションサービスの「AI 業種御三家」など総じて上昇しました。**金利敏感セクター**は米長期金利低下の恩恵を受けましたが、上昇率はまちまちでした。**エネルギー**セクターは原油などが続落したため円ベースではさらに下げ、ヘルスケア・金融も下げました。

図表 2 2024 年 09 月の米国セクターパフォーマンス



図表 3 は米国の「バリュー・グロース」「大型・中型・小型」のセグメントを分けた現地通貨ベースのパフォーマンスです。グロースがやや強く、その中では大型・中型・小型はほぼ横並びでした。それらと同じぐらい中型バリューが強く、残る大型・小型バリューはそれらより 1%ポイントほど上昇率が低かったです。

図表 3 2024 年 09 月の米国バリュー・グロースパフォーマンス

CRSP米国株(配当込みトータルリターン)			
現地通貨ベース			
	総合	バリュー	グロース
総合	2.05%		
大型	2.09%	1.56%	2.40%
中型	2.54%	2.54%	2.53%
小型	1.97%	1.61%	2.46%

3. 先月（2024 年 09 月）のパフォーマンス

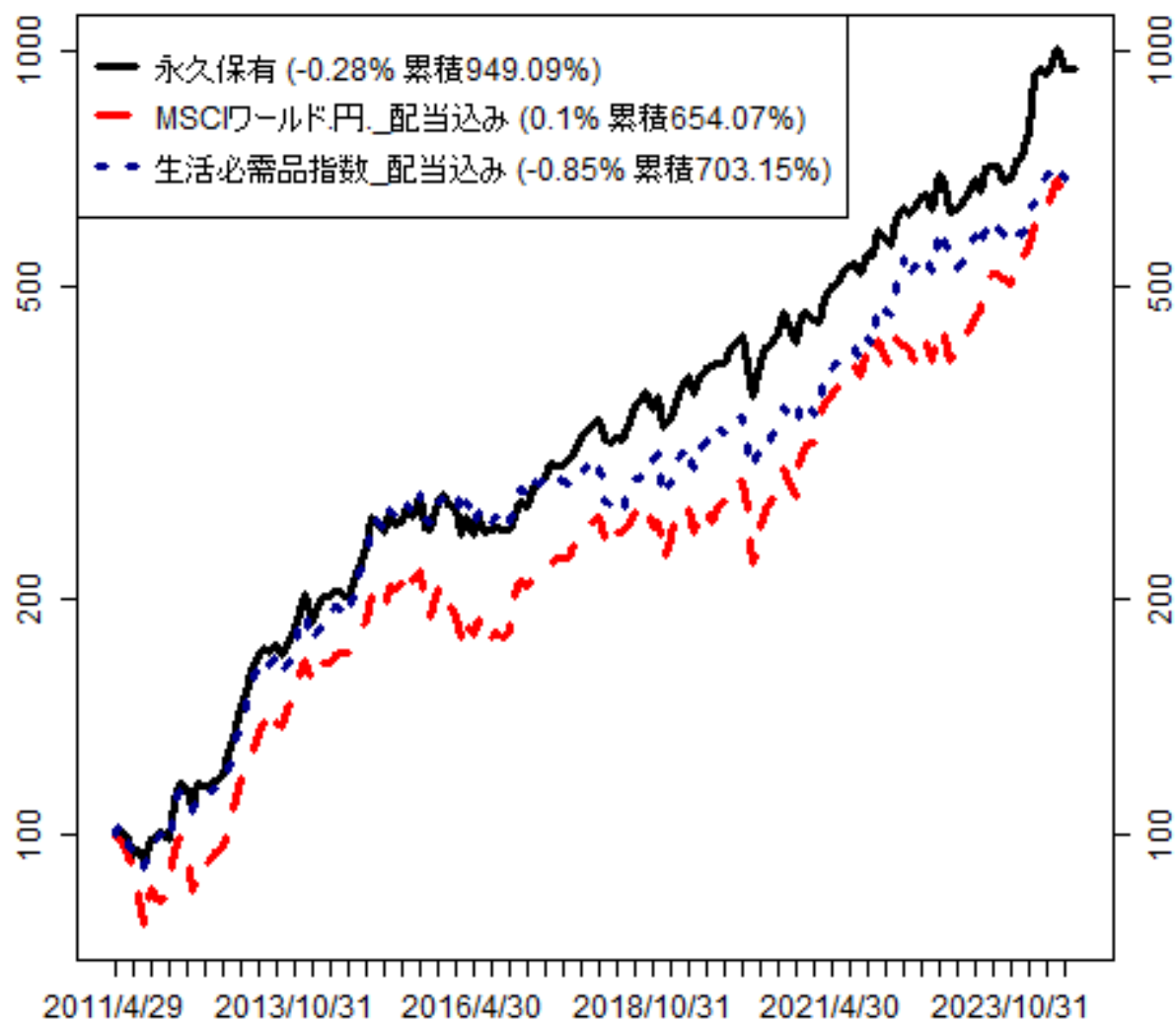
「永久保有」は必需品銘柄とほぼ同等の下落。債券 ETF はかなりマシな下げと前月過小評価分の利益約 0.21%が加わって米国生活必需品指数を 0.57 ポイント上回りました。

「グローバルマクロ」は永久保有部分のマイナスの上に強烈な「逆流」を食らって MSCI ワールド指数に対し 2.85 ポイント下回りました。

「個別銘柄」も債券 ETF がドル円下落をカバーできず、かつ強烈な「逆流」を食らって MSCI ワールド指数に対し 3.03 ポイント下回りました。

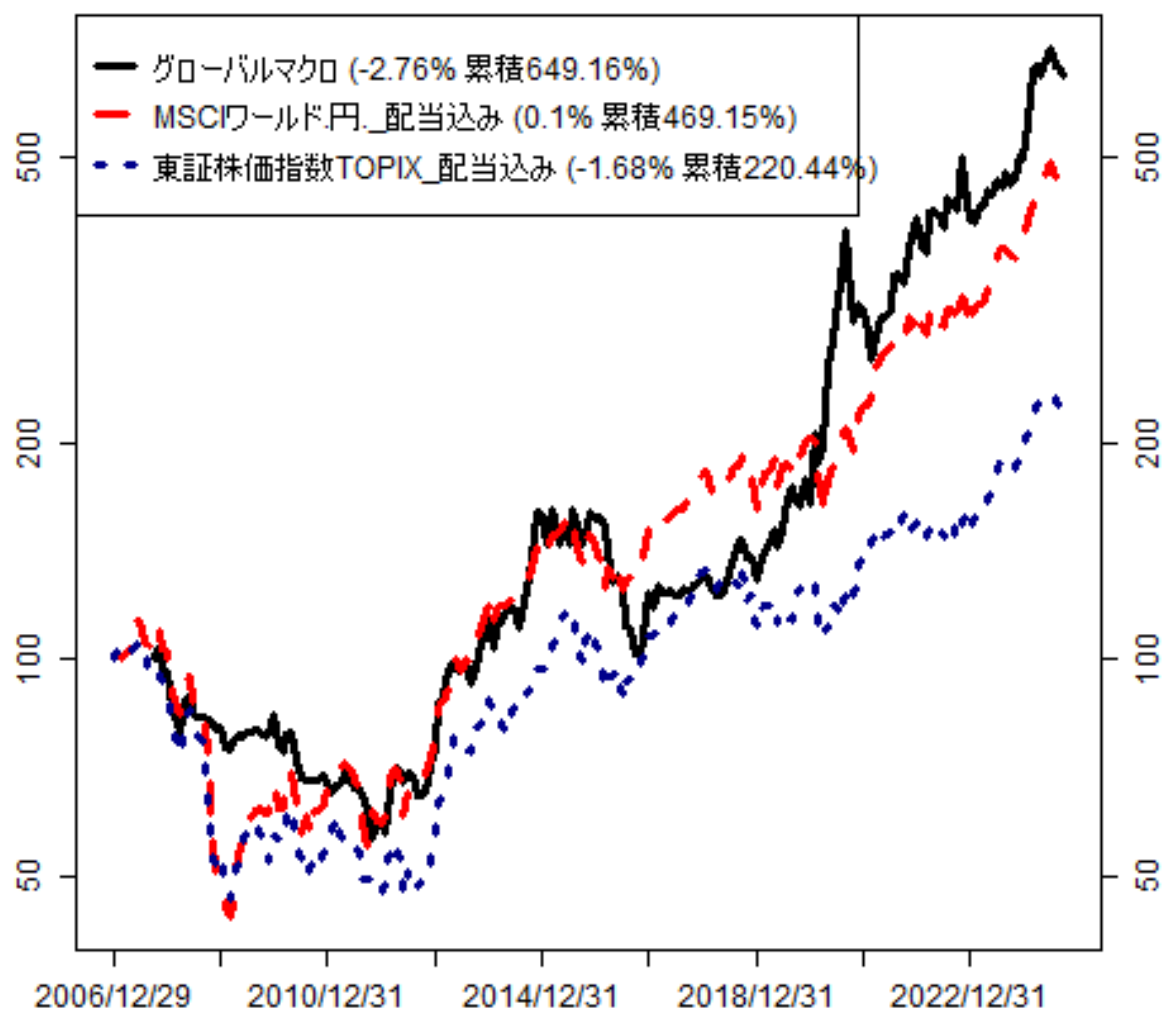
- -0.28% 永久保有
- -2.75% グローバルマクロ
- -2.93% 個別銘柄

永久保有ポートフォリオ

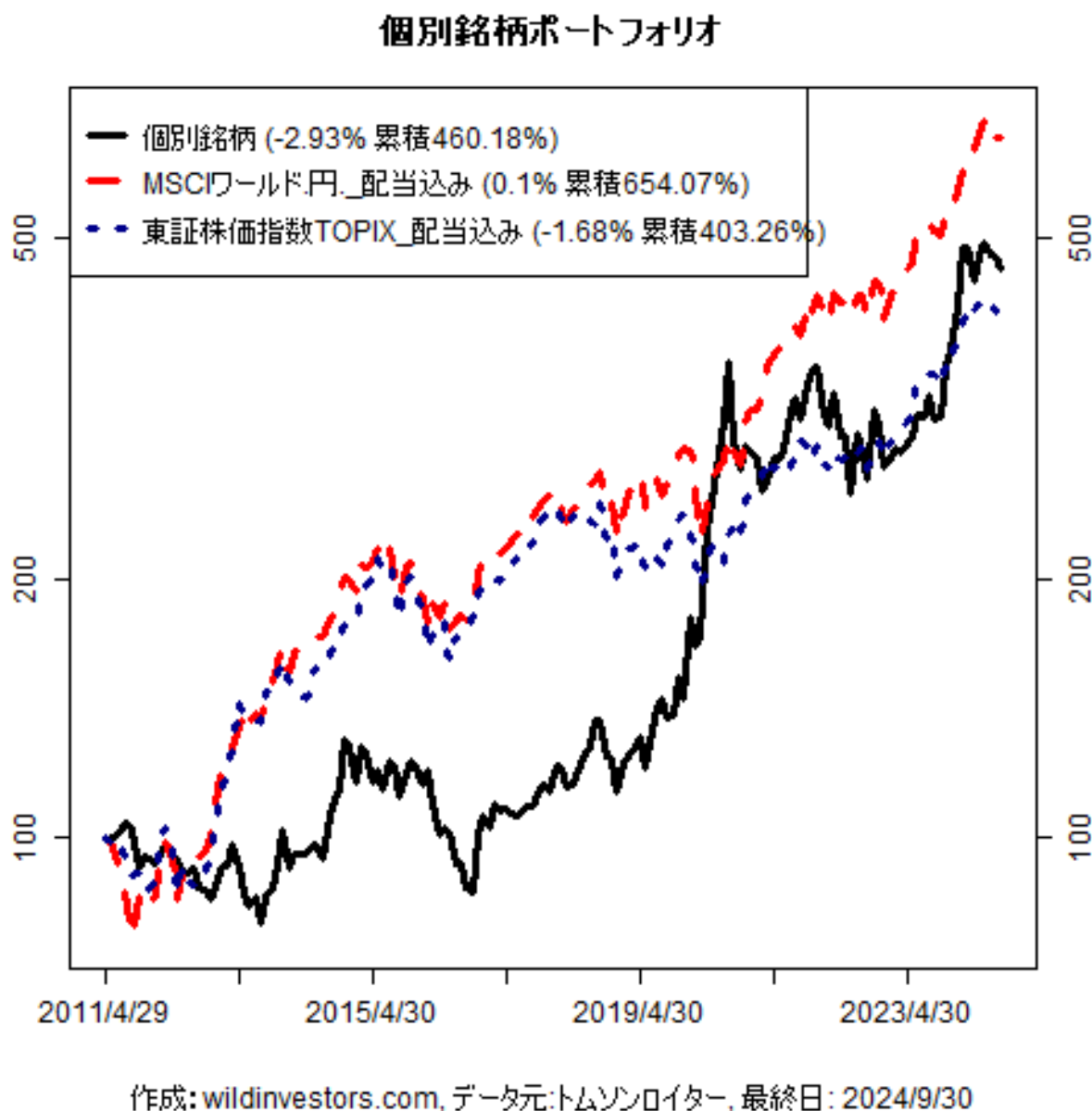


作成:wildinvestors.com, データ元:トムソンロイター, 最終日: 2024/9/30

グローバルマクロ(過去から引き継ぎ)



作成:wildinvestors.com, データ元:トムソンロイター, 最終日: 2024/9/30



4. 雇用統計と CPI 予想上回り利下げ観測後退

2024 年 09 月の米 CPI は予想を上回る伸び。

「住宅関連と食品が前月比上昇率の 75% 余りを占めた。低下基調にあった財の価格も上昇」とのことなので、それらが期待したほど下がらなかったようです。

これにより 11 月 FOMC で利下げが見送られるとの見方が台頭し、米長期金利が一段と上昇しました。

=====

米C P I、9月は予想を上回る伸びーインフレ鈍化の流れ休止

2024年10月10日 21:41 JST 更新日時 2024年10月10日 23:36 JST

<https://www.bloomberg.co.jp/news/articles/2024-10-10/SL5476DWX2PS00?srnd=co.jp-v2>

コアC P Iは前月比0.3%上昇、市場予想0.2%上昇

財のコア価格、2023年6月以降で2回目の上昇

9月の米消費者物価指数（C P I）は市場予想を上回る伸びとなった。物価上昇圧力はこのところ低下傾向にあったが、今回はその動きがいったん止まった。

キーポイント

変動の大きい食品とエネルギーを除くコアC P Iは前月比0.3%上昇ー市場予想は0.2%上昇

8月は0.3%上昇

前年同月比では3.3%上昇ー予想は3.2%上昇

8月は3.2%上昇

総合C P Iは前月比0.2%上昇ー予想0.1%上昇

8月は0.2%上昇

前年同月比では2.4%上昇ー予想2.3%上昇

8月は2.5%上昇

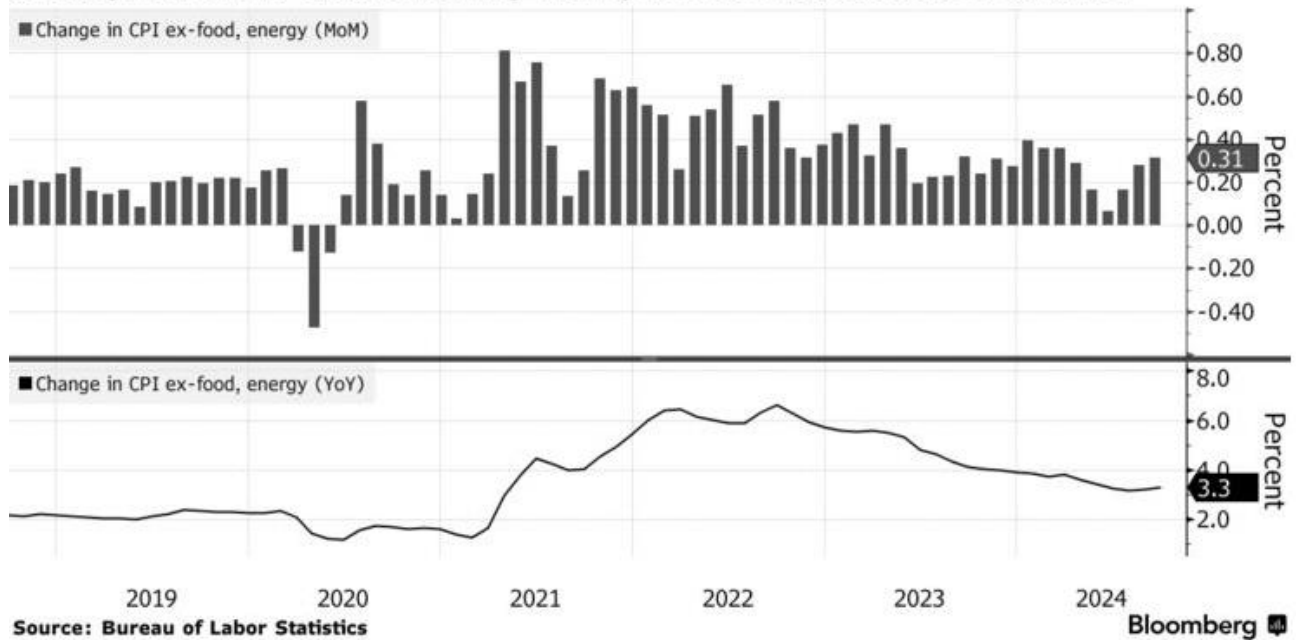
ブルームバーグの算出によると、コア指数は過去3カ月の年率では3.1%上昇と、5月以来の大きな伸びとなった。

一方、総合C P Iの前年比の伸びは市場予想ほどは鈍化しなかったが、なお2021年序盤以来の低い伸び。エネルギー価格の下落が主な要因だった。

9月は住宅関連と食品が前月比上昇率の75%余りを占めた。低下基調にあった財の価格も上昇した。

US Core Inflation Rises More Than Forecast

Goods prices climb most since May 2023, core services costs also advance



US Core Inflation Rises More Than Forecast | Goods prices climb most since May 2023, core services costs also advance

4日に発表された9月雇用統計が市場予想を上回る強さを示したことと合わせ、今回のCPIは11月の連邦公開市場委員会（FOMC）会合での利下げを巡る議論を一段と活発化させる公算が大きい。市場関係者からは小幅な利下げもしくは据え置きとの予想が聞かれる。

フィッチ・レーティングスの米経済調査担当責任者、オル・ソノラ氏は「インフレは沈静化しつつあるが、収束してはいない」と指摘。「予想外に強かった9月雇用統計に続く今回の指標を受け、米金融当局は緩和サイクルのペースについて慎重姿勢を維持するだろう。11月は依然として0.25ポイントの利下げが行われる可能性が高いが、12月については利下げを当然視すべきではない」と述べた。

主な項目

9月は食品とエネルギー商品を除く財のコア価格が前月比で上昇。同価格が上昇したのは23年6月以降ではわずか2回目。新車と中古車、衣料品や家具の値上がりが影響した。食品価格の伸びは1月以来の大きさとなった。特に卵や生鮮果物の値段が上がった。

サービス項目では自動車保険や医療費、航空運賃の上昇が目立った。スポーツイベントのチケット代は10.9%の大幅上昇。フットボールシーズンの開幕を一部反映している。

サービス分野で最大部分を占める住居費は0.2%上昇。8月の0.5%上昇からは大きく減速した。持ち家のある人がその家を賃貸する場合の想定家賃である帰属家賃（OER）は0.3%上昇で、同じく前月から鈍化した。ホテル宿泊費は低下した。

ブルームバーグ・エコノミクスのアナ・ウォン、スチュアート・ポール両氏は「コアCPIは上振

れたが、今回の統計はインフレが鈍化傾向にあるという FOMC の見解に変更を迫るものではない。11 月 6、7 両日の次回会合で 25 ベーシスポイント（b p、1 b p=0.01%）の利下げをわれわれは見込む」と述べた。

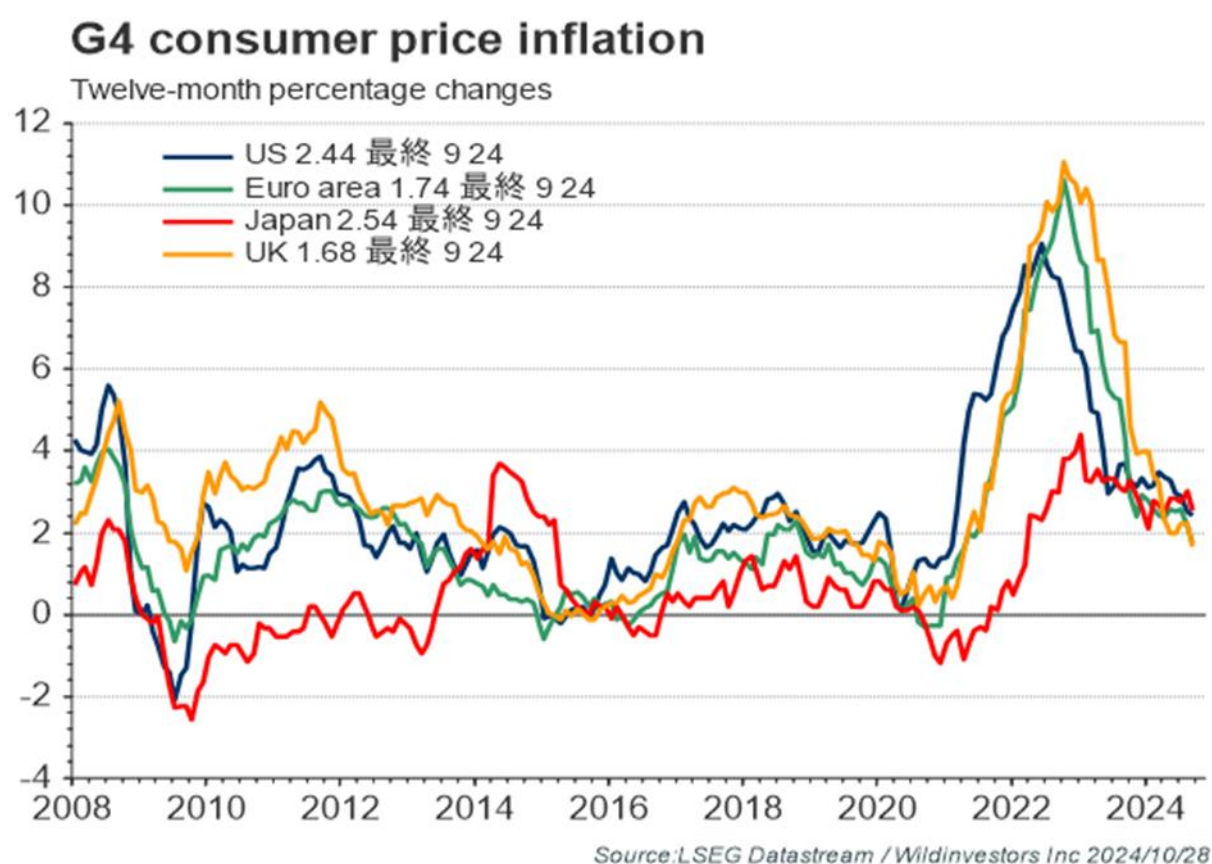
ブルームバーグの算出によると、住宅とエネルギーを除いたサービス価格は 0.4% 上昇し、4 月以来の大幅上昇。伸びは 3 カ月連続で加速し、23 年序盤以来で最長となった。

米金融当局は賃金の伸びにも注目している。別の統計によれば、9 月の実質平均時給は前年同月比で 1.5% 上昇と、23 年 6 月以来の大幅な伸びとなった。（略）

=====

主要国のインフレ（総合 CPI）を前年比で見ると **ユーロ圏** だけが横ばいで **米国・英国・日本** は大きめの低下（**図表 4**）。**米国・ユーロ圏** は金融引き締めが効いてきて、景気がスローダウンしているのでしょう。**日本** は円安の影響で遅れて物価が上昇していた印象でしたが、エネルギー価格低下のためか下げ始めてきました。

図表 4 主要国インフレ

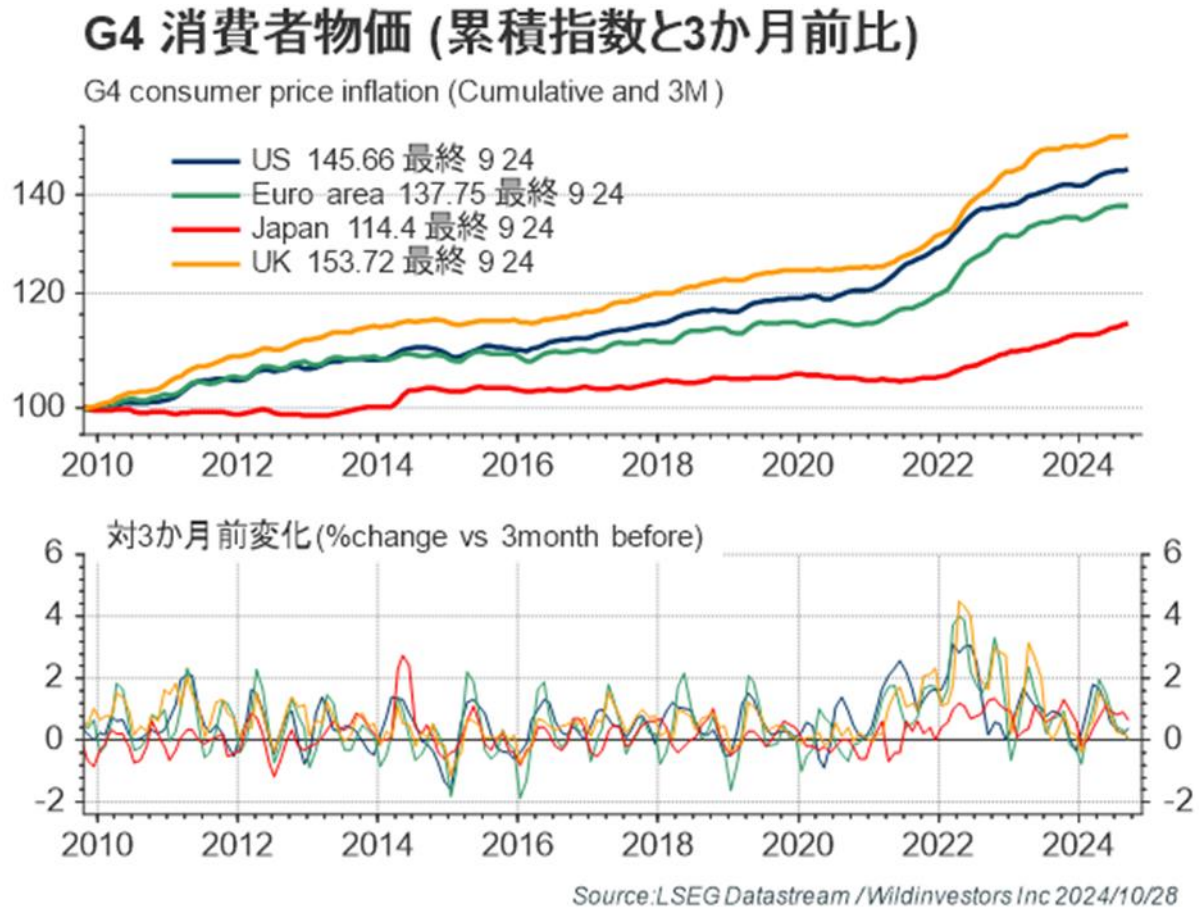


これを累積指数（3 か月移動平均、対数目盛）で確認します（**図表 5**）。いつも書いているように

「12月に底をつけ、3-5月ぐらいにピークをつける」シ クリカリティ（循環性）

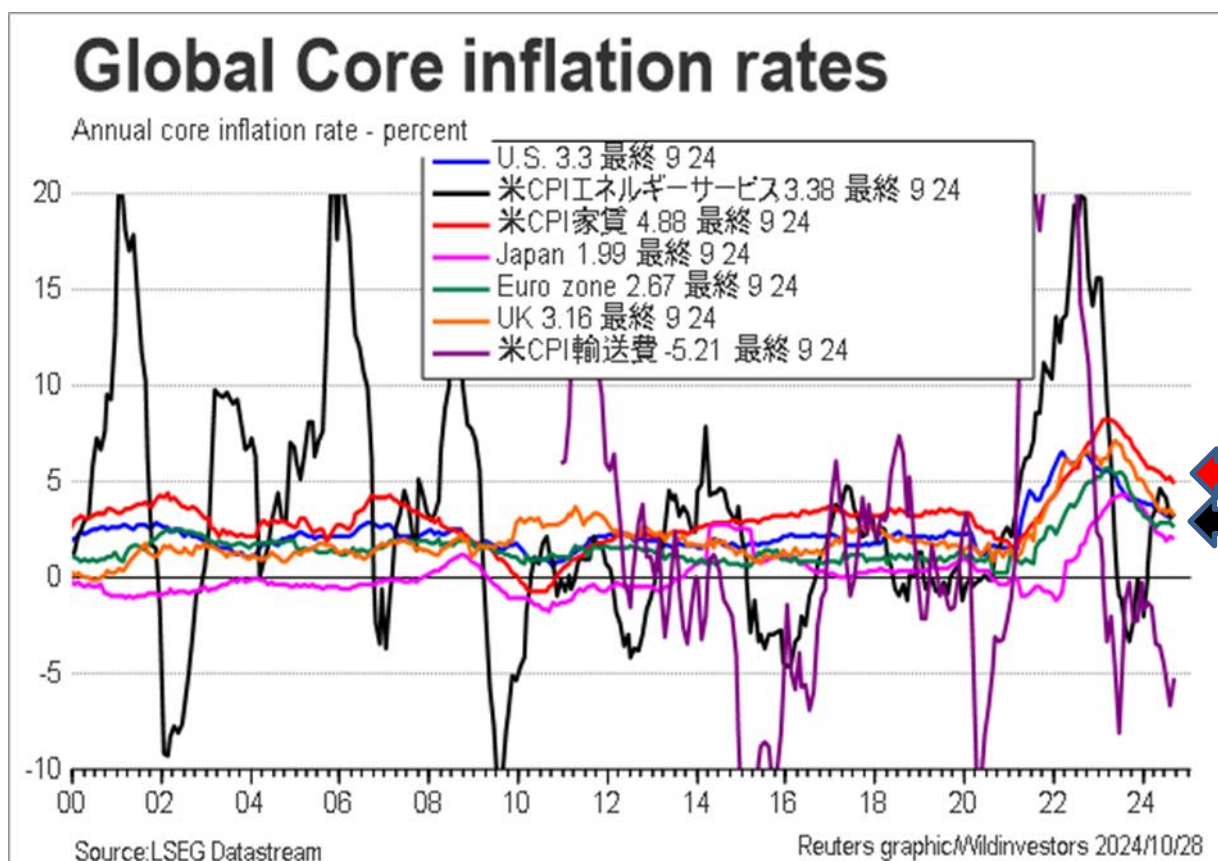
が見て取れます（下段パネル）。その季節性から見るとどの国も例年より少し早くピークを付け、ユーロ圏以外は前年比でも順当に下げています。ここでも日本が遅れて下げ始めました。

図表 5 主要国インフレ（累積指数と3か月前比）



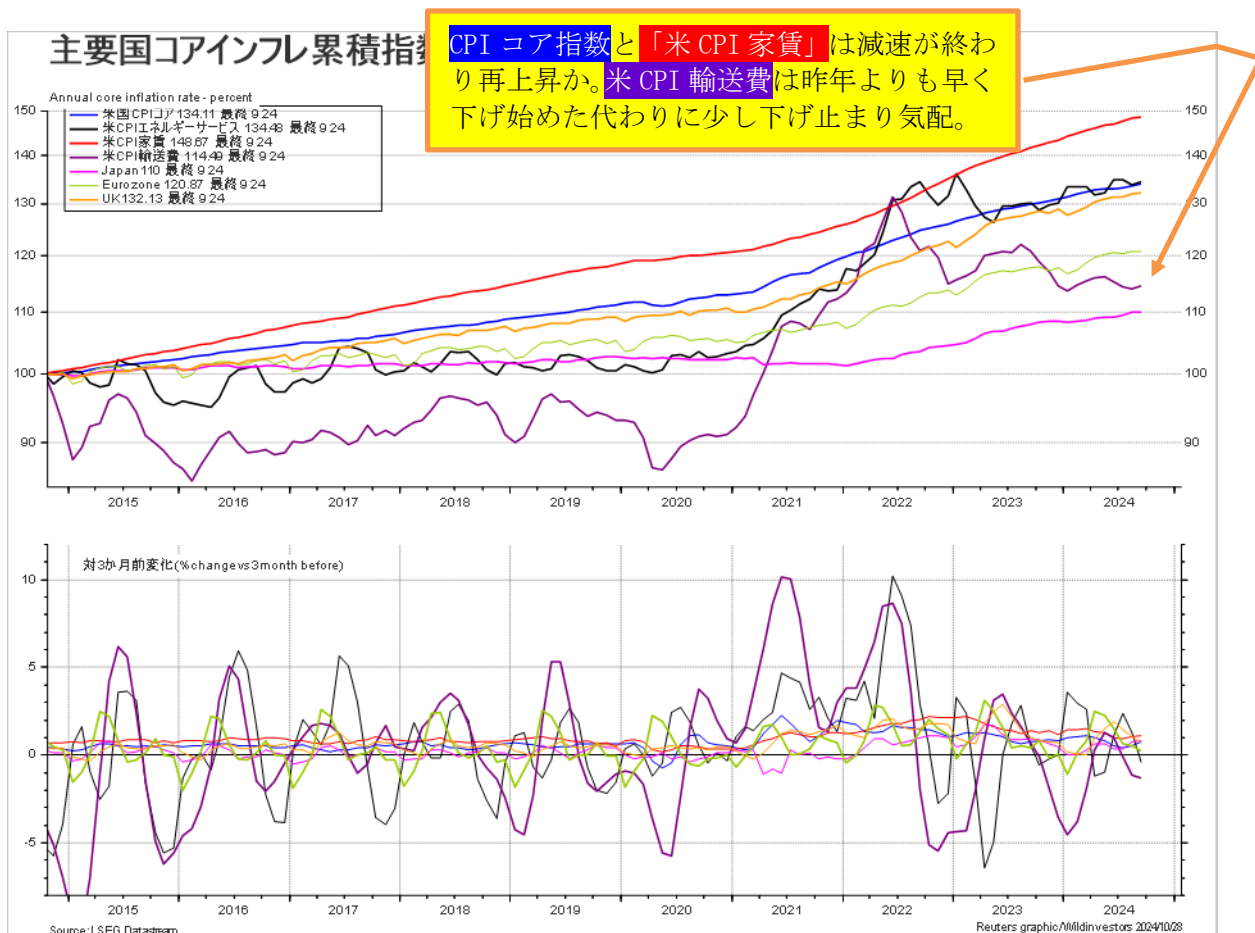
各国のコアインフレ率を前年比で較べると米国は3.2%から3.3%へ上昇（図表6）。そしてエネルギーサービスも+3.06%から+3.38%へ若干反発しました。「米CPI家賃」は5.25%から4.88%へ低下。先月から米CPI輸送費を追加したのですが、これはエネルギーサービスに先行しているように見えます。ただし直近の下落傾向から底打ちのようなチャートになっています。

図表 6 主要国コアインフレ



念のため、上記のチャートを累積指数（対数目盛）で観察します（図表 7）。下段の3か月前比のパーセンテージ変化を見ると **CPI コア指数** と **「米CPI 家賃」** は減速が終わって再上昇しはじめたようにも見えます。**「米CPI エネルギーサービス」** 3か月前変化は6-7月に最も上昇し、11月に底打ちし、2月にまた小さな山を作り、4月にかけて下げる季節性があります。それによると8月になって順当に下げ始めた感じがします。先月から追加した **米CPI 輸送費** にも季節性があり、昨年よりも早く下げ始めた代わりに少し下げ止まり始めています。

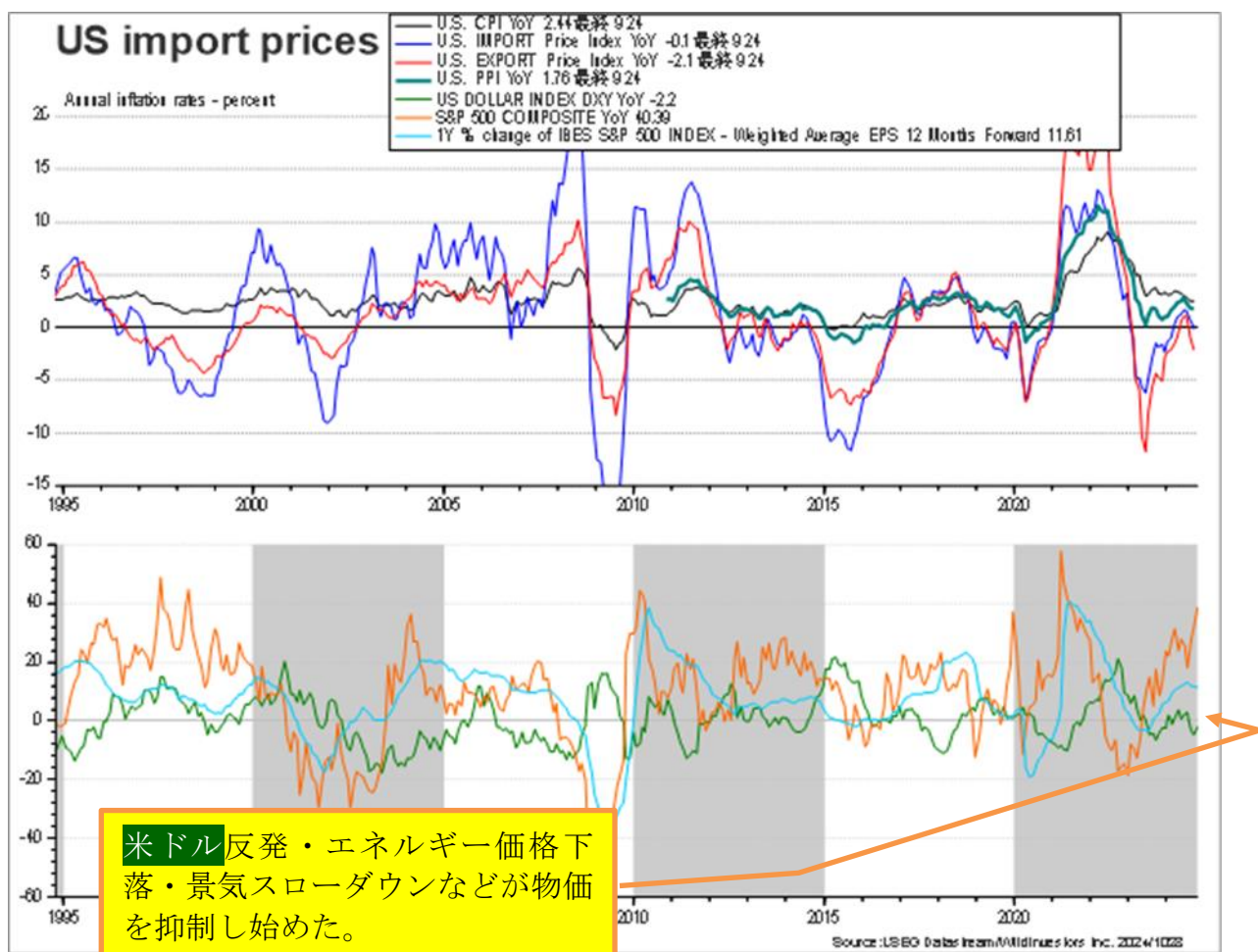
図表 7 主要国コアインフレ（累積指数）



5. 輸出入物価はドル高・エネルギー下落・景気スローダウンでさらに低下

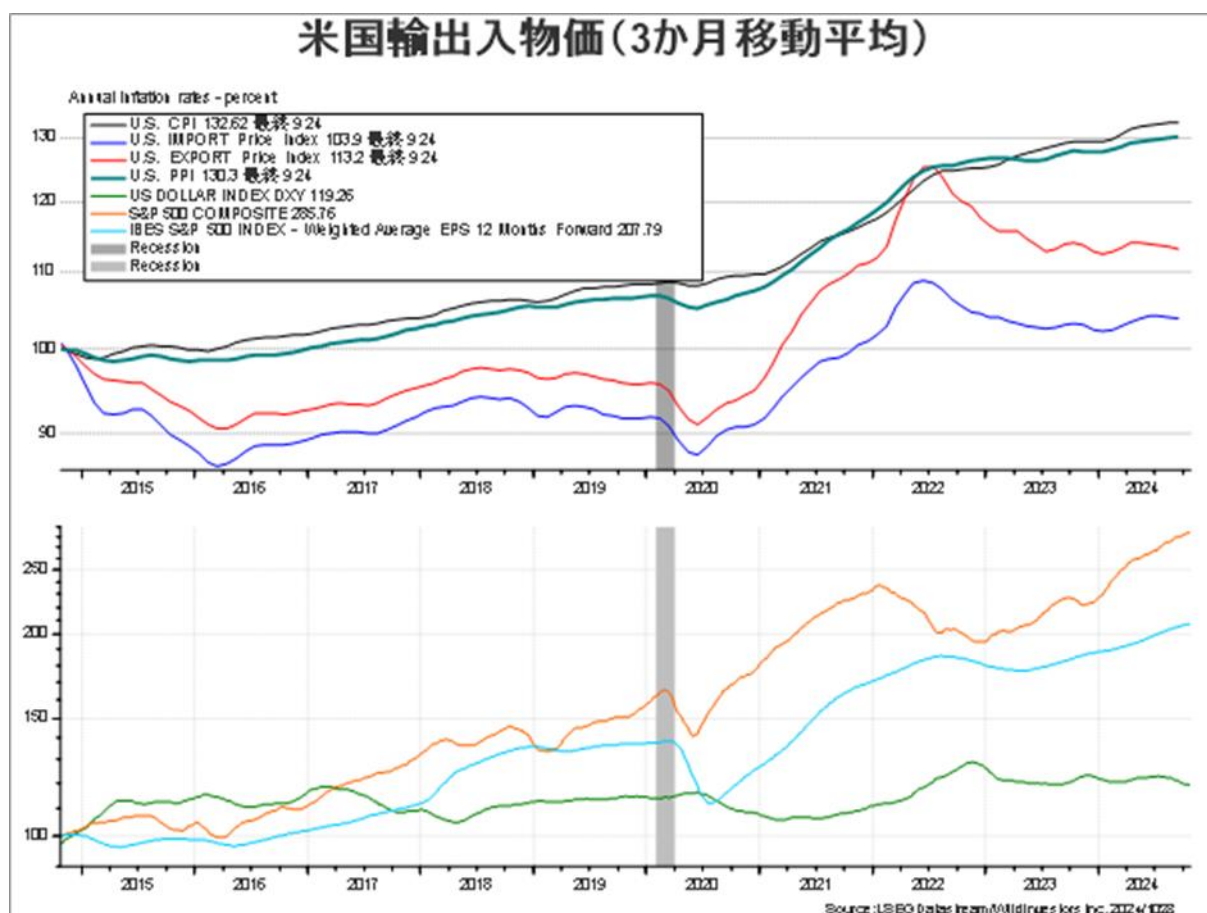
2024 年 09 月の米**輸入物価**は前年比-0.1%と前月の+0.8%からマイナス圏に逆戻り。さらに**輸出物価**は前年比-0.7%から-2.1%へマイナスが拡大しています（**図表 8**）。今年に入ってから**米ドル**が強くなった影響が遅れて出てきたことと、エネルギー価格下落や景気スローダウンが影響したと思われます。

図表 8 米国の輸出入物価、ドル円、株価指数



図表 9 の累積指数（3 か月移動平均、対数目盛）を見ても輸出物価と輸入物価は低下がはっきり見えます。これには季節要因もあると考えられます。

図表 9 米国輸出入物価、ドル円、株価指数（3 か月移動平均）



6. 11 月 12 月それぞれ 25bp 利下げ、ターミナルレートも大幅縮小。

雇用統計や CPI を受けて短期金融市場は利下げ予想を大幅に縮小しました。1 か月前との比較で

- 11 月 FOMC で 25bp、12 月に 50bp だったのが 12 月は 25bp に縮小
- 「来年 09 月に 200bp 下げ 2.75-3.00%」になるとのターミナルレート(最終到達金利)予想が「来年 07 月に 125bp 下げ 3.50-3.75%」へと縮小。

となっています。インフレ低下の中で経済指標や企業業績が堅調なことから、**ゴールドロックス**シナリオが支持されています。

図表 10 CME の FedWatch ツールによる利下げ予想

2024/10/28



11月と12月にそれぞれ 25bp、利下げ予想が縮小

09月19日
FOMC直後

09月19日
FOMC直後

CME FEDWATCH TOOL - CONDITIONAL MEETING PROBABILITIES											
MEETING DATE	250-275	275-300	300-325	325-350	350-375	375-400	400-425	425-450	450-475	475-500	
2024/11/07					0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	96.9%	3.1%	
2024/12/18	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	73.0%	26.3%	0.8%	
2025/01/29	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	48.4%	42.0%	9.4%	0.3%	
2025/03/19	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	36.3%	43.6%	17.5%	2.5%	0.1%	
2025/05/07	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	19.2%	40.2%	29.8%	9.6%	1.2%	0.0%	
2025/06/18	0.0%	0.0%	0.0%	10.6%	30.7%	34.5%	18.7%	5.0%	0.6%	0.0%	
2025/07/30	0.0%	0.0%	3.3%	16.8%	31.9%	29.6%	14.4%	3.6%	0.4%	0.0%	
2025/09/17	0.0%	1.1%	7.7%	21.8%	31.1%	24.6%	10.9%	2.6%	0.3%	0.0%	
2025/10/29	0.2%	2.4%	10.6%	23.7%	29.8%	21.8%	9.2%	2.1%	0.2%	0.0%	
2025/12/10	0.6%	3.9%	12.9%	24.7%	28.4%	19.6%	7.9%	1.8%	0.2%	0.0%	

MEETING DATE	175-200	200-225	225-250	250-275	275-300	300-325	325-350	350-375	375-400	400-425	425-450	450-475
2024/11/07								0.0%	0.0%	0.0%	37.8%	62.2%
2024/12/18			0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	15.6%	47.8%	36.6%	0.0%
2025/01/29	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	6.2%	28.5%	43.3%	21.9%	0.0%	0.0%
2025/03/19	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	1.3%	10.9%	31.6%	38.8%	17.3%	0.0%	0.0%	0.0%
2025/05/07	0.0%	0.0%	0.0%	1.1%	9.5%	28.7%	37.8%	20.4%	2.5%	0.0%	0.0%	0.0%
2025/06/18	0.0%	0.0%	0.8%	6.9%	22.6%	34.9%	26.0%	8.2%	0.8%	0.0%	0.0%	0.0%
2025/07/30	0.0%	0.3%	3.0%	12.5%	27.0%	31.7%	19.5%	5.5%	0.5%	0.0%	0.0%	0.0%
2025/09/17	0.1%	1.1%	6.1%	17.2%	28.5%	27.7%	15.0%	3.9%	0.3%	0.0%	0.0%	0.0%
2025/10/29	0.2%	1.6%	7.1%	18.3%	28.4%	26.5%	13.9%	3.6%	0.3%	0.0%	0.0%	0.0%

2

<https://www.cmegroup.com/ja/markets/interest-rates/cme-fedwatch-tool.html>

(出所：) CME フェド・ファンด์・ツール

↓の左タブから probabilities をクリック。

<https://www.cmegroup.com/ja/markets/interest-rates/cme-fedwatch-tool.html>

7. コモディティは横ばい

WTI 原油先物は中東情勢緊迫化で一時 80 ドルを目指す勢いでしたが、イスラエルの対イラン攻撃が抑制的なものであったため反落して 60 ドル台後半に逆戻り（図表 11）。私は引き続き原油が下がりにくいと考えているのですが、以下の条件にもかかわらず安くなっています。「世界景気スローダウン」と「減産の足並みが揃わない」ことが上値を重くしているようです。日本にとって景気スローダウンは歓迎できませんが、エネルギー価格下落は追い風となります。

- イランの核施設を破壊するまでイスラエルの攻撃は続くはず
- バイデン政権はいったん緩めたベネズエラやイランへの制裁を再開した
- 中東の騒乱でスエズ運河や紅海を迂回する海路を取る船が増え、コスト上昇

- 米国の石油戦略備蓄 (SPR) は歴史的低水準にあり、いつ買い戻されるかわからない恐怖がある

図表 11 WTI 原油先物



(出所: investing.com <https://jp.investing.com/commodities/crude-oil-streaming-chart>)

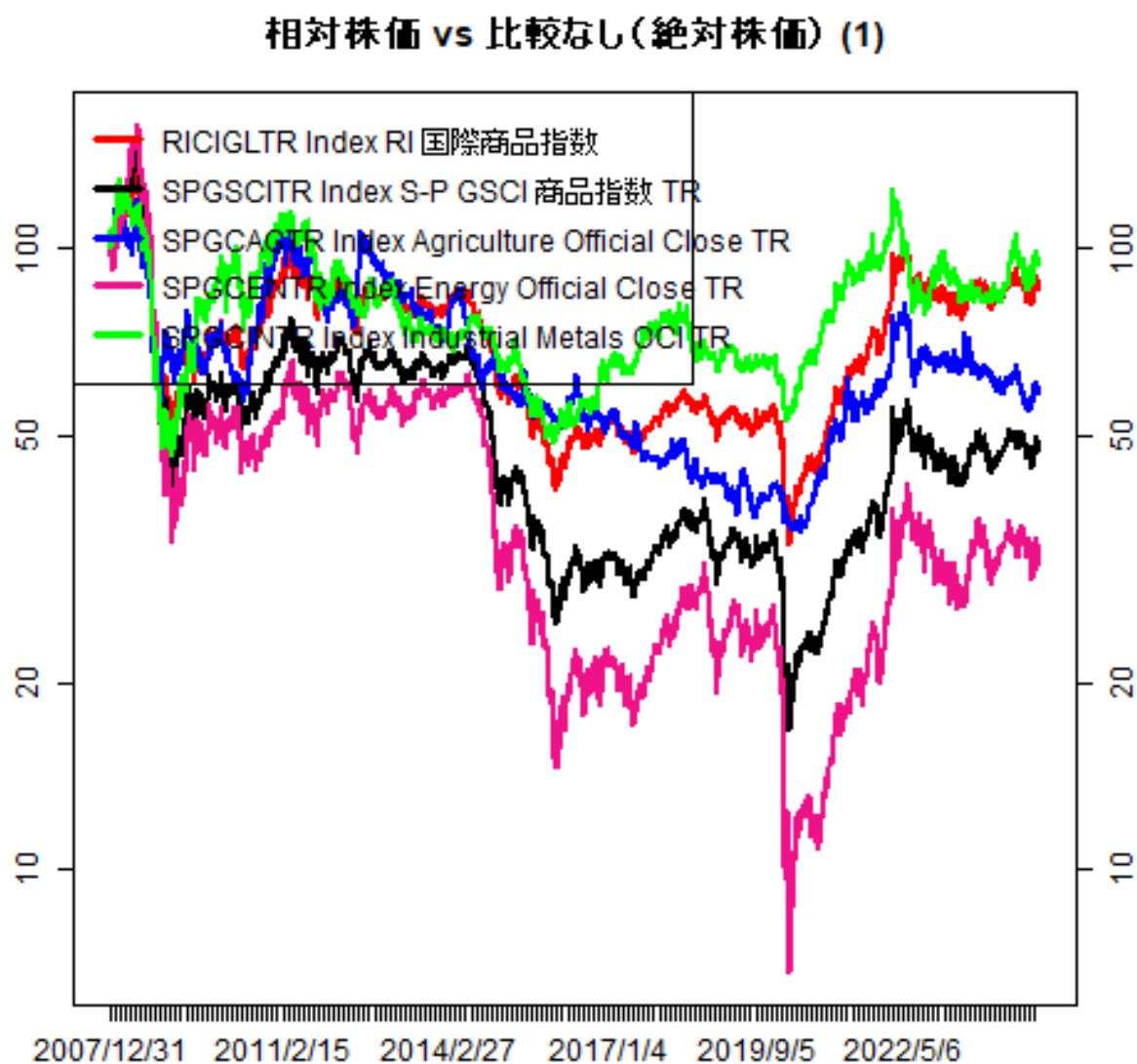
戦略石油備蓄 (SPR) の買戻しは着実に進んでいます (図表 12 上段パネル)。しかし今年 3 月に米エネルギー長官は「今年末の戦略石油備蓄 (SPR) は大規模放出前の水準以上に戻る」と発言したにもかかわらず、増加ペースは非常に緩やかでとても間に合そうにありません (図表 12 上段パネル)。同時に消費量が増えているため (図表 12 上段パネル)、1 日当たりの SPR は横ばいです (同下段パネル)。一日当たり民間備蓄は減少しており、官民合計の 1 日あたり備蓄も低下しています (同下段パネル)。平時であれば景気スローダウンに備えてそれも悪くないのですが、第三次世界大戦中に備蓄を減らすのはわざとなのかと思います。

図表 12 米原油在庫・戦略備蓄 (SPR)



コモディティ指数はほぼ変わらず（図表 13）。エネルギー・産業用金属・食料ともに上昇したあと下げた形です。

図表 13 主要コモディティ指数

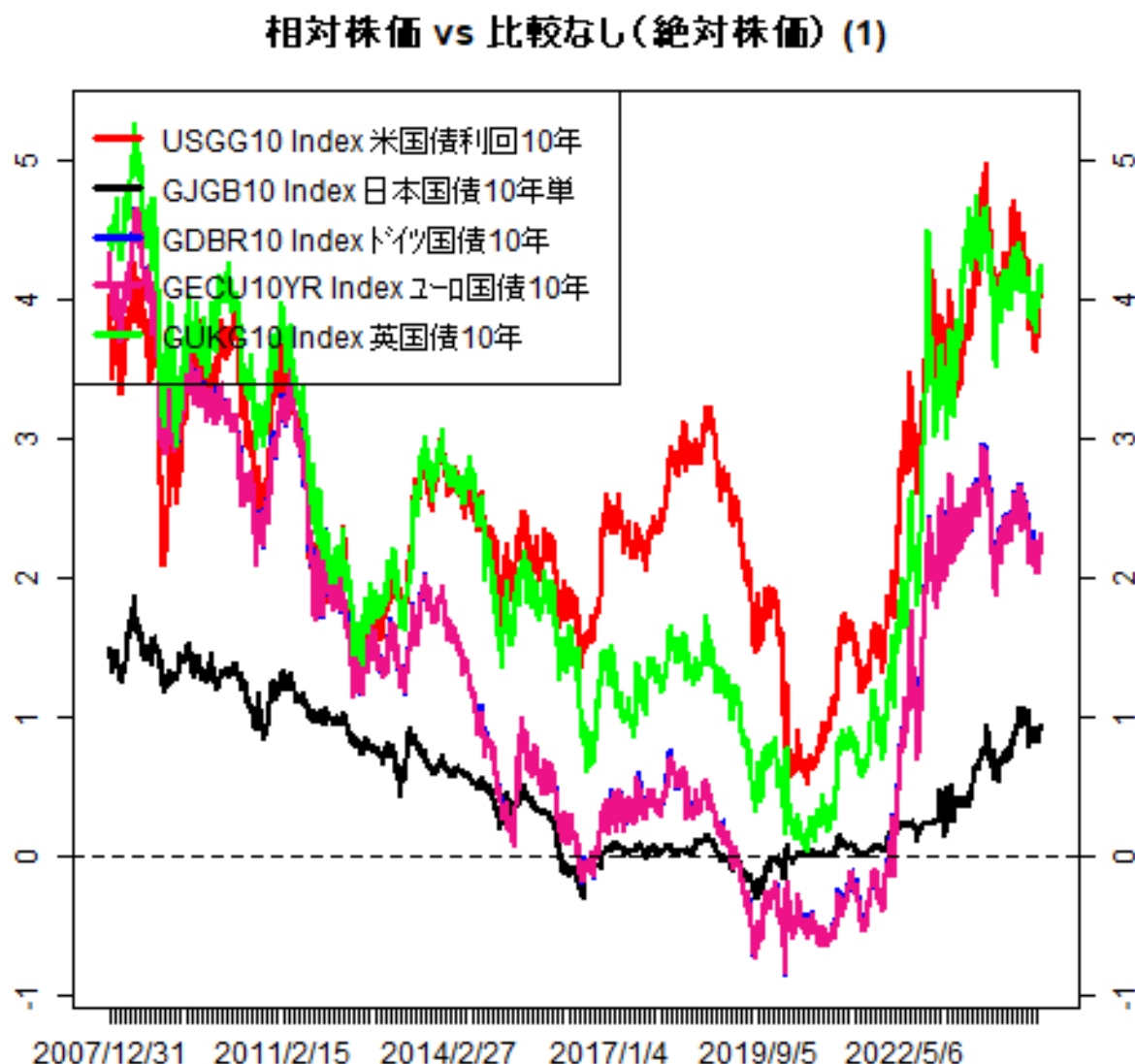


作成: wildinvestors.com, データ元: トムソンロイター, 最終日: 2024/10/25

8. 米中期ゾーン金利が特に上昇

米物価指数が低下を続けて米 10 年国債金利は 3.80% 近辺から 4.20% 超えへ急反発 (図表 14)。それに連れてユーロ・英国・日本の 10 年国債もそれなりに上昇しました。

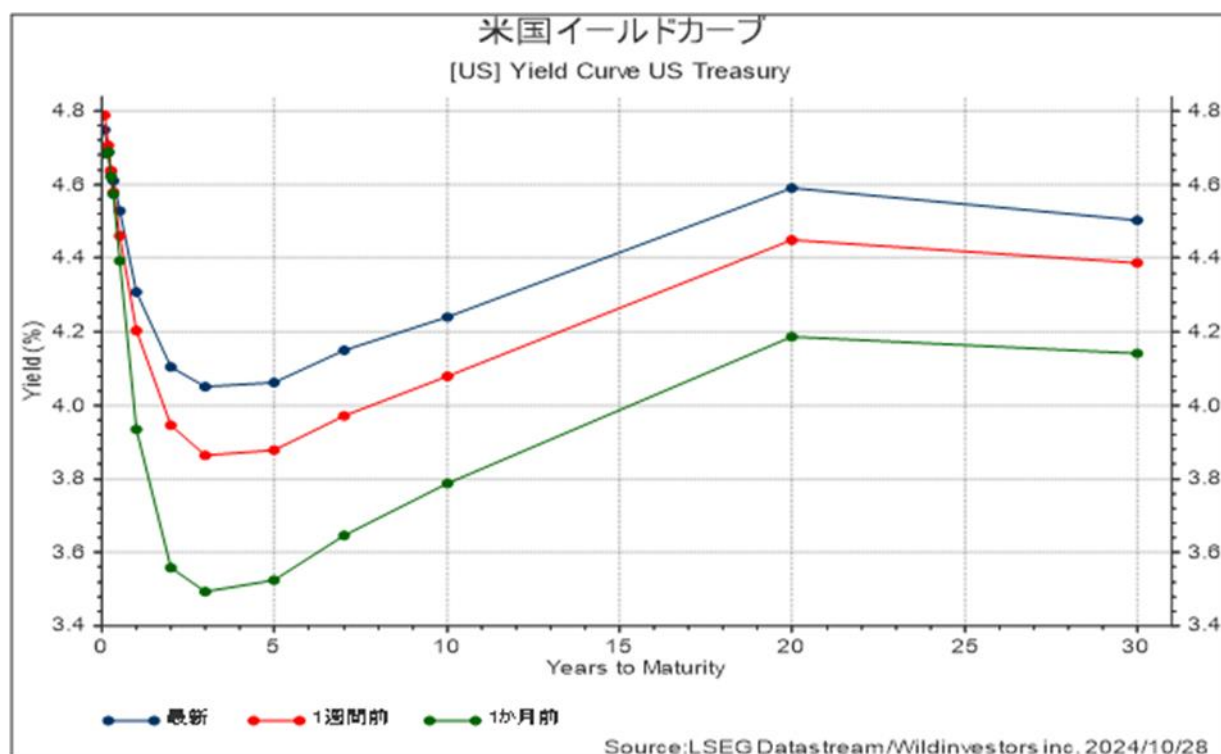
図表 14 主要国 10 年国債金利



作成: wildinvestors.com, データ元: トムソンロイター, 最終日: 2024/10/25

米国国債のイールドカーブは3-5年ゾーンが最も大きく0.5%ポイント超の低下(図表 15)。10年が約0.4ポイント、20年が約0.3ポイント低下したよりも大きく低下しました(図表 15)。3年までは逆イールド、それより長期は順イールドになっています。年内あと50bp利下げされるのであれば、このカーブはほぼ順イールドに戻ります。金利が低下すると債券価格が上昇するので、この動きをブル(強気)フラット化と呼びます。世界中の投資資金が米国に集中すると、新興国はいずれ資金不足に陥る可能性が高いです。するとドットコムバブルの途中で見られた 1997-98 年のアジア・ロシア危機 と同じように、「新興国連鎖破綻によって短期金利が急低下し順イールドへ復帰」という展開がメインシナリオです。

図表 15 米国イールドカーブ

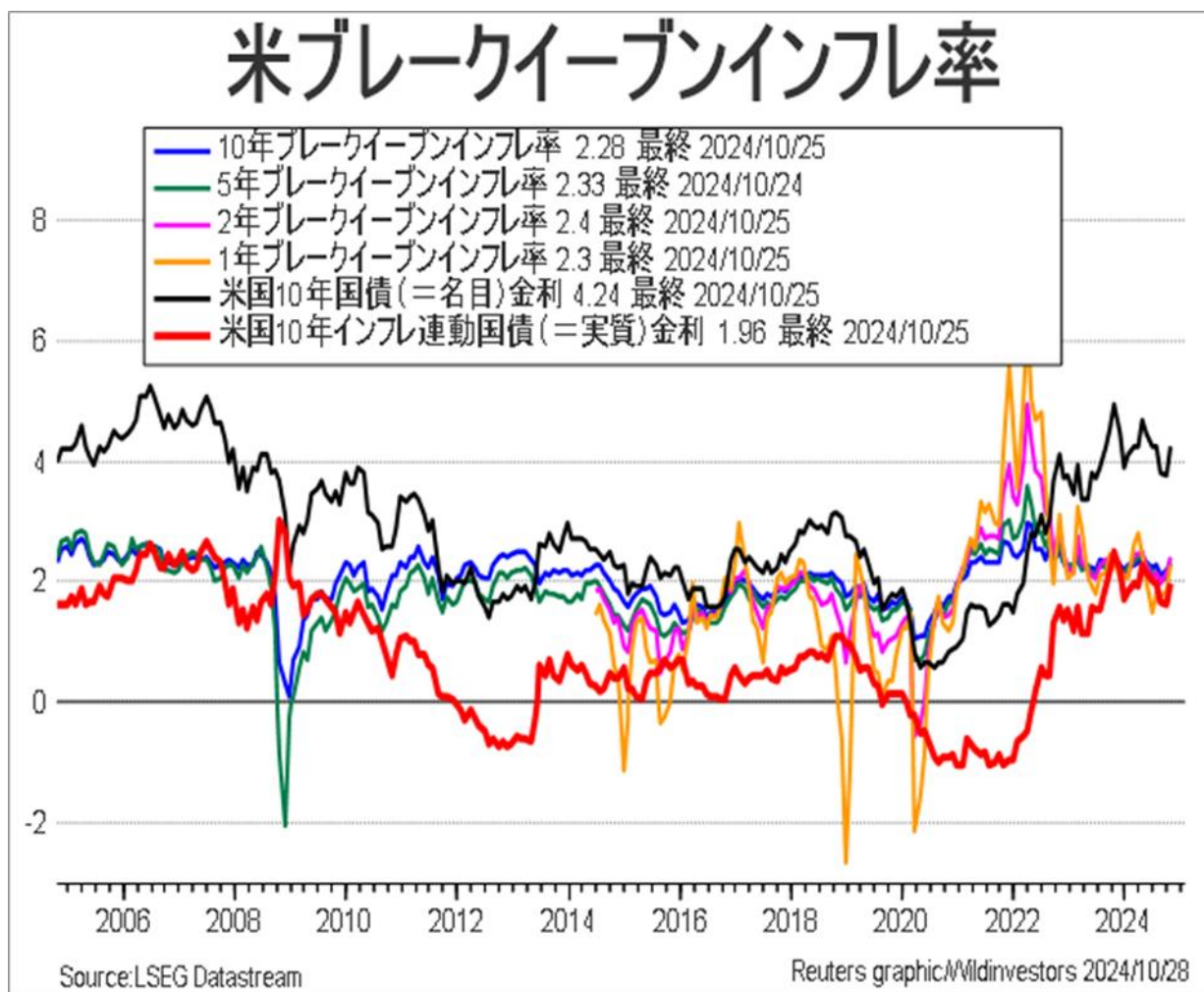


期待インフレ率に等しいとみなされるブレイクイーブンインフレ率(BEI)は **1年**が 1.81%から 2.30% かなり上昇しました (図表 16)。これは「リセッションを織り込み始めているレベル」から

「健全な経済成長を示すレベル」

へと戻ったことを示しています。さらに **2年・5年・10年**と長くなるにしたがって 2.40%-2.28%と ほぼフラット化しています。また、ほぼ実質金利である **米 10 年インフレ連動国債金利**は 1.60%から 1.96%へとかなりの上昇。それでも **この実質金利は世界中の投資家にとって魅力的であり、その差が拡大することによって米国への資金集中が進み「短期的には」ドル高になる可能性がある**と私は考えます。

図表 16 米国のブレイクイーブンインフレ率 (BEI)

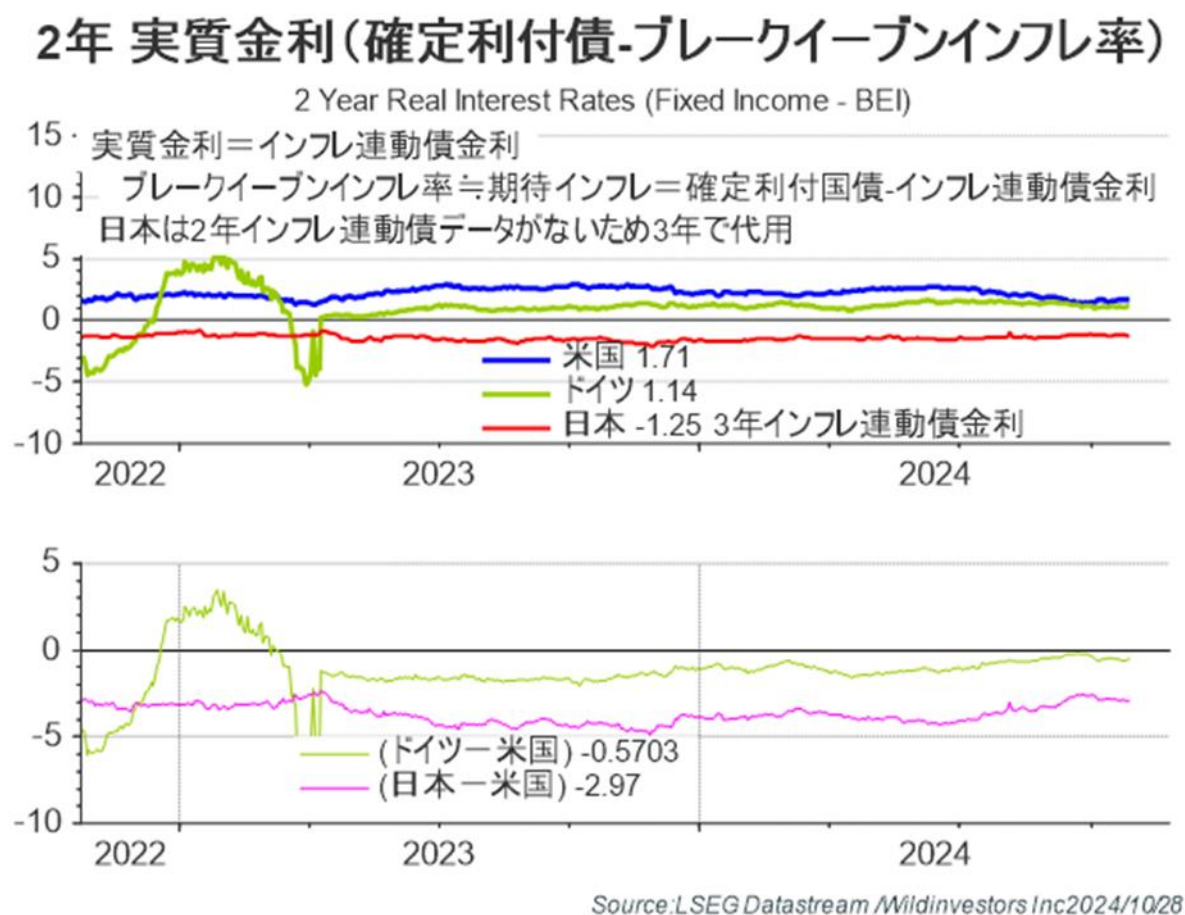


9. 実質金利差再拡大でドル買い円売りキャリートレード再開か

また例によって少し雑なやり方ですが、日米独の**実質短期金利**を確認します。**インフレ連動債金利**あるいは「確定利付債金利」から「ブレイクイーブンインフレ率 (BEI)」を引いた**米国**の2年実質金利は先月の1.41%から1.71%へと反転上昇 (**図表 17**)。一方**ドイツ**も1.24%から1.14%へ小幅低下したため、米国との実質金利差は-0.17%から-0.57%へとマイナスが再拡大しました (同下段パネル)。

日本にはそれらに相当するものがないので3年のインフレ連動債金利で代用します。それによると日本の3年実質金利は-1.21%から-1.25%とわずかに低下。米国の2年実質金利との差は-2.62%から-2.97%へと再拡大しました (同下段パネル)。これが**急速に円安が進んだ一因**となっています。

図表 17 日米独の実質 2 年金利（確定利付債-ブレイクイーブンインフレ率）

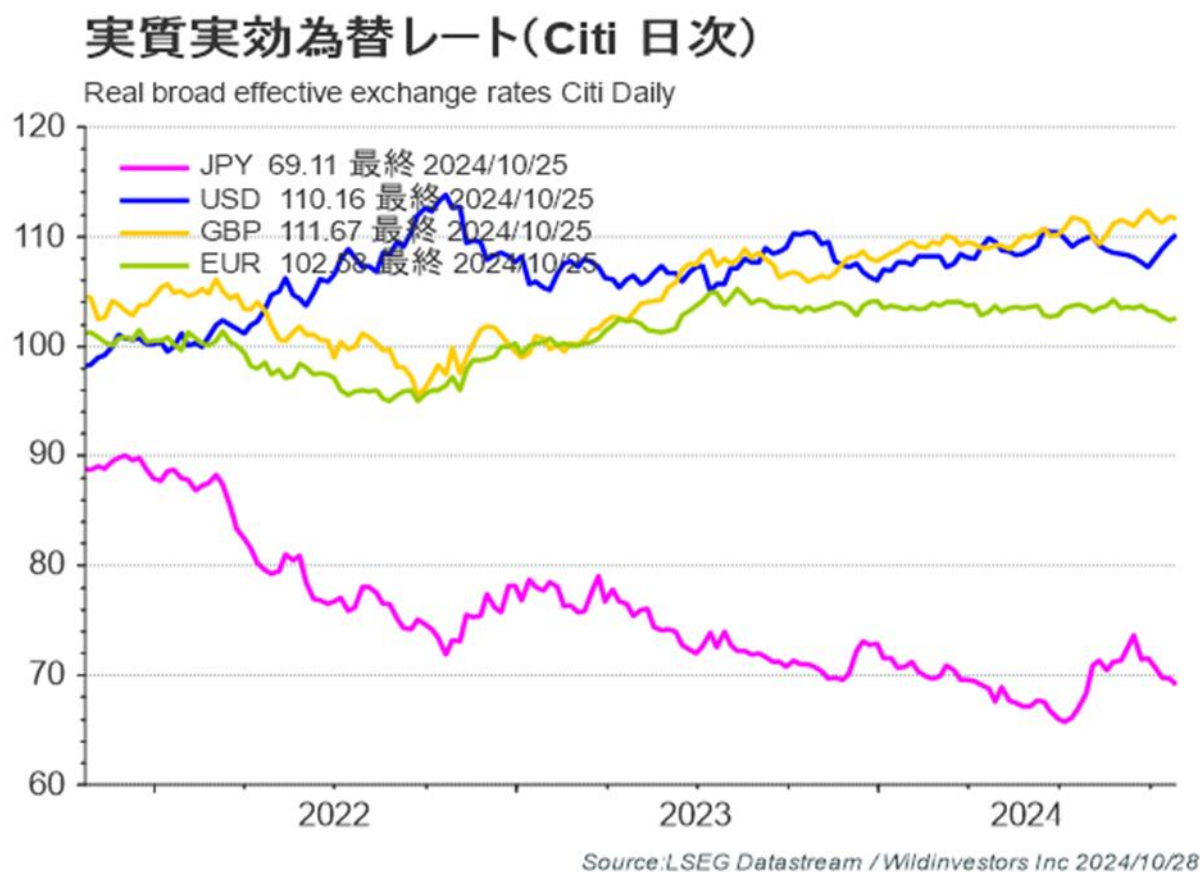


先進国の 4 通貨**実質実効為替レート**は**円**が急反落し、**米ドル**が急反発しました（図表 18）。**ユーロ**はやや下げ、**英ポンド**は横ばいです。米国の利下げペースにブレーキがかかったため、

「金利差に着目した米ドル買い円売りがの
キャリートレードが再開した」

と考えると良いかもしれません。

図表 18 主要通貨の実質実効為替レート



10. ドル円急反発。購買力平価に対しまた乖離を始める。

ドル円は 140 円近辺の安値から一気に 153 円に急反発（図表 19）。日米金利差再拡大でドル円が買い戻されているようです。

図表 19 ドル円は日銀介入水準が定着

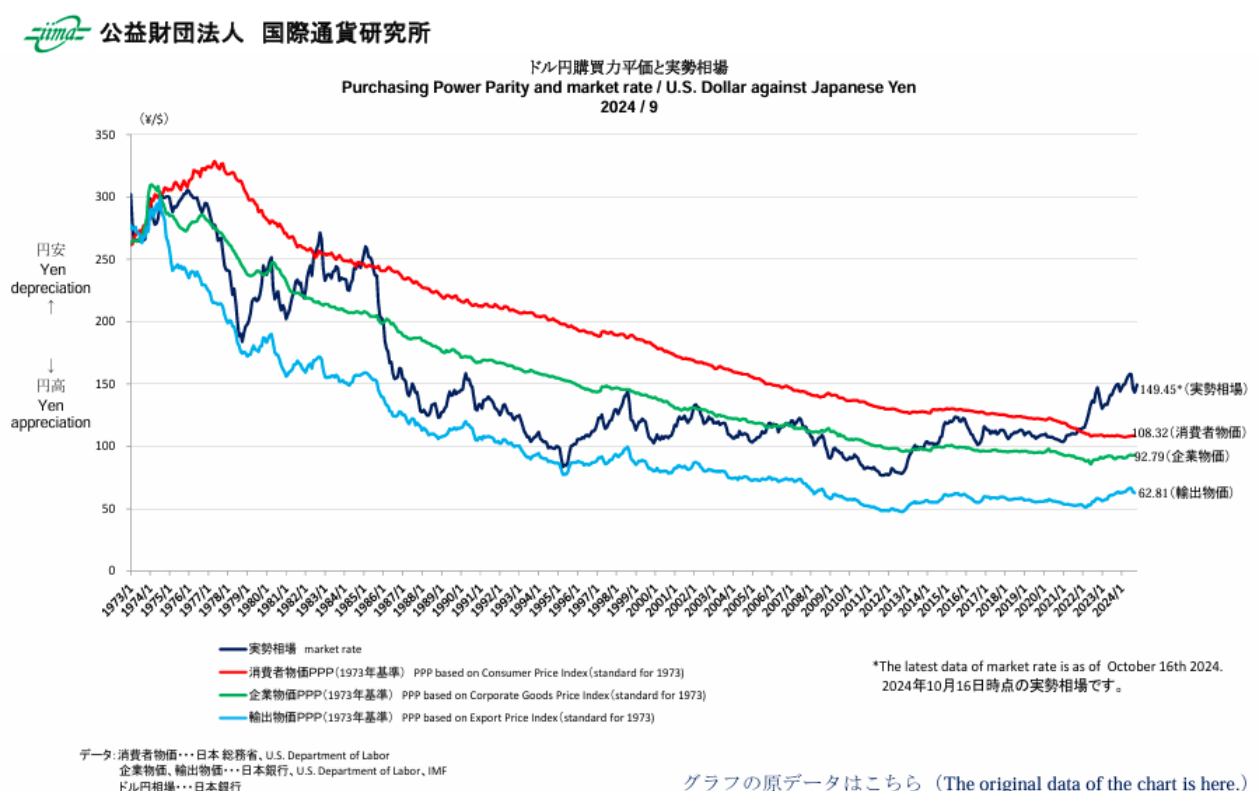


(出所：Zai FX)

<https://zai.diamond.jp/list/fxchart/detail?pair=USDJPY&time=1mon#charttop>

いつもの購買力平価(PPP)チャートを見ると、ようやく円安是正の方向に向かってきたかと思ったらまた乖離を始めました(図表 20)。120 程度の円高、つまり高値から 25%程度のドル円下落はありうると考えていますが、一本調子には行かないようです。

図表 20 （国際通貨研究所）購買力平価

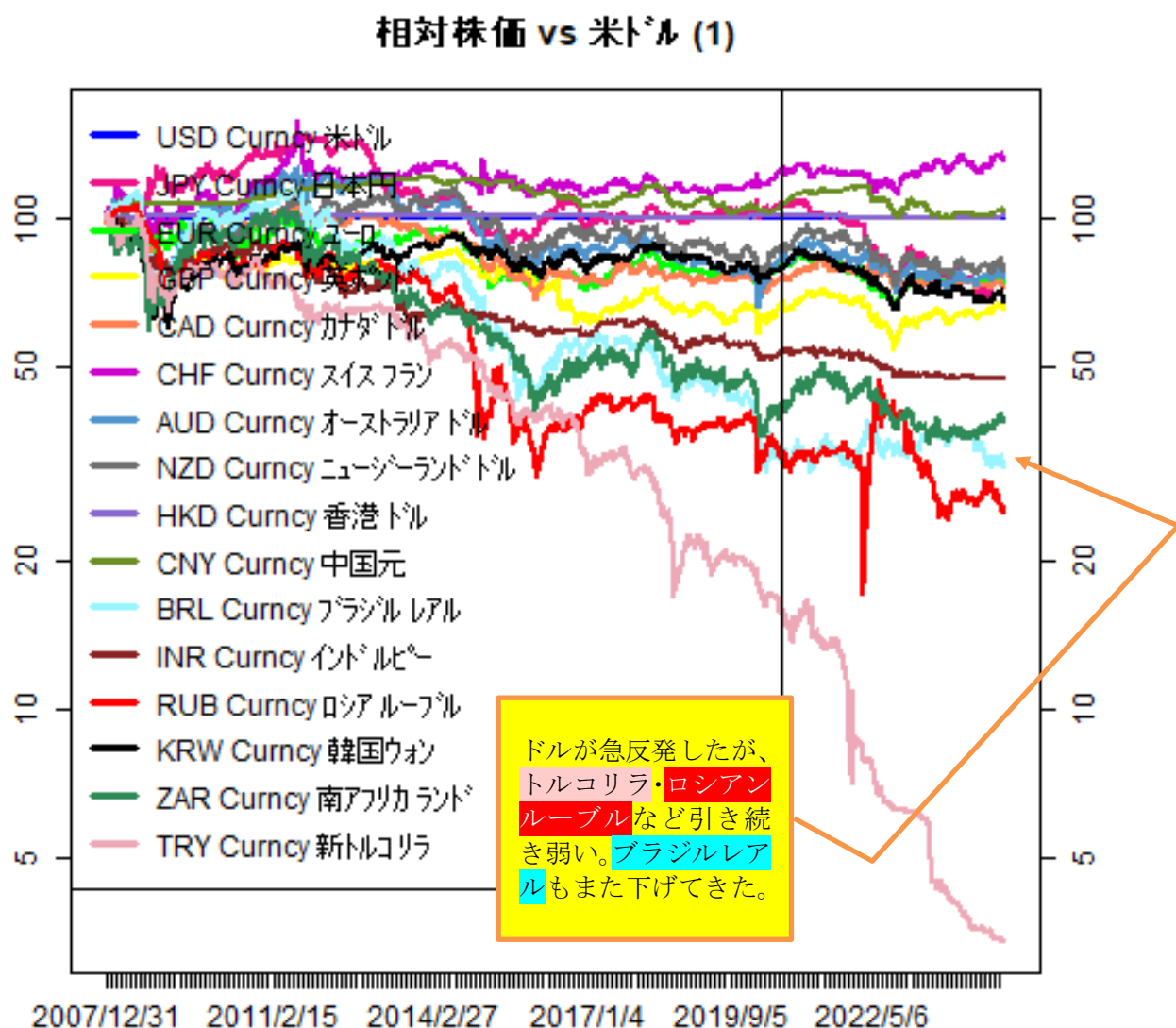


(出所：国際通貨研究所 https://www.iima.or.jp/docs/ppp/doll_yen.pdf)

11. ドル高の中、一部新興国通貨さらに弱さ際立つ

ドルが急反発したため主要通貨は右肩下がりに転じました（図表 21）。新興国通貨の中で弱いものはさらに下げ、特にトルコリラ・ロシアルーブルが弱いです。ブラジルレアルもまた下げてきました。

図表 21 主要国通貨（対ドル）



作成: wildinvestors.com, データ元: トムソンロイター, 最終日: 2024/10/25

人民元は対米ドルで反落継続（＝チャートは上方向）（図表 22）。

これまで「中国から西側への資金引き揚げ」と「中国企業が外国資産を叩き売って国内の損失に充当するリバトリエーション」が拮抗している感じでしたが、10月に入ってからドルが他通貨に対して高くなった影響が出ています。

今の中国は経済対策を次々に打ち出し、

「払えなくなった民間債務を政府債務に付け替える政策」

を行っています。それはまったく正しいのですが、

どうせ中国政府も払えないので 将来的に「債務の貨幣化」を行ってごまかす

しかありません。つまりいずれ、人民元を安くせざるを得ないということです。

「1 ドル 7.3 人民元の水準を超えると人民元はどこまで下がるかわからない」という予想は変わっていませんが、そこまでにはまだ余裕があります。しかしいつかそのときが「中国にとって破滅的な出来事」と一緒に来るのではないかと考えています。

図表 22 人民元/ US ドルレート（月次）



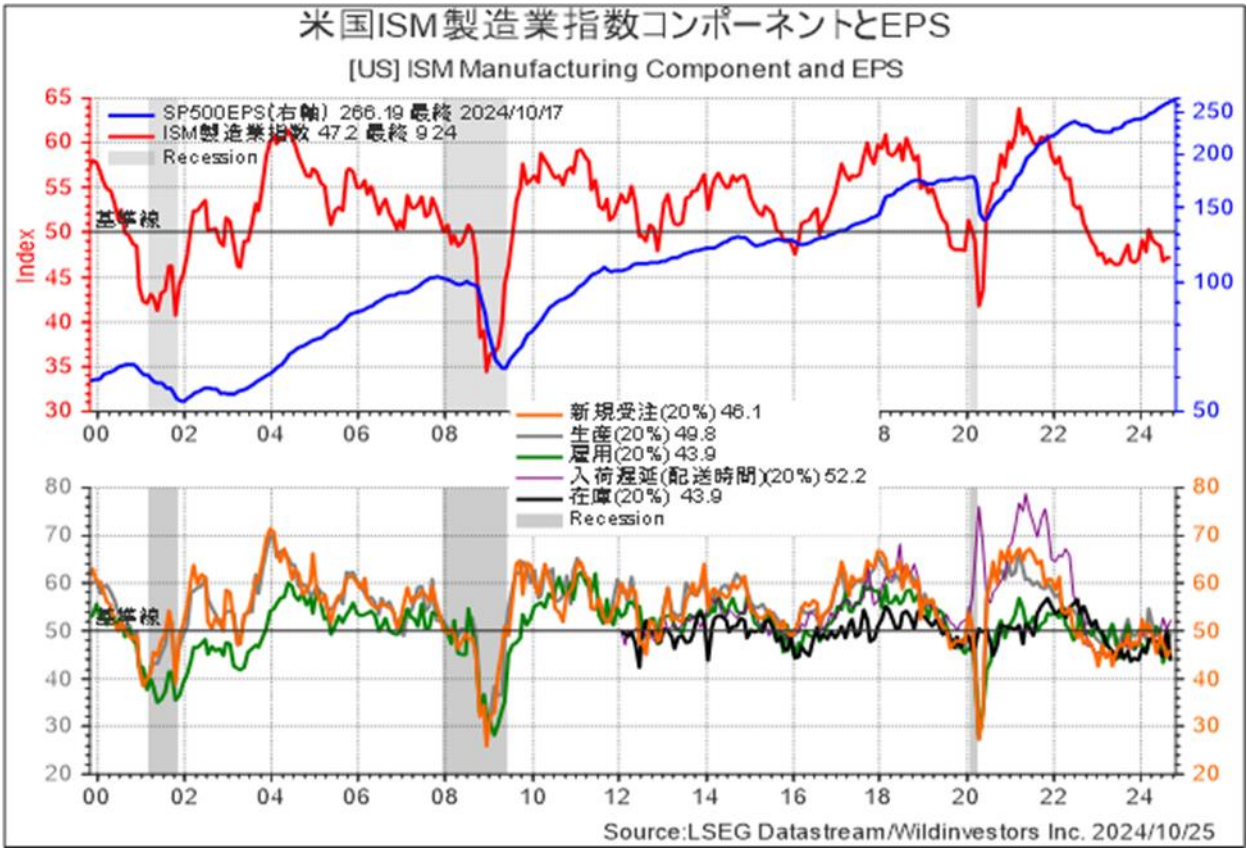
(出所: investing.com <https://jp.investing.com/currencies/usd-cny-chart>)

12. 「非」製造業さらに好調でインフレ鎮静化と両立

5月の米ISM製造業指数は47.2と変わらず7か月連続の縮小領域（図表 23）。拡大領域は入荷遅延だけでこれが利下げ幅縮小の根拠となっています。あとはすべて縮小領域ですが生産はもう少しで拡大領域。新規受注はそれに比べると弱く、さらに低調なのは雇用と在庫です。リセッションシナリオは後退し、株式市場が予想してきたゴルディロックスシナリオに近い感じになっています。

06月	→	07月	→	08月	→	09月	
48.5	→	46.8	→	47.2	→	47.2	ISM 製造業指数
49.3	→	47.4	→	44.6	→	46.1	新規受注
48.5	→	45.9	→	44.8	→	49.8	生産
49.3	→	43.4	→	46.0	→	43.9	雇用
49.8	→	52.5	→	50.5	→	52.2	入荷遅延
45.4	→	44.5	→	50.3	→	43.9	在庫

図表 23 米ISM製造業指数コンポーネントとEPS

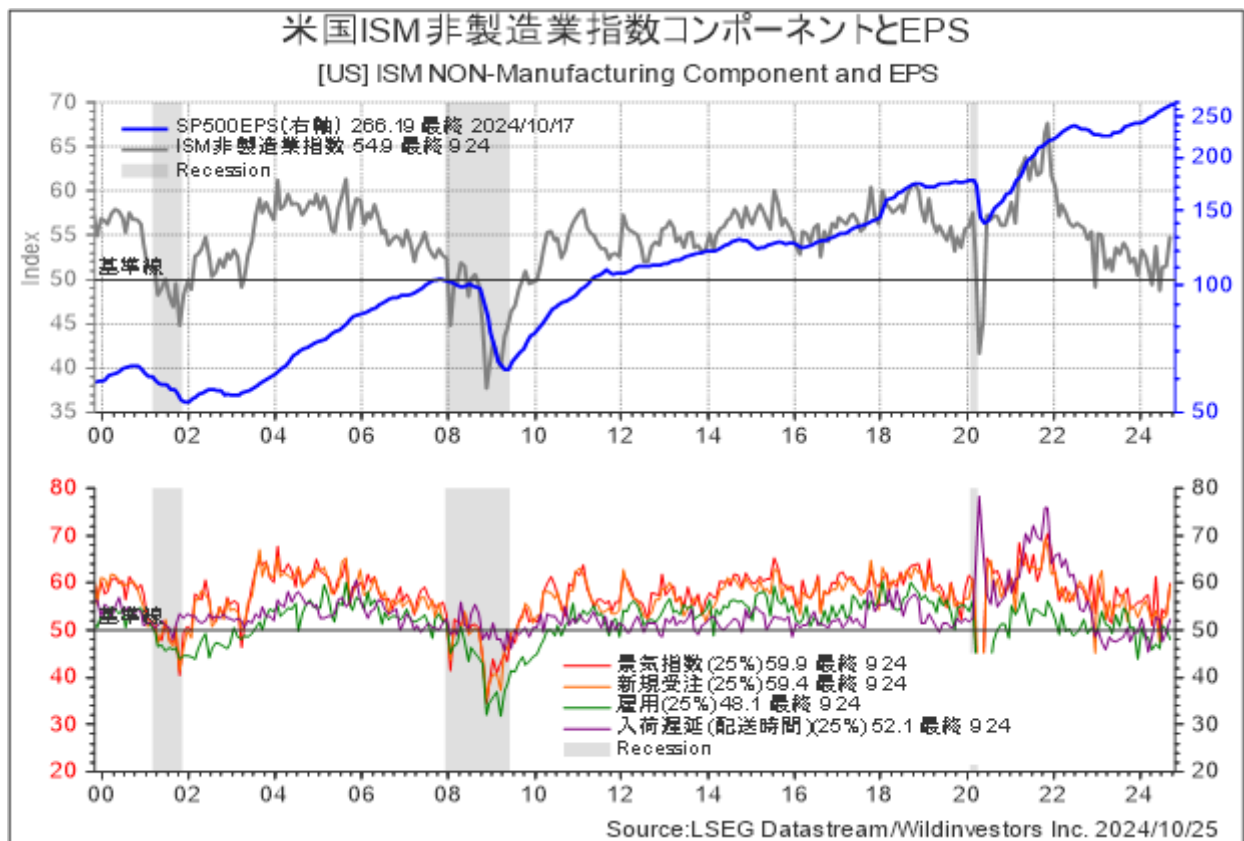


一方、米経済をこれまで支えてきた米ISM「非」製造業指数は54.9と、前月の51.5から2023年02月以来の大幅な伸び（図表 24）。景気指数・新規受注いずれも堅調で、特に新規受注指数は6.4ポイント上昇しました。一方で雇用が縮小領域に入ったことが、賃金インフレが抑制されるという期待を持続させています。入荷遅延は拡大領域に転じましたが、この程度であればゴルディロックスシナリオの障害にはならないと考えます。

06月	→	07月	→	08月	→	09月	
							33/102

48.8	→	51.4	→	51.5	→	54.9	ISM「非」製造業指数
49.6	→	54.5	→	53.3	→	59.9	景気指数
47.3	→	52.4	→	53.0	→	59.4	新規受注
46.1	→	51.1	→	50.2	→	48.1	雇用
52.2	→	47.6	→	49.5	→	52.1	入荷遅延

図表 24 米 ISM 「非」 製造業指数コンポーネントと EPS



13. (パターン a) で米株ブチ強く、新興国総じて弱い

米株は利下げ予想が縮小し米金利上昇かつドル高となりましたが、景気は後退しないというゴールドロックスシナリオに乗って史上最高値をさらに更新しました (図表 25)。

今回の米株上昇相場は、【ドットコムバブル期に交互に表れたのと同じパターン】を繰り返しながら上昇を続けてきました。

(パターン a) 好調な経済指標 → インフレ懸念強まる → 米金利上昇・ドル高 → 米株は小幅高

(パターン b) 経済指標悪化 → インフレ懸念やわらぐ → 米金利低下とドル安 → 米株は大幅上昇

10 月からは米金利上昇かつドル高にもかかわらず米株が上昇する (パターン a) で、非常に強いサインです。この先米金利が低下しドル安になると (パターン b) に入って高値をさらに更新する可能性が高いです。

図表 25 米 SP500 指数 (現地通貨ベース)



(出所: <https://www.marketinout.com/chart/market.php?breadth=advance-decline-line>)

NASDAQ「総合」指数も遅ればせながら史上最高値に接近してきました (図表 26)。最近ではエヌビディアなど一部の AI バブル銘柄が復活し、米株全体の上昇を牽引しています。それがこの先も続くのかについては、全く自信が持てません。

図表 26 米 NASDAQ「総合」指数（現地通貨ベース）



（出所： <https://www.marketinout.com/chart/market.php?breadth=advance-decline-line>）

バリュー株が多く一足先に史上最高値を更新した NY ダウは二極化再開で反落（図表 27）。相対的には劣後し続けている指数ですが、割安さから来る安心感があります。

図表 27 米 NY ダウ指数（現地通貨ベース）



（出所： <https://www.marketinout.com/chart/market.php?breadth=advance-decline-line>）

現地通貨ベースで主要国の株価を見ると、**米国株**をはじめほとんどの株価が強いです（図表 28）。特に最近是中国の経済対策を受けて**香港**が約 3 割ブチ上がり、**新興国株指数**も急反発。ただしそこから反落しています。一瞬で 3 割急落した**日本**は急速に戻したものの上値が重い展開。それでも円安ドル高が支えています。**韓国**も下げ渋ってはいますが、相対的に弱さが目立つようになってきました。

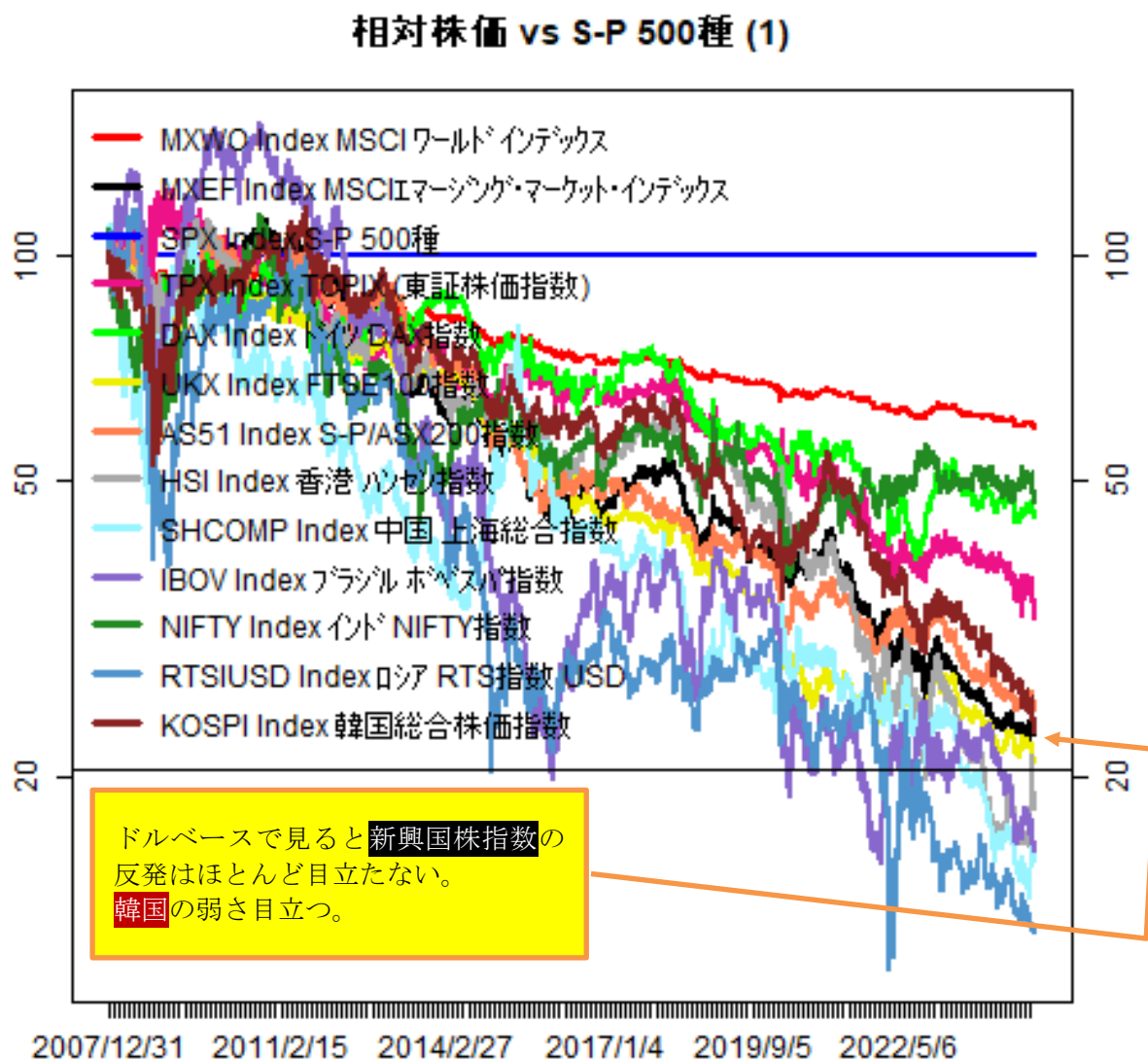
図表 28 主要国株価指数（現地通貨ベース）



作成: wildinvestors.com, データ元: トムソンロイター, 最終日: 2024/10/25

これら通貨と株価を合成して対 SP500 指数ドルベースと比較したものが（図表 29）です。通貨まで加味すると引き続き米株よりも強い国はありません。香港の急反発はすさまじかったですが、新興国株指数全体で見るとドル高もあってほとんど反発が目立ちません。結局のところすぐに右肩下りの「本流」に戻っています。日本は株価こそ堅調でもドル高円安のため 08 月の相対的な安値と近い位置まで下げています。またここでも韓国は弱く、株価・通貨共に相対的に下げていることがわかります。

図表 29 ドルベース主要国株価指数（対米国 SP500）



作成: wildinvestors.com, データ元: トムソンロイター, 最終日: 2024/10/25

14. 2024 年 09 月は「AI 業種御三家」復活で二極化再開

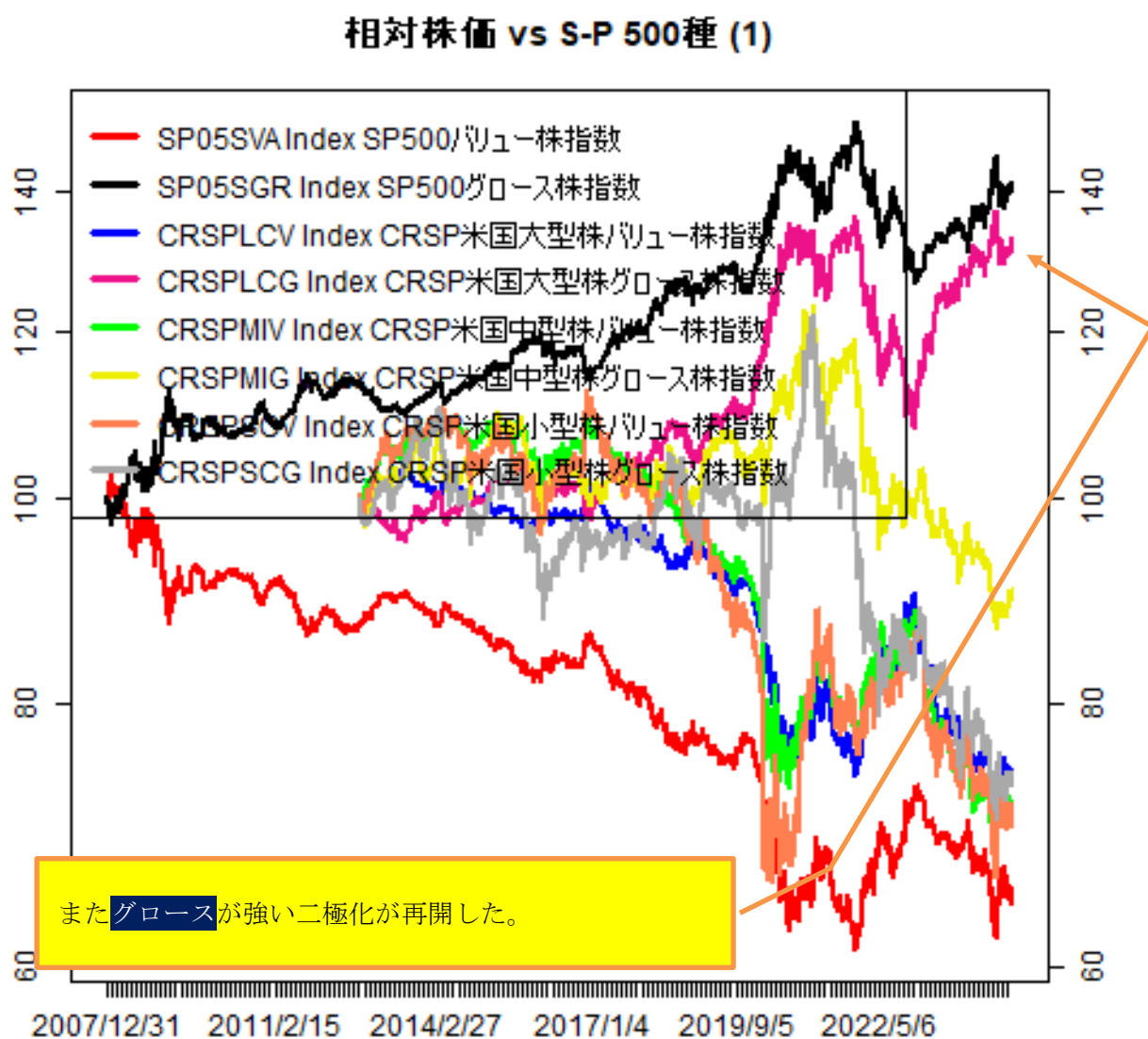
図表 3 はすでに掲載した米国の「バリュー・グロース」「大型・中型・小型」のセグメントを分けた現地通貨ベースのパフォーマンスです。グロースがやや強く、その中では大型・中型・小型はほぼ横並びでした。それらと同じぐらい中型バリューが強く、残る大型・小型バリューはそれらより 1% ポイントほど上昇率が低かったです。

図表 3 2024 年 09 月の米国バリュー・グロースパフォーマンス

CRSP米国株(配当込みトータルリターン)			
現地通貨ベース			
	総合	バリュー	グロース
総合	2.05%		
大型	2.09%	1.56%	2.40%
中型	2.54%	2.54%	2.53%
小型	1.97%	1.61%	2.46%

これを SP500 に対する相対チャートで見ます (図表 30)。しばらくバリューが強くグロースが弱い 二極化のリバーサルが続いていましたが、最近はまだ二極化の方向に進んでいます。

図表 30 米国主要バリュー・グロース株指数 (対 SP500)

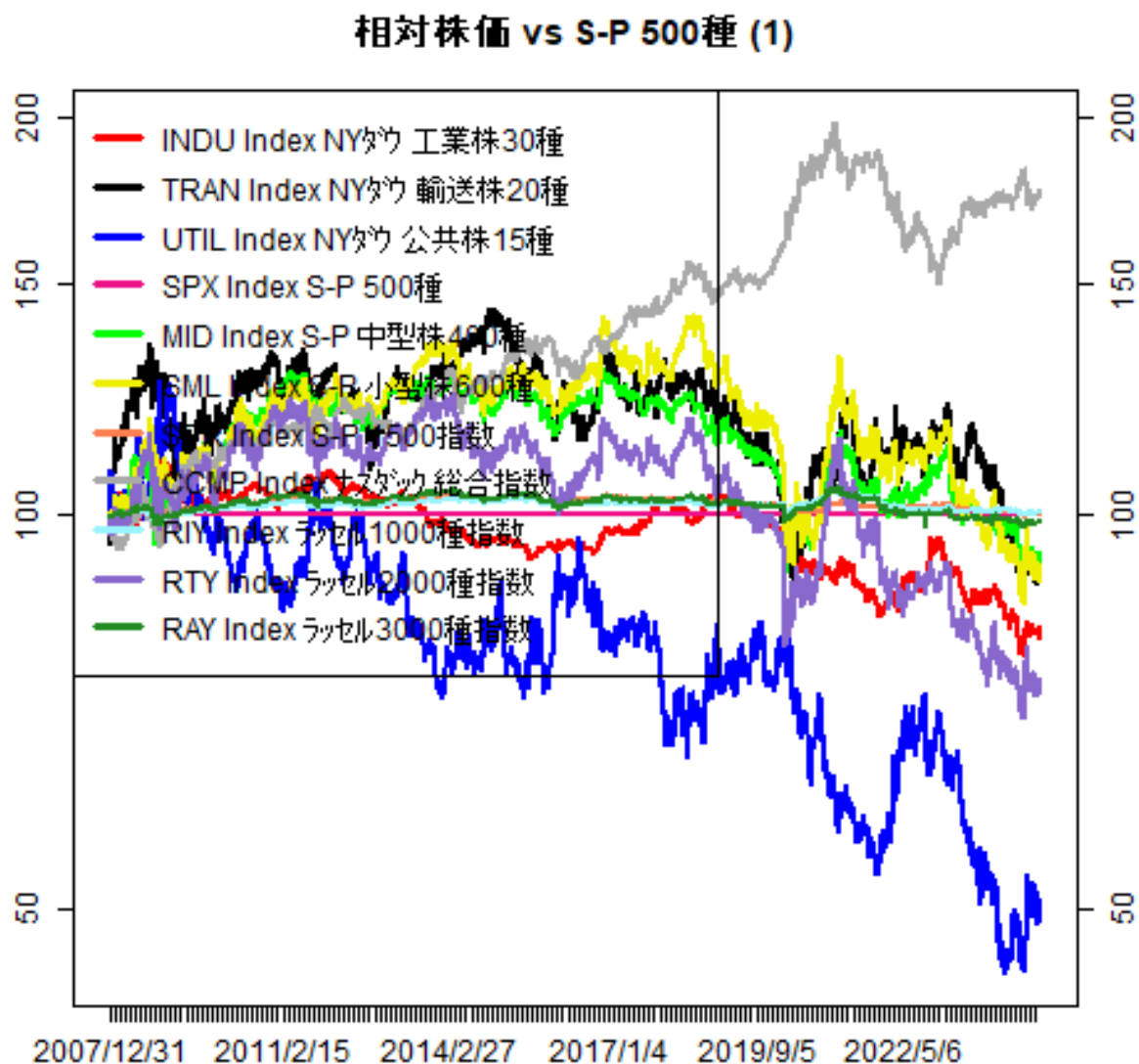


作成: wildinvestors.com, データ元: トムソンロイター, 最終日: 2024/10/25

40/102

米国の主要株価指数(対 SP500)はナスダックがやや持ち直し、NY ダウが弱い二極化局面(図表 31)。
 なんだかんだでナスダックや成長株が上昇を支えています。

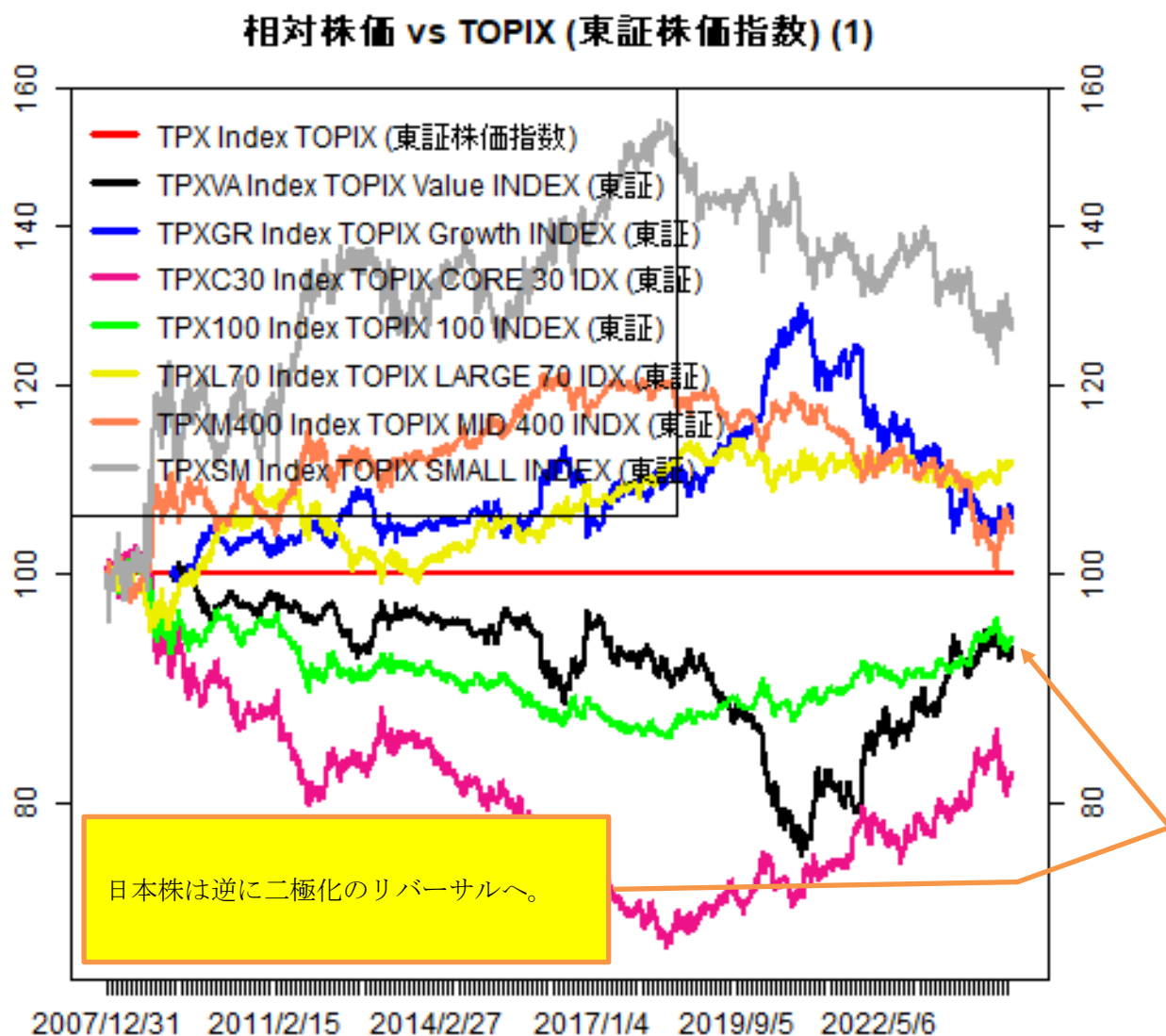
図表 31 米国主要株価指数 (対 SP500)



作成: wildinvestors.com, データ元: トムソンロイター, 最終日: 2024/10/25

日本株では逆にバリュー株が相対的に強くなり、グロース株が弱くなる二極化のリバーサルが再開したように見えます(図表 32)。

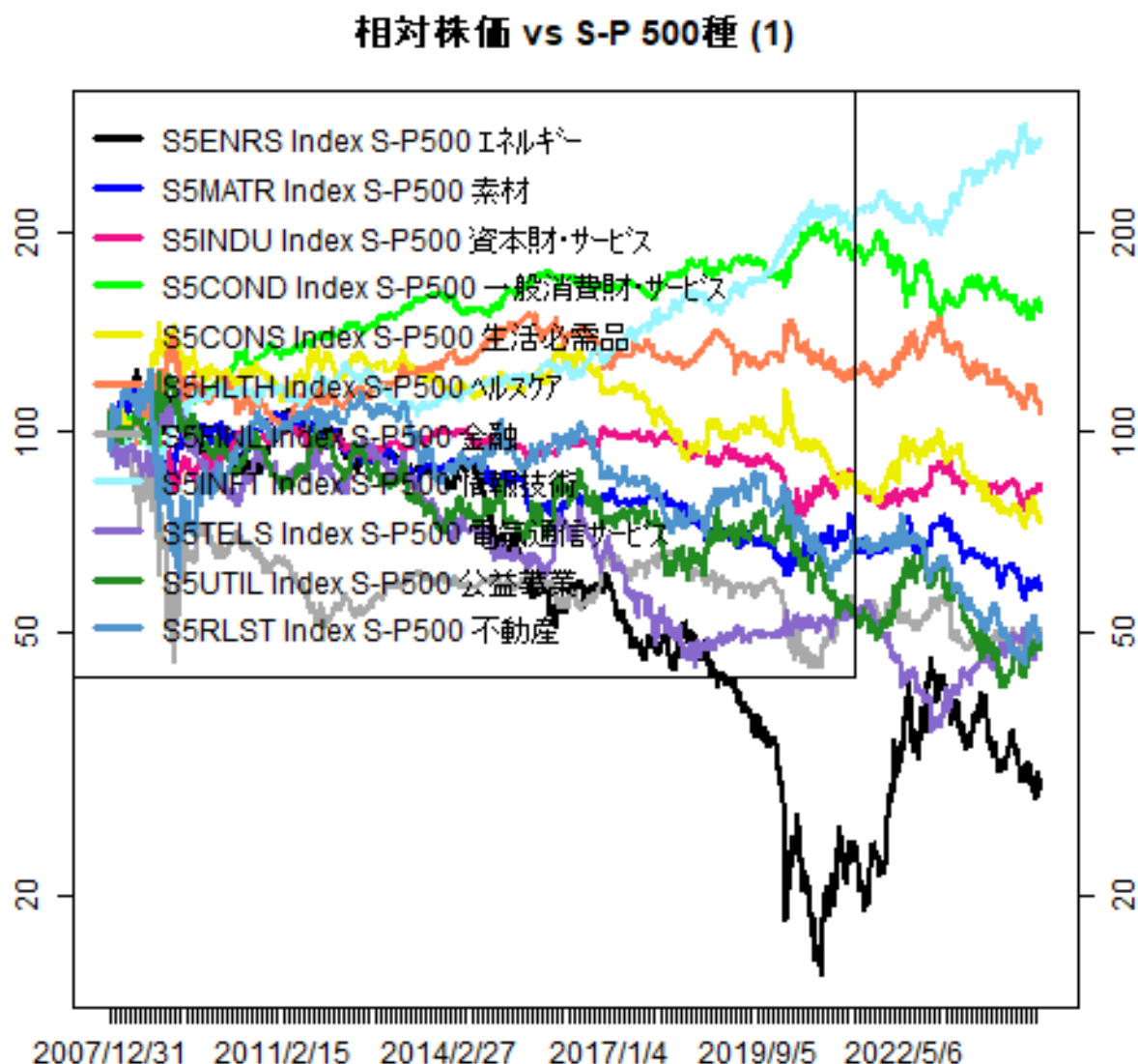
図表 32 日本主要株価スタイル指数（対 TOPIX）



作成: wildinvestors.com, データ元: トムソンロイター, 最終日: 2024/10/25

米国 11 業種相対指数では情報技術・コミュニケーション（電気通信）サービス・一般消費財の「**AI 業種御三家**」が復活気配（図表 33）。資本財も気を吐いています。しかしそれ以外は冴えません。

図表 33 米国 11 業種相対株価指数

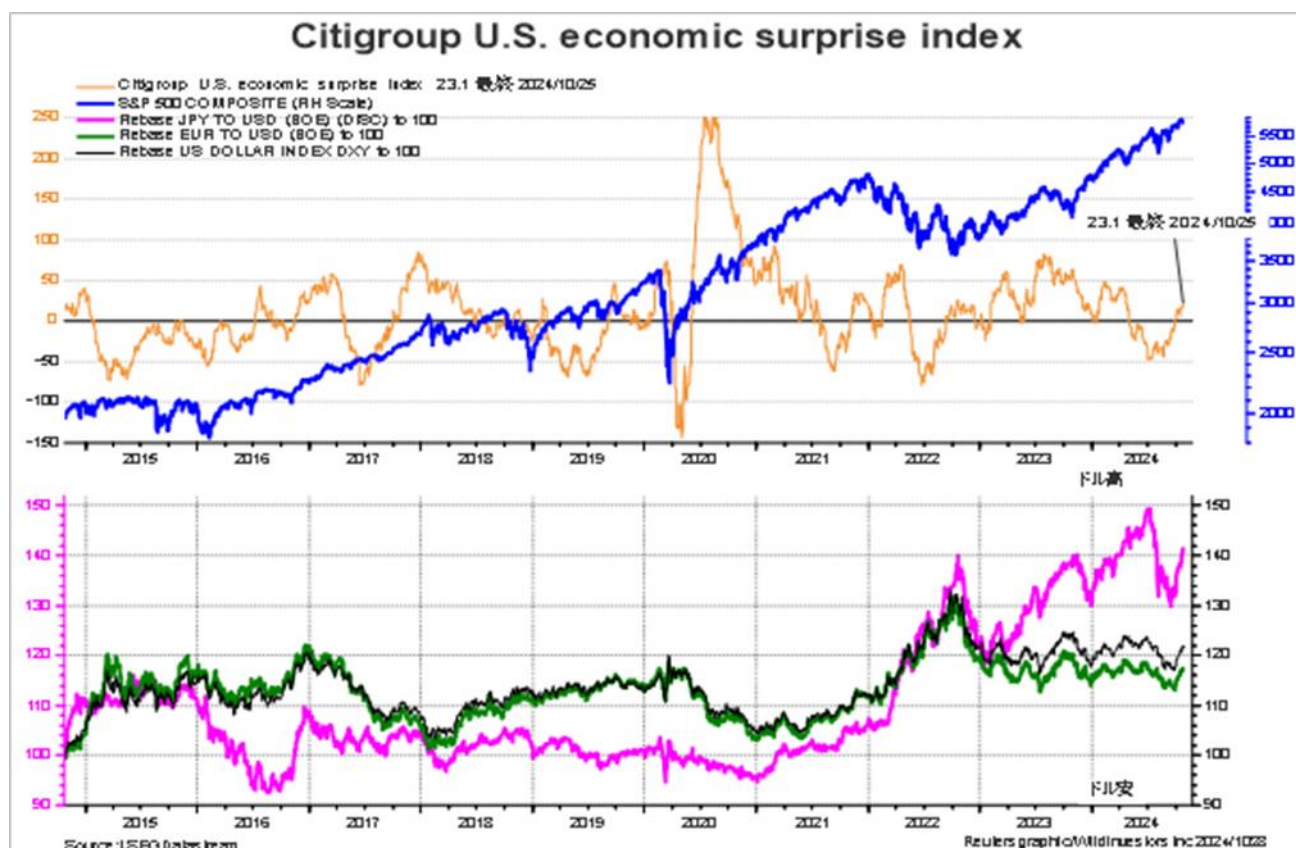


作成: wildinvestors.com, データ元: トムソンロイター, 最終日: 2024/10/25

15. 企業業績と経済指標堅調でゴルディロックスシナリオ濃厚に

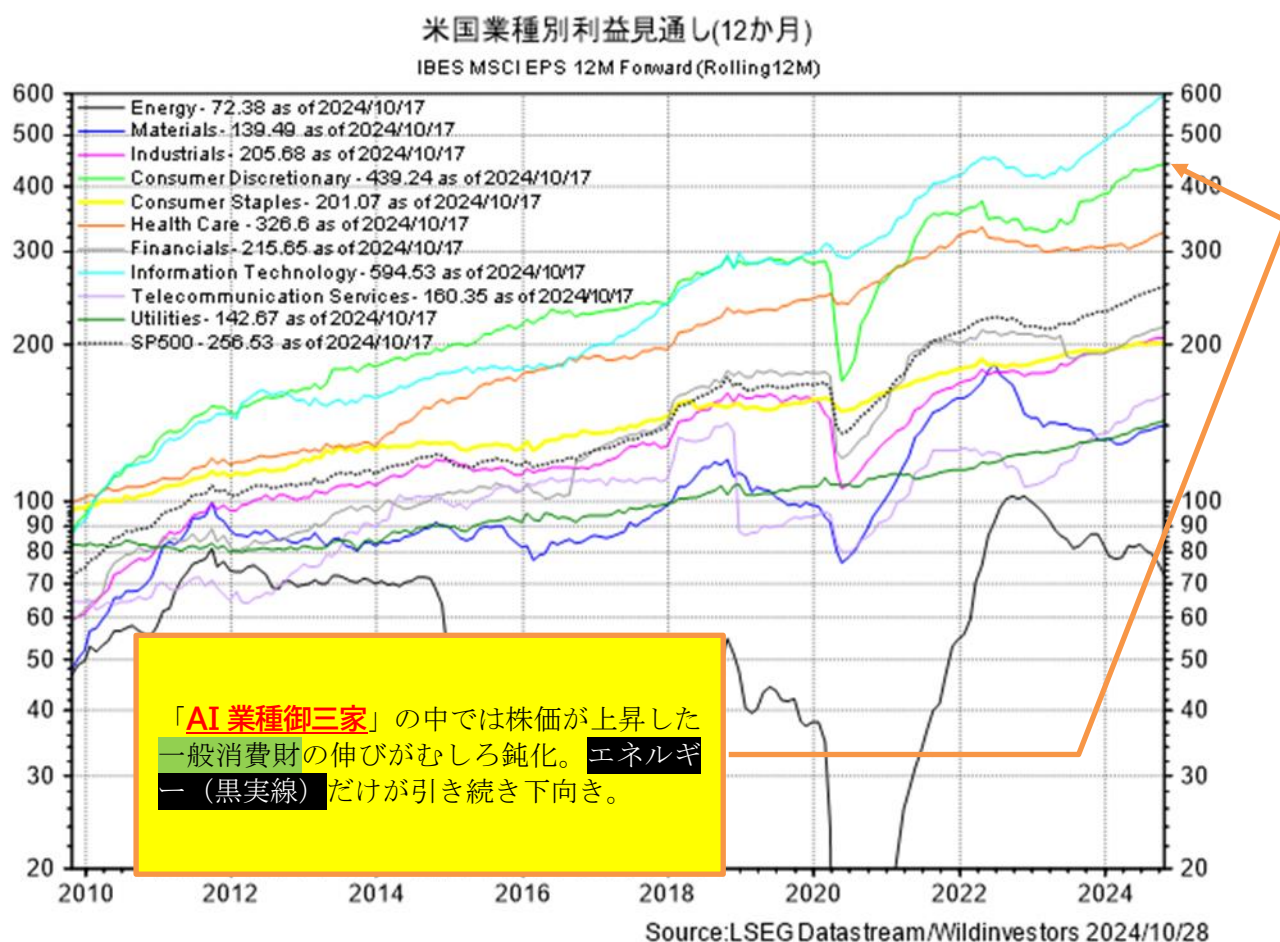
シティグループ **エコノミック・サプライズ指数** は前月の -6.1 から 23.1 へとさらに改善 (図表 34)。ますますもって **ゴルディロックスシナリオ** が濃厚になってきました。この状態であればドル安が進んでも景気が腰折れすることはなく、むしろインフレ圧力を減退させることによって企業収益を底上げすると期待できます。

図表 34 シティグループ・エコノミック・サプライズ指数, SP500 指数とドル円



米 SP500 指数全体（黒点線）の企業業績見通しは全体的に引き続き堅調（図表 35）。「AI 業種御三家」の中では引き続き情報技術が好調で、株価指数が上昇している一般消費財はむしろ伸びが鈍化しているように見えます。エネルギー（黒実線）だけが引き続き下向きです。

図表 35 SP500 指数 11 セクターの EPS 予想 (12 か月フォワード)

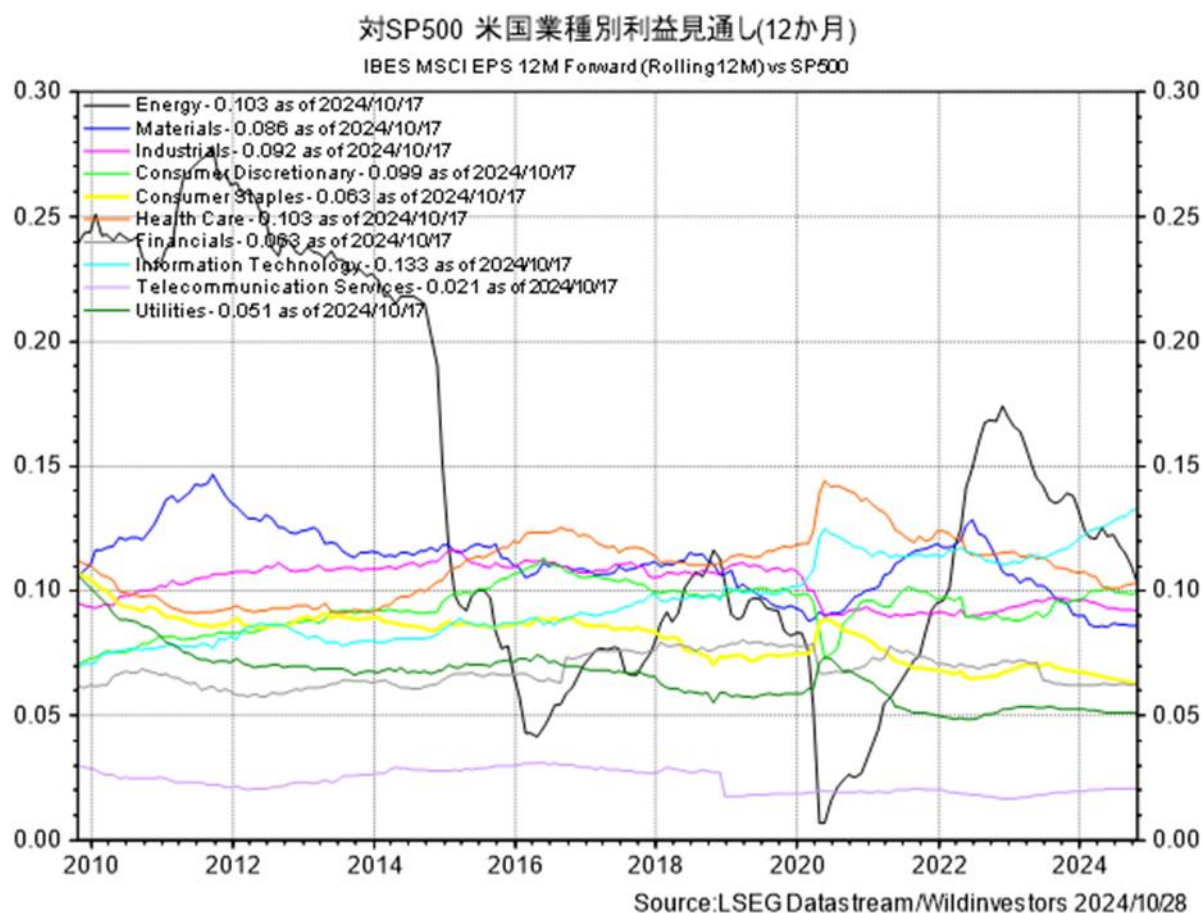


これら業種ごとの EPS を SP500 の EPS で割った「相対 EPS (一株あたり利益)」も観察します(図表 36)。EPS は株数によって変わるので、水準は問題ではありません。しかしその傾きを見ることによって、

**「EPS の伸びが SP500 指数を上回っているのか、
下回っているのか」**

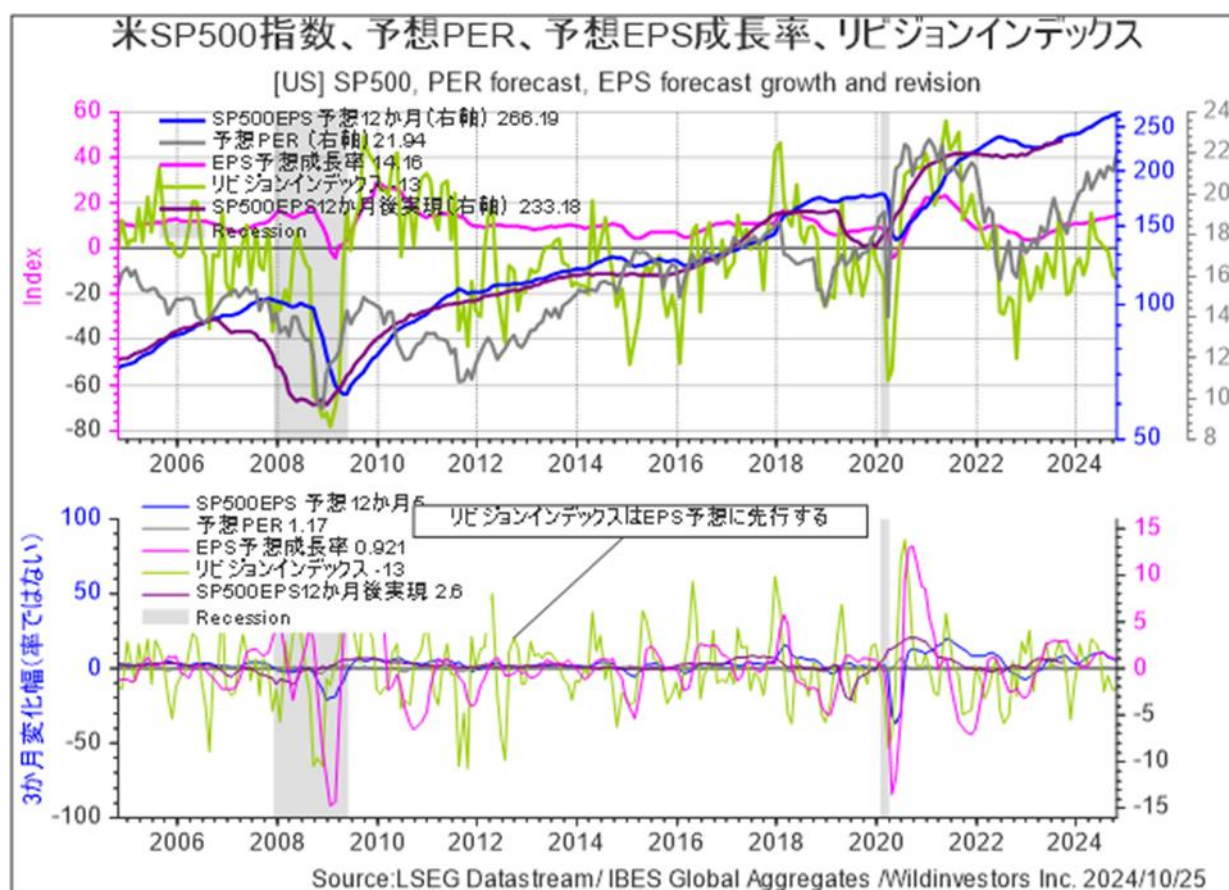
がわかります。最近の傾向を見ると明確に上向いているのは情報技術だけで、明確な下向きがエネルギーだけです。ただし先月に続きヘルスケアがさらに強くなってきました。

図表 36 【対 SP500 指数】11 セクターの相対 EPS 予想（12 か月フォワード）



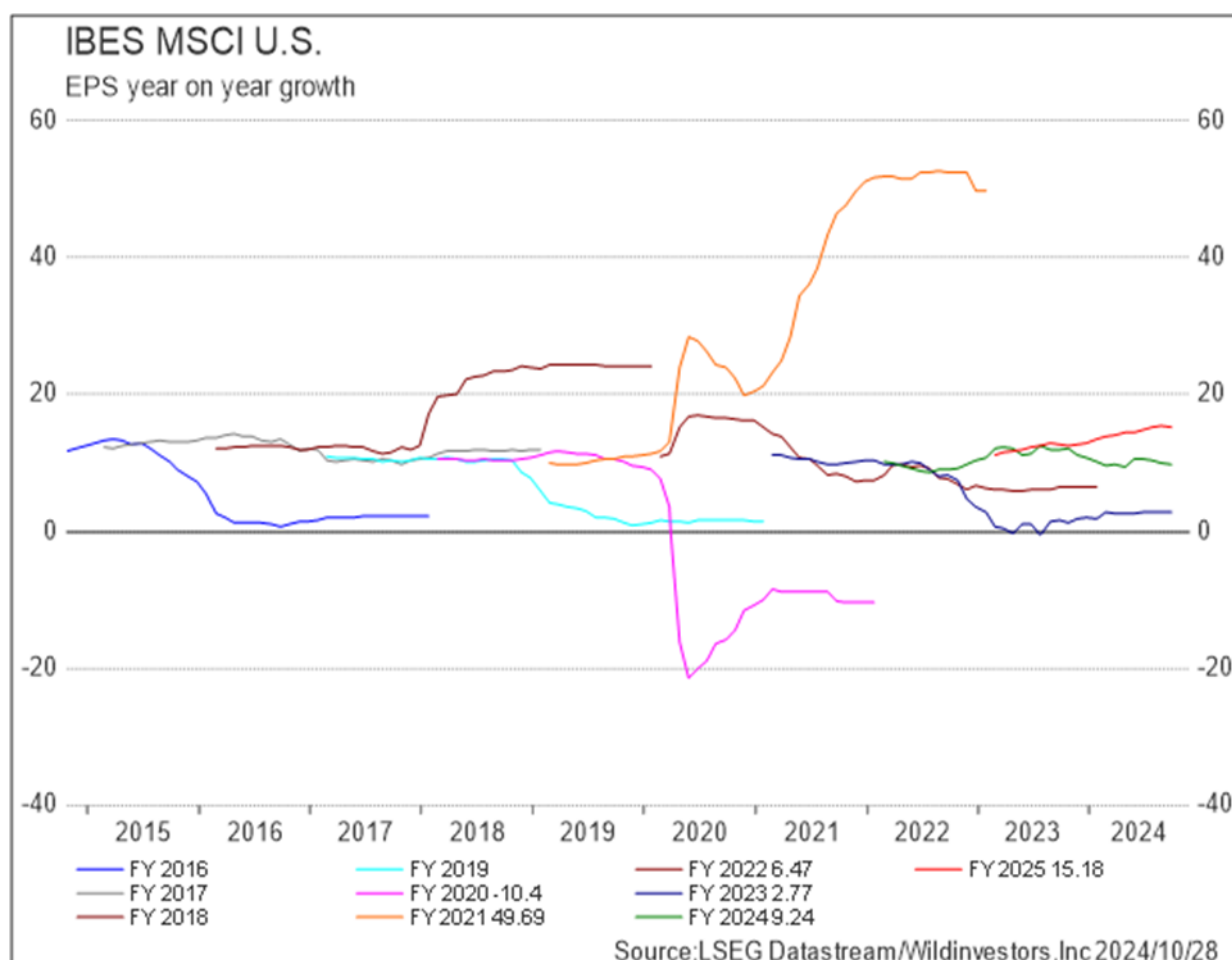
米国株の**予想 EPS** や**予想 EPS 成長率**は伸び率が鈍化しながらも上昇が続いています（図表 37）。上方修正から下方修正を引いた**リビジョンインデックス**は-12 から-13 へマイナスのままほぼ変わらず。しかしあまり強い方向性はありません。

図表 37 米 SP500 指数、予想 PER、予想 EPS 成長率、リビジョンインデックス



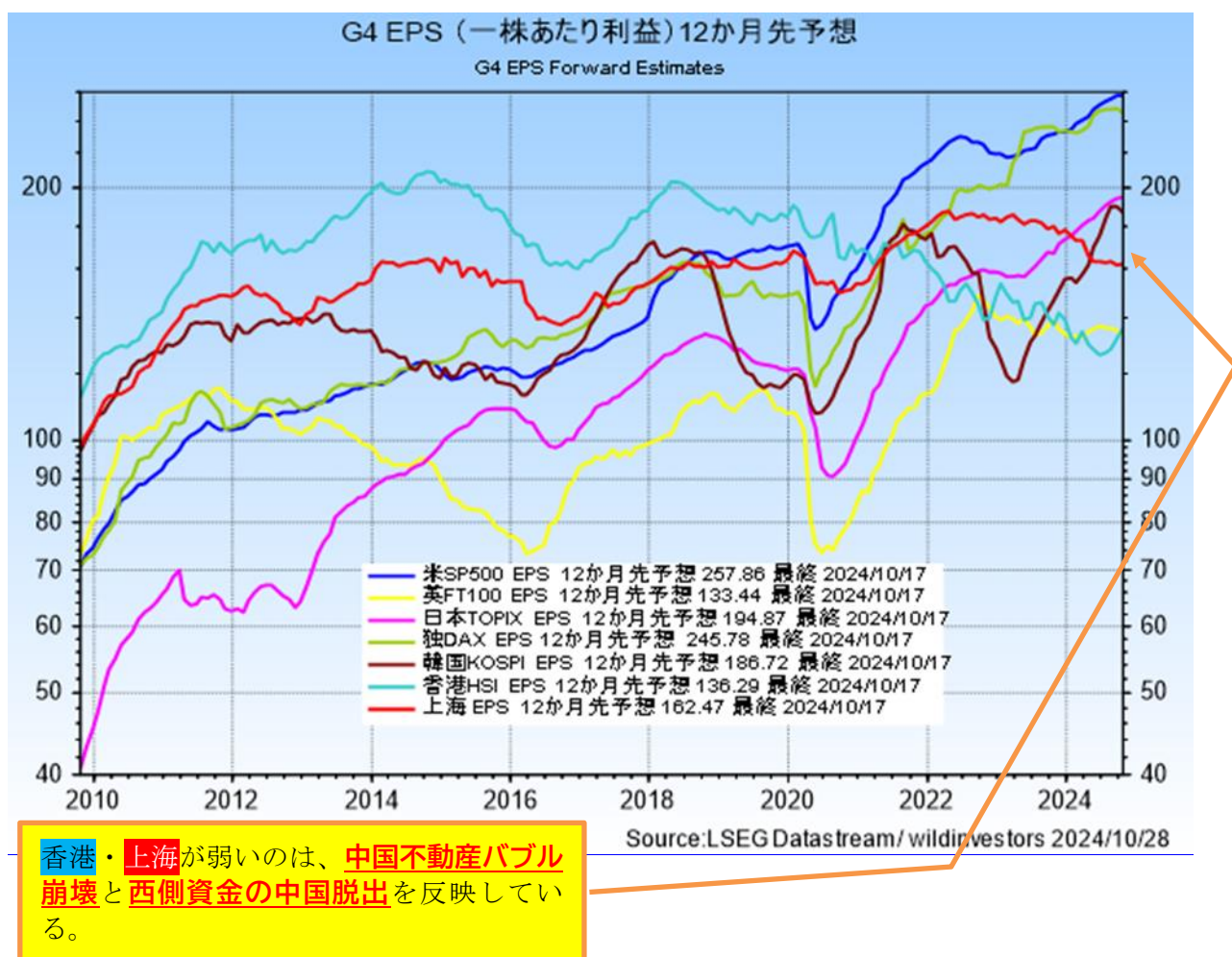
米株 EPS **2023 年予想** は先月の +2.77% 変わらず (**図表 38**)。 **2024 予想** は +9.87% から +9.24% へ鈍化です。
2025 年予想 も +15.30% から +15.18% へと鈍化しましたが、非常に楽観的な予想だと引き続き考えています。

図表 38 IBES 米企業業績の前年比成長率予測推移



国別予想 EPS は引き続き**米国**と**日本**が好調（図表 39）。**韓国**が鈍化してきたのは半導体の影響かもしれず、株価の動きを見ると深刻なのかもしれません。**ドイツ**も頭打ちで**英国**は低調。**上海**は低調で**香港**が持ち直していますが、**中国不動産バブル崩壊**と**西側資金の中国脱出**を考えると引き続き避ける地域だと考えます。

図表 39 主要国 EPS（一株当たり利益 12 ヶ月フォワード）

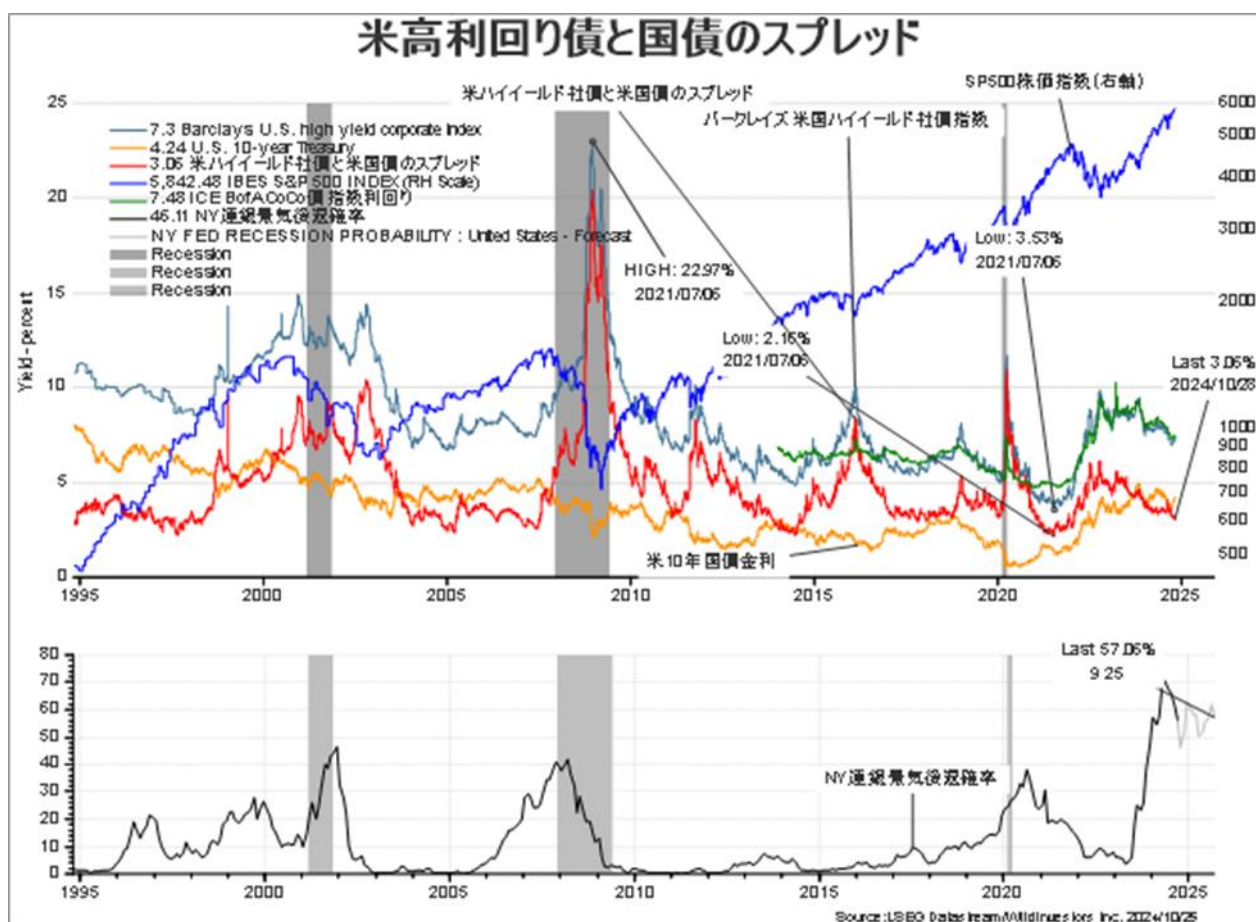


16. 気になる高額所得者と中年の延滞率上昇

ジャンク債スプレッドは前月の 3.24% から 3.03% へ低下（図表 40）。ハイイールド債金利が 6.98% から 7.30% へ再上昇した幅より、米 10 年国債金利が 3.74% から 4.24% へ上昇した幅が大きく縮小しました。AT1 債を含む「ICE BofA CoCo 債指数利回り」も 7.31% から 7.48% へ再上昇しました。

NY 連銀景気後退確率は 57.05% と、前月の 61.79% から低下しました。金利の世界では景気スローダウンが限定的であり、「貸し倒れが増える」とは想定していないようです。

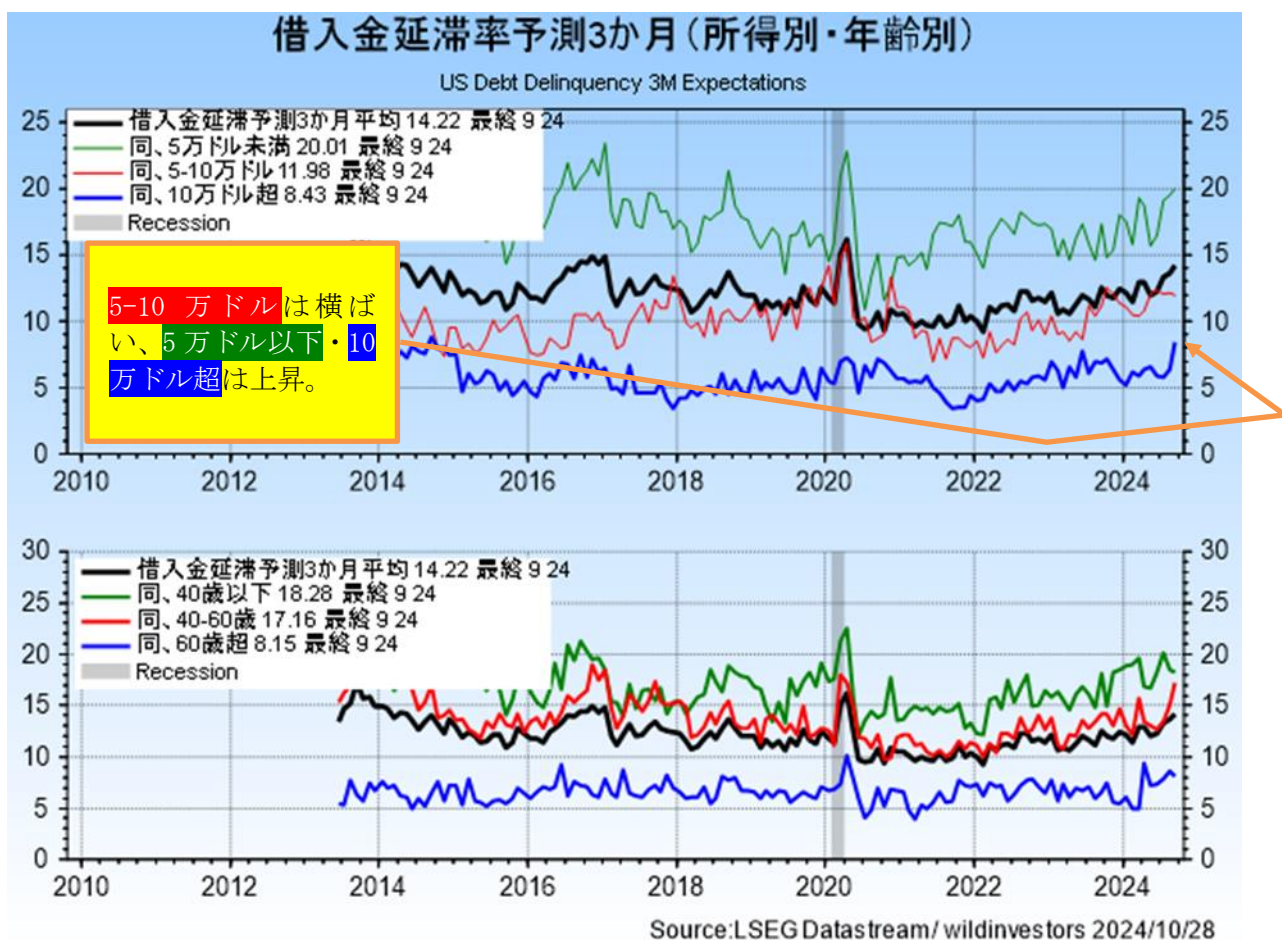
図表 40 ハイイールド債スプレッドと米国 SP500 指数



米国の借入金延滞率予測 3 か月は上段パネル「所得別」で **5-10 万ドル** は横ばい、**5 万ドル以下**・**10 万ドル超** は上昇（図表 41）。引き続き所得が低いほど延滞率が高いですが、**10 万ドル超** も急速に上昇しています。

年齢別では逆に **40-60 歳** が上昇し、**40 歳以下** と **60 歳超** が低下。正直なところ、何が起きているのかさっぱりわかりません。

図表 41 借入金延滞率予測 3 か月（所得別・年齢別）



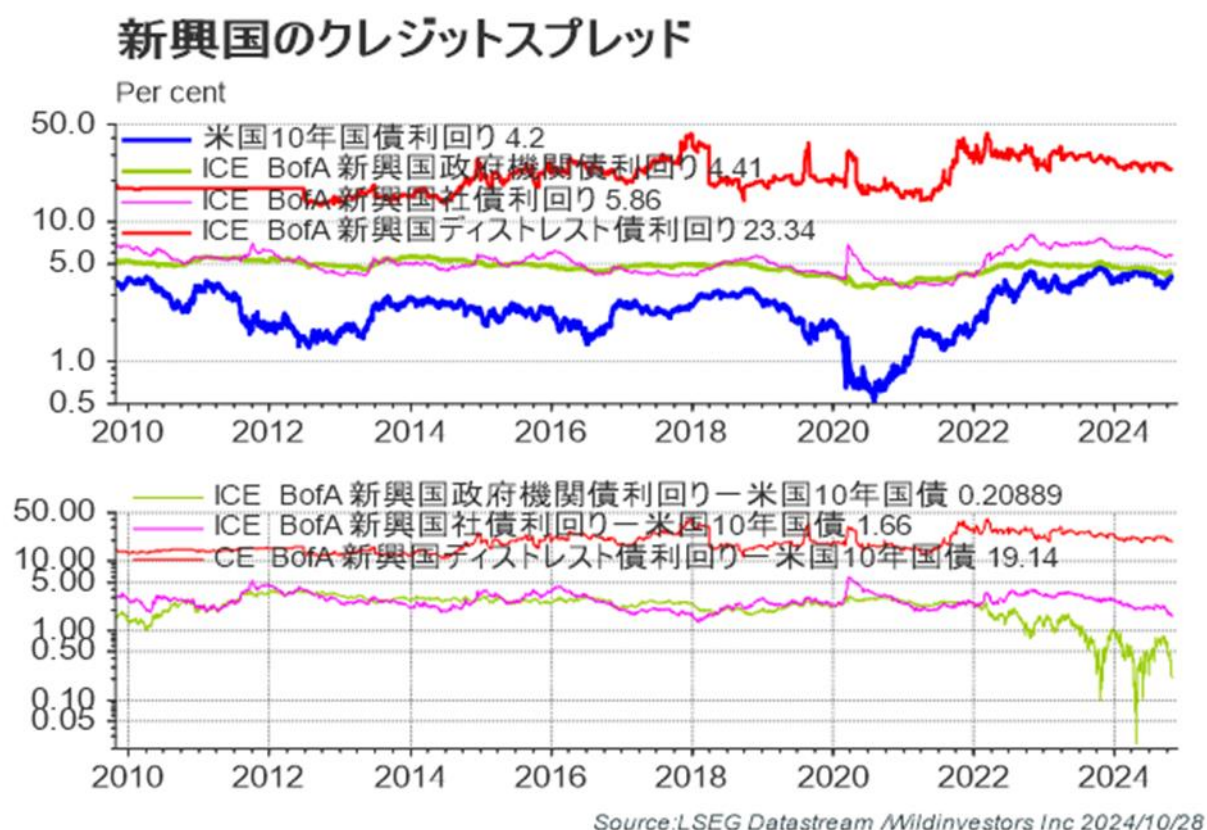
新興国ディストレスト（破綻）債利回りの米国 10 年国債利回りに対する上乗せ金利（スプレッド）は 19.14%と、先月の 20.27%からさらに縮小（図表 42 下段パネル）。前者が約 0.53ポイント低下する一方、後者が 0.60ポイント上昇となった結果でした。

新興国社債利回り（上段パネル）は 5.58%から 5.86%へ再上昇し、米国債金利の上昇と差し引きで前月の 1.98%ポイントから 1.66%ポイントへさらに縮小しました（下段パネル）。一方で新興国政府機関（ソブリン）債利回りは前月の 4.28%から 4.41%へ上昇（上段パネル）。おかげで米国 10 年国債利回りの低下との差し引きでその差は前月の 0.68%から 0.21%へ縮小しました（下段パネル）。

新興国の債券がそれほど安全なはずはなく、

この楽観論はいずれ大きなしっぺ返しを食らうと予想しています。

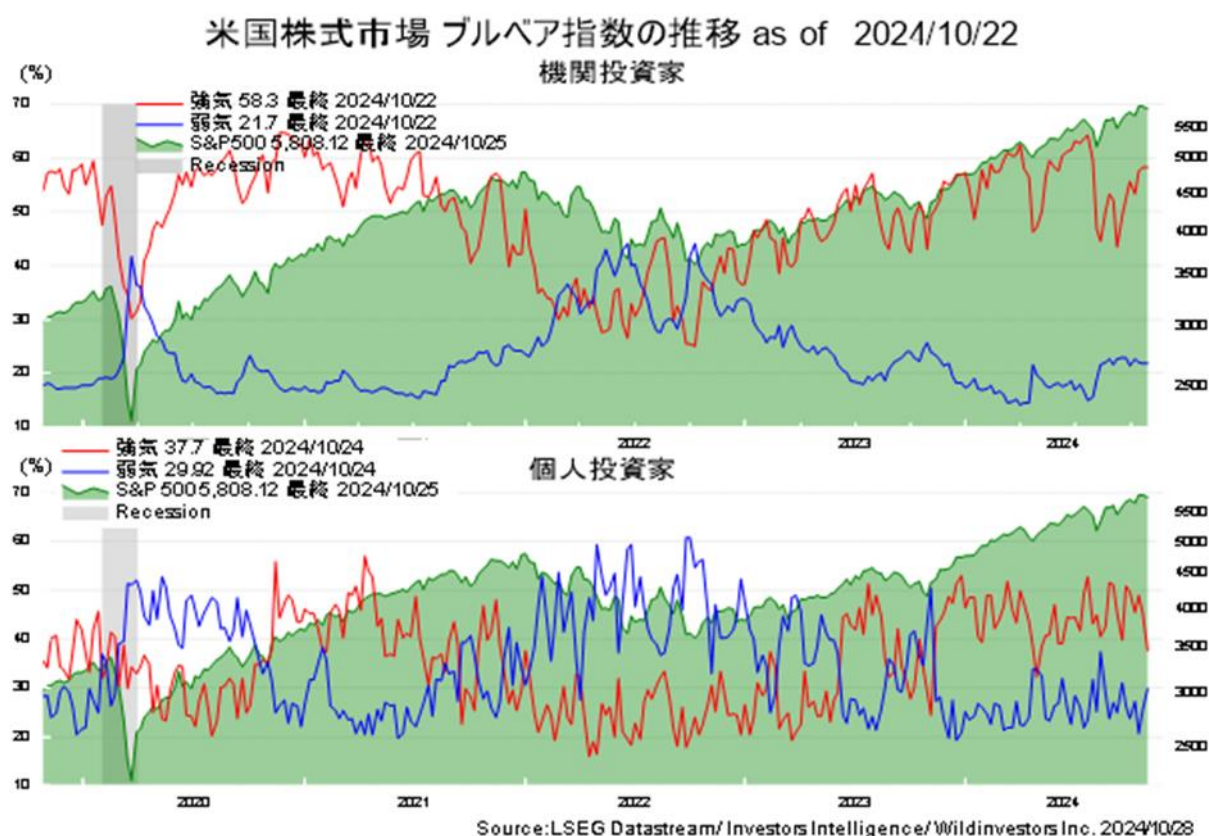
図表 42 新興国のクレジットスプレッド



17. VIX 指数建玉はさらに強い買い場を示唆

AAII（アメリカ個人投資家協会）のブルベア指数を確認すると、機関投資家（上段パネル）は引き続き楽観的である反面、（下段パネル）の個人投資家は慎重です（図表 43）。一般的には機関投資家の判断が正しいことが多いので、強気継続で良いと思います。

図表 43 AAI 米国株ブルベア指数（機関投資家・個人投資家）

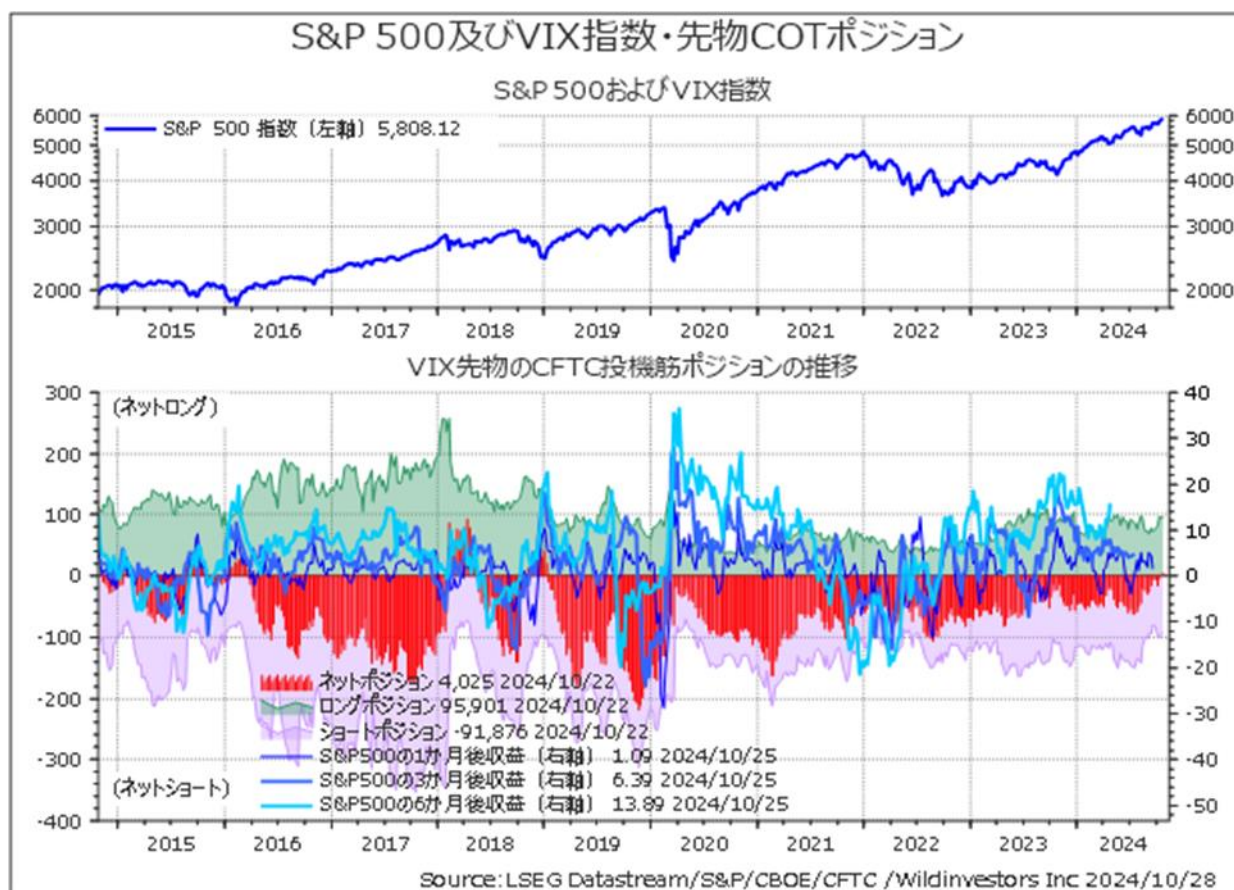


VIX 指数先物ポジションにおけるノンコマーシャル（投機家）の正味売りはついにプラス転換して +0.4 万枚（図表 44）。この数字は毎週火曜日引け後の建玉が、その週の金曜（米国東部時間）15:30 以降に更新されます。これは普通に考えるのであれば買いの好機です。

オプションを売っている人が少ない
 → 株価急落を警戒している人が多い
 → 株を買っていない人が多い
 → 米株は買いの好機

下段パネルにはこの指標に対し、それぞれ 1 か月後、3 か月後、6 か月後の SP500 指数パフォーマンスを折れ線グラフで示しました。やはり売り玉が減ったりプラスに転じたあと、パフォーマンスが良くなる傾向が示されています。

図表 44 米 SP500 株価指数と VIX 指数およびその投机ポジション



18. マグニフィセント7 占有率、二極化再開でさらに上昇

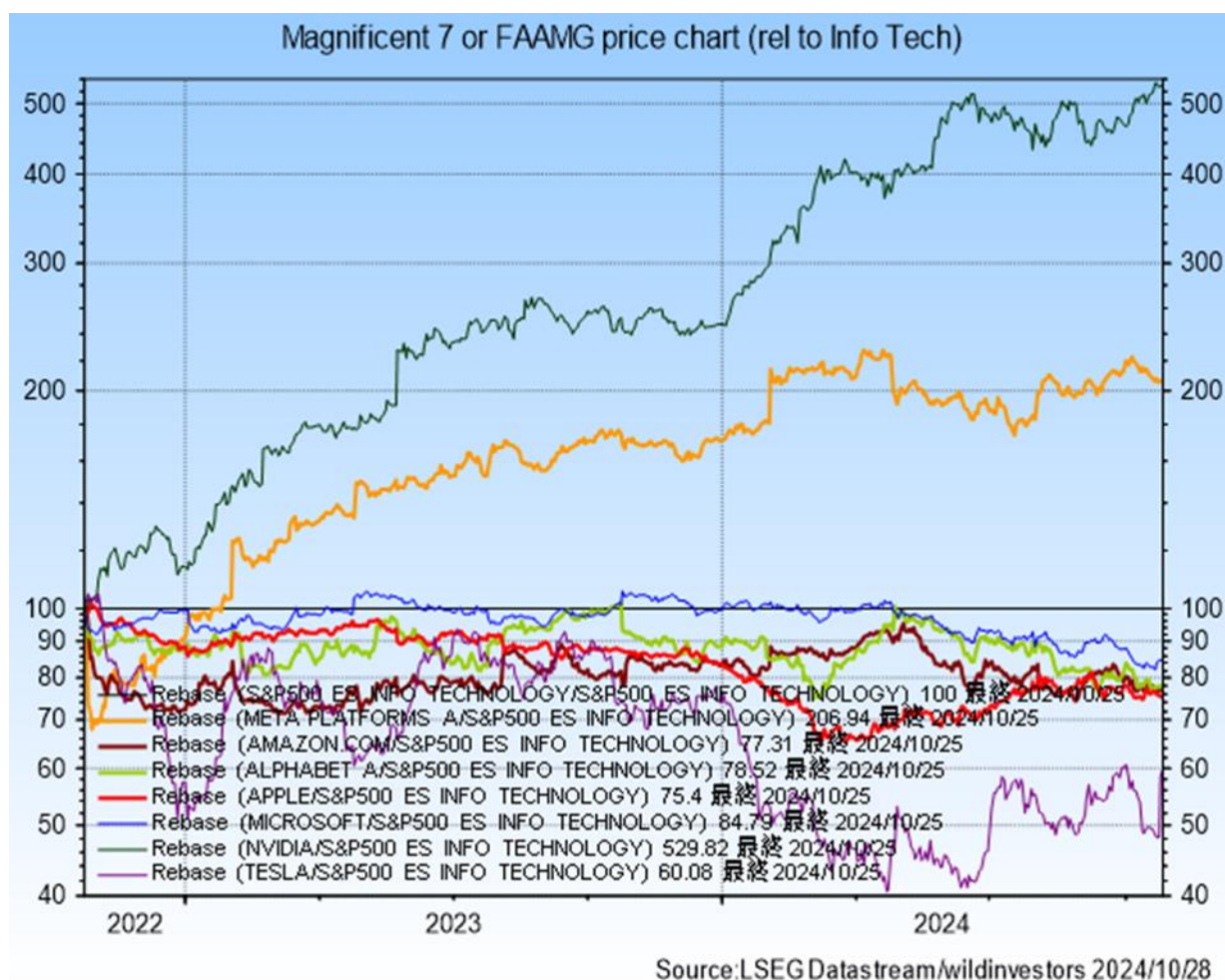
米大手情報技術（IT）企業 **FAANG（ファング）** に **エヌビディア** と **テスラ** を加え、**マグニフィセント7（セブン）** として動きを確認します（図表 45）。SP500 指数に対する **情報技術** の下落は下げ止まって横ばい継続。**エヌビディア** が異様に強く、**テスラ** は下落トレンド中の急反発を見せました。**マイクロソフト** が持ち直しの気配を見せています。

図表 45 FAAMG の相対株価 (対 SP500)



これを対 SP500 情報技術指数で見るとさらにはっきりします (図表 46)。やはり **エヌビディア** と **テスラ** が異様に強いです。

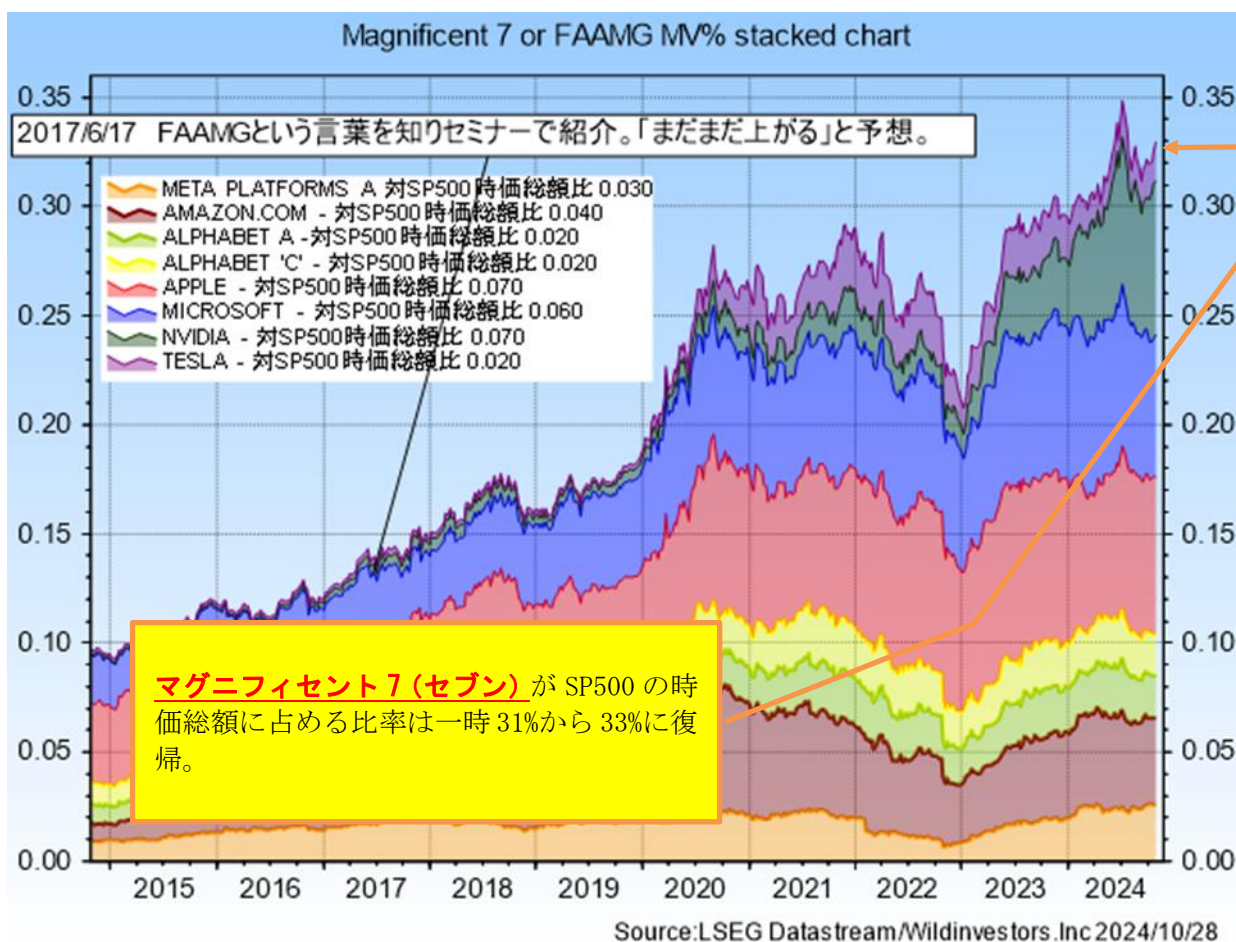
図表 46 FAAMG の相対株価（対情報技術指数）



マグニフィセント7 (セブン) が SP500 の時価総額に占める比率は 35%から一時 32%へ急落したあと 33%に復活しています（図表 47）。

これらの銘柄は買収を繰り返すため、放っておくと時価総額に占める割合が増えやすい傾向にあるのは確かです。しかしいったん、大きな天井をつけてしまったような気がしています。

図表 47 FAAMG の時価総額比率（対 SP500）積み上げグラフ



私はかなり前から

「FAAMG 最良の時代は終わった」

考えています。しかし代わりになる会社がそうそう出てくるわけではありません。

「結局のところはFAAMGが有望な会社を買収し続けて、
長期的には時価総額を増やし続ける」

ような気がしています。それでも

AI バブルの中心銘柄は微妙に違うので、
広く網をかけるかド真ん中銘柄を優先する

方針を続けます。

19. 10 月上旬、債券 ETF を諦めて米株を買い戻した

週末メール

[\(20241013\)9 月のパフォーマンス訂正、マイナス大幅縮小。10 月プラスだが指数に対する劣後は厄介。結局米債 ETF を売り、米株を買い戻した。](#)

にも書いたように、弊社投資戦略は 08 月上旬から組み入れていた米国債 ETF を売却して株式 100% に戻しました。

「えっ、ここから買うんでっか？」

とさんざん迷いながらでしたが、「原則的に信用収縮局面でなければ米株は買いっぱなしにしておくべき」という基本に立ち戻った結果です。

株を買い戻した理由の一部は以下の通りです。

(1) 季節要因

通常、秋は株が売られやすく特に 10 月中旬近辺に年間の底をつけやすい。しかし今年はそれどころか、史上最高値を更新している。

(2) 米長期金利上昇とドル高にもかかわらず米株がジリジリ上がる（パターン a）。これが米長期金利低下でドル安になると（パターン b）で米株がブチ上がる。

(3) このジリ高はおそらく私のようにドル債券やドル MMF にしたまま株価下落を待っている待機資金が多いのではないかな？

さらにいくつかのテクニカルな理由が重なって、この決定に至りました。

それでも「(パターン a) のうちに買えてよかった」と考えています。

米金利上昇＋ドル高にもかかわらず米株が上昇する（パターン a）は株が強いサイン。

それが米金利低下＋ドル安の(パターン b)に入ると米株はさらに上昇が加速します。

それまでの私がそうだったように、「MMF や債券にしたまま米株を買えていない人」が多いのではないかと思います。

20. 保守層離反で自民党大敗、立憲民主は得票増えずとも議席大幅増。

10月27日に行われた衆議院選挙では自民党が66議席、公明党が8議席を失う「大敗」となりました。

「消去法で自民に投票していた保守層が離れて保守・右派政党に流れ、立憲民主が競り勝つ地域が増える」

という私の予想通りの結果です。

衆議院選挙2024特設サイト

10月15日公示、27日投開票の衆議院選挙。この特設サイトでは、開票速報・開票結果をお伝えします。
各党獲得議席、全ての小選挙区・比例代表の候補者の当落と得票、開票所別の得票、関連記事や動画を掲載します。

獲得議席

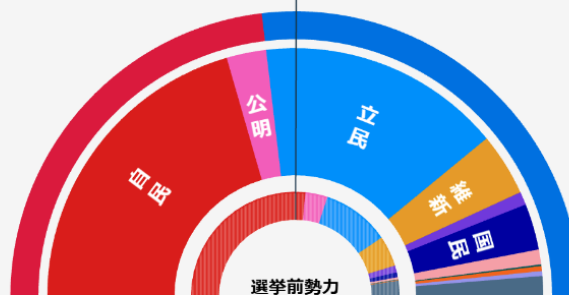
与党 **215**

選挙前勢力 279

自民
191

公明
24

過半数
233



野党・他 **250**

選挙前勢力 186

立民
148

維新
38

共産
8

国民
28

れいわ
9

社民
1

参政
3

保守
3

無・他
12

残り **0** / 465 議席

党 派	自 民	公 明	立 民	維 新	共 産	国 民	れ い わ	社 民	参 政	み ん な	保 守	安 死	諸 派	無	合 計
選挙前勢力	247	32	98	44	10	7	3	1	1	0	0	0	0	22	465
今回	191	24	148	38	8	28	9	1	3	0	3	0	0	12	465

(出所：<https://www.nhk.or.jp/senkyo/database/shugin/>)

一応、動画等で発表した予測との答え合わせをしておきます。

1. 自民公明で過半数を割れるが、自民は第一党のまま。
2. 立憲民主は得票数は増えないが、自民が得票を減らすので議席は増える。
3. 自民から離れた保守層が向かうのは国民民主や保守党。
4. 維新は議席を減らす。

正直、立憲民主がこれほど議席を伸ばすとは思っていませんでした。ただしツイッターの書き込みによると比例の得票は前回衆院選から6万票しか増えていないので「得票は増えないが議席は増える」という予想が正しかったことがわかります。



吉田康一郎

@yoshidakoichiro

自民	1991万→1458万	-533万
立憲	1149万→1155万	+6万
国民	259万→616万	+357万
公明	711万→596万	-115万
維新	805万→509万	-296万
れいわ	221万→380万	+159万
共産	416万→336万	-80万
参政	なし→187万	
保守	なし→114万	
社民	101万→93万	-8万

[DeepLで翻訳する](#)

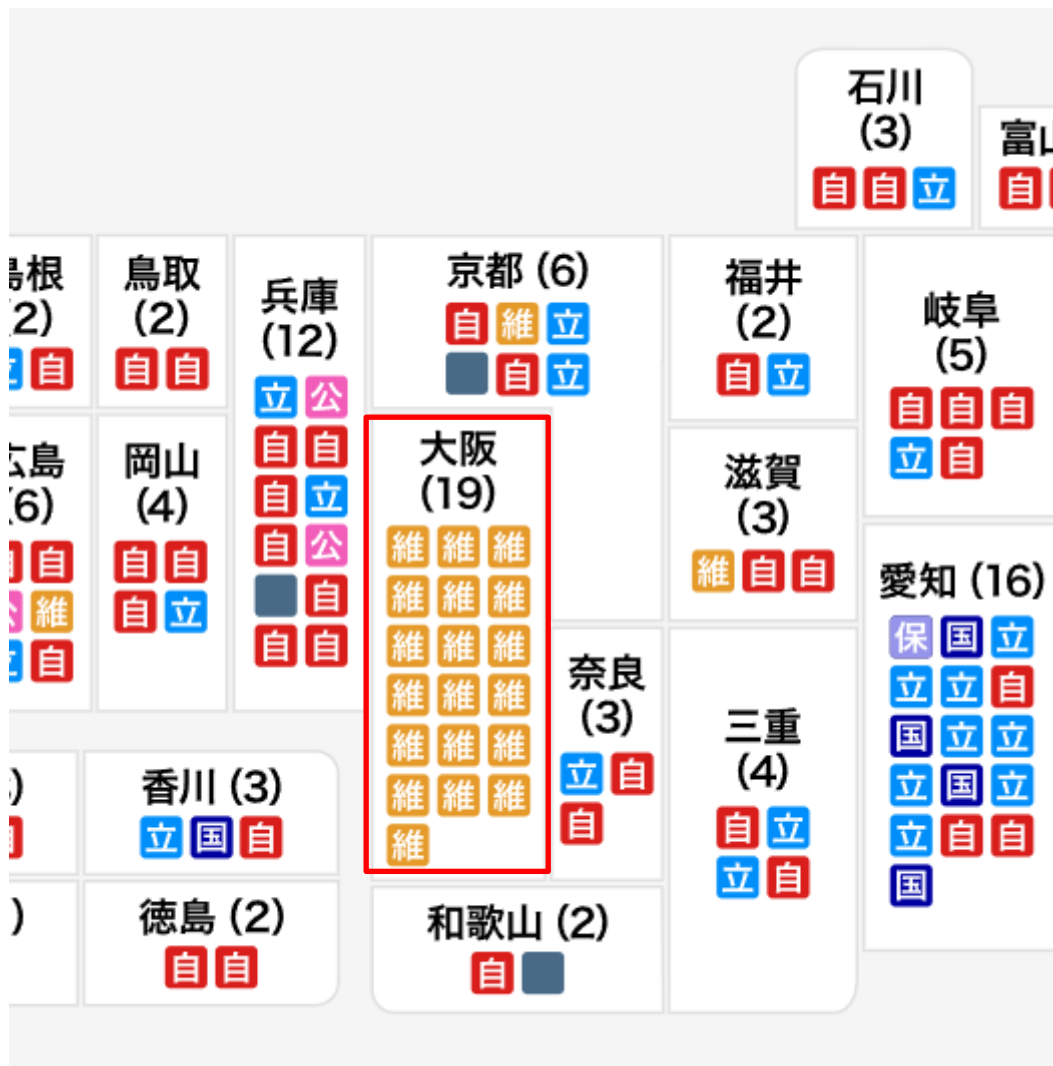
午後5:01 · 2024年10月28日 · **150.2万** 件の表示

(出所: <https://x.com/yoshidakoichiro/status/1850810102649135566>)

国民民主は7議席から28議席と4倍増。しかも比例立候補者が足りなくて3議席を他党に譲ることになったそうで、彼ら自身も想定していなかったのでしょうか。去年の離脱者を考慮しても3倍近くになったわけです。比例も259万から616万へと+357万の大躍進。政策重視で保守派の受け皿となったようです。

日本保守党は5議席以上行くかと思いましたが、3議席に留まりました。しかし得票率が2%を超え、そちらの条件で国政政党になったことは驚きでした。参政等は内紛で支持者が減るかと思っていたのですが、想像以上の強さを見せています。

維新は議席や比例得票を減らしましたが、大阪の19小選挙区で全勝しました。これは地域で強く支持されている証拠であり、私の方こそワイドショーレベルの知識で批判してしまったような気がします。なぜ彼らが支持されているのか、もう少し深く調べてみようと思います。



(出所 : <https://x.com/yoshidakoichiro/status/1850810102649135566>)

21. 石破首相続投で自民党は「トルドー自由党型衰退」か

さて選挙前は「自公で過半数 233 が勝敗ライン」と言っていた石破首相ですが、215 議席とそれを 1 割以上下回ったにもかかわらず続投を宣言しました。石破氏はかつて安倍首相に「選挙で負けたら退陣すべき」と迫ったことがあり、「おまえはダメだが俺は良い」という独善ぶりを批判されています。

一方、選対委員長だった小泉進次郎氏は辞任を申し入れました。石破首相にしてみれば「責任は小泉氏にあるのだから自分は辞めない」ということなのでしょう。私が石破氏のことを「極左」と呼ぶ理由の一端がここにも現れています。

石破首相、辞任せず国民民主に協力呼びかけ政権維持図る意向

2024/10/28 05:00

<https://www.yomiuri.co.jp/election/shugiin/20241028-0YT1T50029/>

2022 年 8 月 15 日特集記事

「大臣就任断り激怒させた」ライバル 石破茂が語る安倍晋三

石破は、党の総務会で「選挙に負けたにも関わらず、続投するのは理屈が通らない」と公然と安倍の辞任を求めた。

<https://www.nhk.or.jp/politics/articles/feature/87502.html>

小泉進次郎・選対委員長が辞表提出「結果が出なかったら責任をとるのは当たり前だ」

2024/10/28 12:46

<https://www.yomiuri.co.jp/election/shugiin/20241028-0YT1T50108/>

そして

「弱い親中少数与党」は中国が敵国に最も望む政治状況

です。

まさにそう考えた中国の工作によってトルドー自由党政権が誕生したとカナダの諜報機関が報告しています。トルドー政権はコロナにかこつけて国民の監視や保守派弾圧を強化しました（[フリーダムコンボイ事件](#)）。いまでは支持率を急落させながらインドとケンカを始めています。トルドー首相に対しての辞任圧力が強まっていますが、粘り続けてドツボに嵌っています。支持率は保守党 42.7 に対して 22.6 とダブルスコアをつけられ、仮にいま選挙を行えば 215 対 57 の大差で敗北する見込みです。

（出所はいずれも <https://newsinteractives.cbc.ca/elections/poll-tracker/canada/>）



Conservative

Pierre Poilievre

42.7%

▲+0.2



Liberal

Justin Trudeau

22.6%

▼-0.5



New Democrat

Jagmeet Singh

18.7%

▲+0.3



Bloc Québécois

Yves-François Blanchet

8.4%

▲+0.4



Green

Elizabeth May

4.6%

—



People's Party

Maxime Bernier

2.1%

▼-0.3



Other

1.0%

—



Projected

Likely

Min./Max.

This shows the best estimate of how many seats each party would win if an election were held today.

Conservative

Liberal

Bloc Québécois

New Democrat

Green

People's Party

Other

172 seats to majority ▶

215

57

42

27

2

0

0

22. 日米で「二重内戦」激化。中国にとっては絶好のボーナスステージ。

先進国内で揉めれば揉めるほど、反自由主義国家は好き勝手に暴れることができます。そのために彼らとそのシンパは

- 米国では民主党に政権を続けさせ、
- カナダではトルドー政権を延命させ、
- 日本では石破政権を延命させる

ことを狙うでしょう。

日本で言えば

- 「与党 対 野党」
- 「自民党内の安倍派 対 反安倍派」

の**二重内戦**で身動きが取れなくなるからです。

これは米国も全く同じで「保守対リベラル」「共和党内のトランプ派對反トランプ派」の**二重内戦**で混乱していました。米国ではあと一息でトランプ派が勝ちそうですが、そうはさせじと非合法的な妨害も入ることでしょう。片方が弱ったらそちらを支援して、永久に争いが終わらないように仕向けるのです。

そのうちどこかの政党が潰れたりもしますが、反自由主義国家にとって全くダメージはありません。もともと先進国内の「仲間割れ」なのですから。外から火種を持ち込んで、煽ってやっただけです。

実際、大敗した石破首相に退陣要求をする日本のメディアは少数です。

このまま石破政権が続けば、自民党は日本を沈めながら「左派衰退ルート」を辿るはず。

また米国も大統領選挙がすんなり終わると思えず、混乱が長引くと思います。

中国にとっては米国や日本をさらに弱らせる**「絶好のボーナスステージ」**になると考えます。

23. まとめ：米株強気へ転換！ただし日米二重内戦と第三次世界大戦激化に注意

米国の経済指標は堅調でリセッション懸念が後退、利下げサイクルの最終到達金利である**ターミナルレート**も切り上げられました。市場が予測した**ゴルディロックシナリオ**が正しかったということで、

私は 10 月上旬に米株に対し弱気から強気に転換しました。今でもエヌビディアなど **AI 関連や一部大型グロース株**によって主導される上昇には不安が付きまといます。しかしこれまではずっとそれらの銘柄が牽引してきたのに対し、今の上昇局面はバリュー株や中型株が主導する局面もあり **健全なセクターローテーション**が継続しています。

これにより米長期金利と米ドルが急上昇しました。米長期金利は引き続き **空気入れの役割**を果たすと考えています。それが低下してドル安になると、企業収益が好転する期待から米株が買われる **ドットコムバブル期のパターン**が復活しています。米国株の EPS（一株あたり利益）の伸びはゆるやかですが、**世界から米国に資金が集中するため引き続き「米株を売るのは危険」**と考えます。

- 一部の銘柄が市場全体を牽引する **AI バブル第一段階**はコスト倒れになることが見えてきて、いったん終わったと考える。しかし **第二段階は人間がやる仕事に取って代るため、今回とは比較にならないほどのバブルになる**と予想する。
- データセキュリティやデータソブリンなどの追い風に乗って半導体関連株はこれ以上のない追い風を受けてきた。しかしハードウェアには **収益逡増の法則**が働きにくいこともあり、その期待を上回る収益はしばらく上げられないと考えている。
- 経済指標を見るとインフレ圧力が低下し、特に **住居費が低下**し始めた。インフレが低下する一方で景気は堅調という **ゴルディロックスシナリオ**が織り込まれている。これ以上景気がスローダウンすれば **リセッション懸念**が高まるはずだが、今のところその兆候は薄い。
- **米実質金利が再上昇**し、米国に資金が集まる下地が復活した。しかし新興国経済が立ち直る可能性は低く、いずれ **連鎖破綻**の危機に陥ると考えている。
- 商業不動産(CRE)は引き続き **オフィスビルに注意**。 **住宅販売も腰折れ気配**。新築よりも中古の価格中央値が高いという異常事態になっている。住宅在庫が積み上がってきたが、これは金利低下を先読みした **買い控え**である可能性がある。また **住宅ローンの借り手のスコアが高いことやロックイン効果によって住宅が叩き売られて価格が急落する可能性はかなり薄い**と考える。
- 2020 年のレベルにまで **ローン延滞率がジリジリ上昇**している。さらに **奨学金ローン延滞が今年 10 月分からいきなり計上される**ことには要注意。
- 米中小銀行の中に不動産融資比率が高いものがまだ残っており、そこから危機が波及する可能性は十分ある。大手の米金融機関はほとんど心配ない。
- **米中小銀行の信用収縮**や **新興国連鎖破綻**の可能性続く。中国の経済対策により中国株が大きく反発しても、他の新興国はむしろ下げたりしている。新興国連鎖破綻のきっかけや中心になるのは中国ではないかもしれない。
- 日本の石破政権は **2009 年民主党以来の左派政権**であり、経済や安全保障を根本から破壊する可能性がある。しかしこれは中国にとってチャンスであり、マスメディアや中国シンパは石破政権を存続させるはずである。

状況としては 1990 年代後半の **ドットコムバブル**にまたも似てきました。下の 2 つの局面が循環的に訪れ、二極化とリバーサルを繰り返しながら昇ってゆくパターンが続いています。ただしこれまでのバブルと同じように、**米国のイールドスプレッドがマイナスへと突入する**かどうかはわからなくなって

きました。

(パターン a) 好調な経済指標 → インフレ懸念強まる → 米金利上昇・ドル高 → 米株は小幅高

(パターン b) 経済指標悪化 → インフレ懸念やわらぐ → 米金利低下とドル安 → 米株は大幅上昇

中国の実態を知る人が増え、「中国からの大脱出が始まった」と解釈しています。私はかれこれ 20 年以上、中国を成長させることの危険性に対し警鐘を鳴らしてきました。それを多くの人々が知るようになり、資本流出が本格化してきたのだと思います。また情報やサプライチェーンのセキュリティが重視され、米中ともに経済ブロックを強化し潜在敵国企業を追い出そうとしています。そこを見誤った企業や投資家は大損する可能性があると考えてください。

米実質金利が再上昇し始めたので、新興国からの資金流出はまた増加するかもしれません。いずれにしても 1997-98 年のような「新興国連鎖破綻を契機とした世界的信用収縮はいつでもあり得る」と覚悟しておくべきでしょう。世界史上最大級の中国不動産バブル崩壊が現実になれば、人類史上見たことがないようなクラウドイングアウトが中国で起きると考えます。しかしそれが世界に与えるインパクトは、私が想像していたよりもずっと小さくなりそうです。

先月と比較すると弊社の「三大潮流シナリオ」のうち「(1)ドットコムバブル型の米株上昇」は主役が減りつつも再開の気配がしています。「(2)新興国クラッシュ」は米実質金利上昇により再開の可能性があり、将来的に新興国が連鎖破綻に至ることは不可避と考えます。「(3)再ブロック化」も米欧の中国排除政策と中国の「鎖国・囲い込み政策」の両輪で、お互いの企業を追い出し「戦時経済色」をさらに強めてゆくと考えます。

ワイルドインベスターズの三大潮流

1. ドットコムバブル型の米株上昇

2. 途中で新興国クラッシュ

3. 再ブロック化

米大統領選は金融市場や賭け率で「ほぼトランプ」を織り込んでいます。トランプ氏が大統領になりバンス氏が副大統領になれば、急速に保守回帰が進んで米国は繁栄するでしょう。しかしそれでは困る検閲産業複合体や反米国家は、民主党政権による米国弱体化を継続したいと考えています。そのためにトランプ氏に対して司法の武器化やフェイクニュースによる攻撃を続けてきたわけで、その手口が多くの人にバレたところでやめる理由もありません。「毒を食らわば皿まで」です。さらなる暗殺計画だけでなく不正選挙も仕掛けるはずで、すでにその一端が報告されています。ハリス氏が勝利した場合に怪しまれないため、マスメディアは極端な調査や情報の一部だけを取り出して「支持率は拮抗」というイメージを植え付けています。

ただし危険な兆候として、紅海などで米英が海洋覇権を失いつつあります。船舶を攻撃するフーシ派に屈し、欧米諸国は紅海を避けるようになりました。その裏には当然、中国・ロシア・イランが居ます。米国内の「共和党 vs 民主党」、共和党内の「トランプ派 vs 反トランプ派」の二重内戦が激化している間に、中国は海上交易で重要なチョークポイントを奪い取って行きました。世界最強の米軍もトップからしてポリコレの毒に冒されており、敵味方の区別すらついていないようです。もはやカネを食うだけの利権集団に近いかもしれません。中国はこの時を逃さず、台湾・尖閣というチョークポ

イントを奪うことを考えているでしょう。

すでに第三次世界大戦が始まっているというのに、日本では親中の岸田政権から親北親中の石破政権にバトンが渡されました。その結果、10月の選挙で自民党が少数与党に転落するという予測が当たりました。日本国内でも「自民党 vs 左派政党」、自民党内の「安倍派 vs 反安倍派」の二重内戦が激化しています。中国としては大きなチャンスで、石破氏が退陣しないように守って自民党を「トルドー政権的衰退」へと追いやろうとするでしょう。

総合的には引き続き

「中国など新興国から逃げた資金が米国に向かう」

という潮流に変化はないと考えます。米国の覇権は揺らいでいますが、だからといって中国がすんなりその地位を奪い取れる感じではありません。再ブロック化が進めば、新興国のほうが危うい状況にあることは変わりありません。「暴落の秋」が終わりつつあることも考慮し

米株ロング＋新興国ショートの本流ポジションを維持

することを基本戦略とします。

まとめの表を少し変更しました。↓↓↓

株の上昇要因	順位	下落要因
世界経済は米国が牽引		新興国危機
経済指標や企業業績は堅調←New! カードローンや自動車ローンの延滞率が上昇しているが、住宅ローンの借り手が健全であるため信用収縮が米国で拡がる懸念は小さい。 製造業はダメだが、非製造業がそれを支えている 中国から逃げた資本が西側に戻る 新興国通貨が下落し、先進国のインフレ懸念が解消しつつある。 米最高裁が正気に戻れば、米国唯一の弱点である「内戦状態と社会不安」が解消する可能性がある。 米企業はインフレの価格転嫁ができており高い粗利を確保。所得の再配分もうまく行って「米国だけ良いデマンド・プル・インフレ」。 「再ブロック化」が進み、「サプライチェーン再構築」はやはり終わりつつあるか。	1	奨学金ローンの延滞が16%超に達しているが、それが統計に出て来るのは今年10月分から 失業率が上昇し、サム・ルールが発動した。 米国は内部から破壊され、特に民主党地盤の治安が致命的に悪化 重要なチョークポイントを米国が中国に奪われている 中国から西側資本が撤退本格化。しかし先進国はもちろん新興国にすら与える影響は少ない？ 第三次世界大戦の戦火拡大 中国で「不況型貿易黒字」が広がり、デフレ圧力が強まる可能性が高い ダイベストメントで化石燃料の供給が阻害される 中東諸国は米国に愛想を尽かし、ロシアに接近 ウクライナ侵略によりロシアを西側経済から強制排除、デフォルト連鎖でクレジットリスクが上昇。 中国が第二文革・毛沢東化・鎖国へと向かう。さらに民間人の報道も禁止。 中国地方自治体も土地使用権売却益が減り給料削減のデフレ政策 隠せなくなった中国の外貨不足。 新興国危機。中南米から中国へ 中国不動産バブル崩壊・シャドーバンキング問題・韓国デフォルト・ブラジルもヤバい。
選挙で共和党が勝ち始め、ポリコレの毒が抜かれるかもしれない。米国の内戦が終結して無敵になるかも。	2	EUで不満高まり崩壊の危機 移民問題でドイツ自滅。ブランド価値が揺るぎ欧州全体がピンチ！ 気候変動ビジネスで自縄自縛 グリーンフレーションをめぐる先進国内の対立

	3	東アジアの地政学リスク。 買い占め・粗悪品で脱中国が加速 韓国は米国ブロックから破門。ホワイト国から除外された影響が顕在化。 時間稼ぎはもう通じない 香港人権法・ウイグル人権法で米国は民主勢力を援護 中国企業を米市場から締め出す可能性アリ 中国企業のデフォルト増加
	4	欧州ソブリン問題 イタリアなど欧州各国で反 EU 政党が躍進 銀行・不動産などの不良債権処理。バランスシート調整。(二極化の源)。 ドイツ銀がヤバくなれば新興国危機と欧州ソブリン問題が再燃
	5	日本の潜在的デフレ圧力。日欧のマイナス金利で金融政策の限界が露呈 消費増税と TPP でデフレ脱却は困難に。 しかしそれが顕在化するのは米国株バブルが終わってから。と思っていたらスタグフ円安 (不況下のインフレと円安) が来そうで怖い
	6	北朝鮮が水爆開発。米国の覇権喪失・核拡散ドミノ・テロ組織による核恫喝・中国の内部抗争と分裂・押し寄せる難民・先進国に飛び火する人種・民族・宗教紛争などの危機。
	7	経済のブロック化で成長率鈍化。さらには国際紛争の可能性高まる。
	8	
	9	
おそらく AI バブルが始まった。	廃棄	不動産ローン貸し倒れや金融機関の連鎖倒産で信用収縮が始まる。

日銀・ECB の大規模追加緩和で米国バブルの燃料増える。新興国は「米国への資金流出」「政情不安」「資源価格下落」などの3重苦で出口なし。

米金利上昇により新興国で金融危機の恐れあり。特に中南米に注意

東アジアは常に武力衝突の危険がある。**中国不動産バブル崩壊・韓国デフォルト**は確定的。しかし日本の失策でそのツケは日本が払うかもしれない。

欧州ソブリン問題（特にスペイン）も、米国好景気と日本の対策で爆発が先延ばしになった。しかしブラジルやアルゼンチンへの投資が、欧州危機を再燃させる可能性がある。またウクライナの騒乱は東欧のリスクを高める。

[基本戦略]

【米国株】

- 米企業は依然として強いが、米株は高いバリュエーションの反動が出る可能性アリ
- 景気後退させないとインフレ鎮静化しないかも
- 1970-80年のインフレ時代を再研究すべし
- 絶対正義のバイデン政権でどこまで沈むか

【欧州株】

- 欧州は簡単には立ち直れない
- そもそも脱炭素を言い出してドツボに嵌った人たち。ポリコレ亡国の先頭を突っ走っている

【新興国株】

- 新興国は米金利上昇で死ぬ
- 80年代に米金利上昇で中南米危機が起きた

【日本株】

- 日本株はかなり魅力的
- 再ブロック化の超追い風→高度経済成長再び
- 円安で外国人から見ると超割安

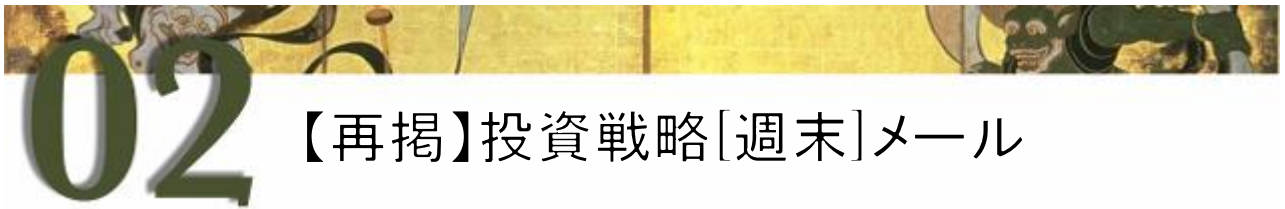
→日本製品購入や投資が増える

- 株価バリュエーションも米株より割安
- 日本はデフレ体質なので、インフレ緩和される
逆に米国はインフレ体質でインフレ加速

日本株のリスク

- 中国側に取り込まれ、米国に制裁される
- 少子化
- 政府や企業が追い風を生かせない。これがあったので、日本株への投資をためらっていた

(終)



02 【再掲】投資戦略[週末]メール

24. 【再掲】投資戦略アップデート[週末]メール

(20241006) 西側経済から切り離され仕手化する香港株。米金利上昇・ドル高で米株上がる(パターン a)。信用収縮でなければ米株を買うべきだが。

ワイルドインベスターズ投資戦略アップデート (20241006) 西側経済から切り離され仕手化する香港株。米金利上昇・ドル高で米株上がる(パターン a)。信用収縮でなければ米株を買うべきだが。

ただいま 2024 年 10 月 06 日(日) 19:48 です。

*****[チャート集]*****

最新チャートブックは会員サイトからご覧ください。

https://wildinvestors.com/chartbooks_list

ログイン方法や使い方

【週末だけのグローバル投資】ワイルドインベスターズ会員サイトリニューアルオープンのお知らせ (20231218)

<http://blog.livedoor.jp/contrarian65-wild/archives/51287991.html>

トラブルシューティング

ワイルドインベスターズ会員サイト、トラブルシューティングと FAQ (20231218_2)

<http://blog.livedoor.jp/contrarian65-wild/archives/51287992.html>

不都合等があればお知らせください。

*****[公開用動画（ブログ）と投資戦略]*****

=====

【公開用アップデート概略】

今週は公開用の動画を1本作成しましたので、それに代えさせていただきます。

それを前提に投資戦略を組み立てていますのでご高覧ください。

動画は長いので2倍速推奨です。

【概要】

石破内閣はけっこうヤバイメンツで、まともな人は数人しかいません。

叩けばいくらでも埃（ほこり）が出てきそうで、不祥事には事欠かないでしょう。

これまでマスメディアや左派は、高市氏を攻撃するために他の自民党派閥への攻撃を手控えていました。

たとえば総裁選で政治資金不記載（左派が言う裏金）議員がいましたが、それは「高市氏を支持する安倍派」だけ叩かれていました。

実は石破氏の推薦人にもいて、閣僚にもなったわけですが、それはいないことにされていました。

ところが今後は「高市潰し」から「自民潰し」に転換するため、これまで褒めちぎるってきた石破氏を一転して叩き落すことになります。

彼らは保守派が残る自民党よりも、より極左に近い立憲民主党などを好むからです。

石破自民党は保守派から見放され、得票数が減って議席を減らすでしょう。

立憲民主党の得票数が増えるとは思いますが、競り合いに勝って議席は増えるはず。

自民党を見限った保守派や右派は思い思いに支援したい議員や政党に投票するため、**「死票」が増える**と予想します。

2024年10月05日 19:29

投資戦略動画（公開用）20241005 高市降ろし達成で次は予定通り自民降ろし。攻めるポイントに事欠かない石破内閣。自民は保守が離れ、得票と議席減らす。

<http://blog.livedoor.jp/contrarian65-wild/archives/51291745.html>

2024 年 10 月 06 日 16:12

助言パフォーマンス 2024 年 09 月

<http://blog.livedoor.jp/contrarian65-wild/archives/51291759.html>

*****[会員さん用動画と投資戦略]*****

投資戦略アップデート（全会員共通）20241006 西側経済から切り離され仕手化する香港株。米金利上昇・ドル高で米株上がる（パターン a）。信用収縮でなければ米株を買うべきだが。

（上のリンクはユーチューブ、下はランブルで同じ動画です）

<https://youtu.be/0NNj9UowvTE>

<https://rumble.com/v5hnqtd-20241006a.html>

ポートフォリオ会員さん、個別銘柄会員さんにはパフォーマンスレポートを近々リリースしますので今週はお休みさせていただきます。

=====

【会員さん用アップデート概略】

1. 西側経済から切り離され仕手化する香港株
2. 米金利上昇・ドル高で米株上がる（パターン a）
3. 信用収縮でなければ米株を買うべきだが

関連リンク

ヘッジファンド、中国株に殺到ー「銘柄選択の必要すらない」と強気派

2024 年 10 月 2 日 14:00 JST

<https://www.bloomberg.co.jp/news/articles/2024-10-02/SKPAECT1UMOW00>

上海総合株価指数の推移(長期チャート)

<https://www.kabutore.biz/shisu/syanghai.html>

Real-time Sahm Rule Recession Indicator (SAHMREALTIME)

<https://fred.stlouisfed.org/series/SAHMREALTIME>

【1. 西側経済から切り離され仕手化する香港株】

9月の弊社助言パフォーマンスは

「強烈な逆流」

「米株ではなく米債ETFを買った」

ため指数に対して大きく劣後しました。

特に香港・上海株は17%超、底値からだると一時+30%超のブチ上げ。

おかげで新興国株指数も急騰し、SP500 買い+新興国売りだけで-4.62%の「ブル逆流」となりました。

10月に入っても中国株は上げ続け、3割超ブチ上げています。

しかしこれを買ってはなりません。

その理由を説明します。

先進国の株は長期的に差が開くことはあっても、短期的には連動します。

なぜならば経済がお互いに影響を与え、また資本の移動が自由なので「裁定」が働くからです。

たとえば米株が上がり過ぎるとそれを売って日欧の似た株を買う人が現れるので、前者の株は下げて後者が上がります。

また先進国は「通貨安で株高」「通貨高で株安」になりやすいので、同じ通貨で見た場合は「短期的に」かなり連動します。

しかし先進国に連動しない株式市場は資本主義とは切り離された国であり、「仕手株」と同じよう

に極端な値上がりや値下がりを行います。

たとえば 2006-2007 年の上海株は 2 年で 6 倍になり、1 年でほぼすべて吐き出しました。

先進国から切り離された市場はバリュエーションではなく需給で動くので、巨大な「イナゴタワー」を形成することがあるのです。

上海株は 2015 年から 2016 年にかけても一気に倍以上になり、その値上がりをほとんど消す「かなりのイナゴタワー」を形成しています。

おそらく香港も先進国経済と切り離され、極端な値動きをするようになると私は予想します。

【2. 米金利上昇・ドル高で米株上がる(パターン a)】

金曜夜の雇用統計は堅調さを示し、米株は「良いところ取り」上昇をしました。

米金利上昇、ドル高にもかかわらず米株が上昇する (パターン a) です。

これはドットコムバブル期や今回の上昇相場で見られた「強い上昇パターン」。

一方失業率は下げ、サームルールは分岐点の 0.50 に逆戻りしました。

しかし過去 9 回はリセッション入りを回避できたことはないので、やはり景気後退が視野に入るのではないのでしょうか。

【3. 信用収縮でなければ米株を買うべきだが】

新興国が踏み上げられて先月のパフォーマンスが悪かったのは「本流ポジションの性質」として許容範囲です。

ただし米株反発を取り損ねたことに関しては、少し悔いが残ると考えています。

実は「債券 ETF を売って米株を買い戻す」ことを何度か考えました。

しかし「買うべき」「買ってはダメ」のサインが両方出ていたため、見送ったのです。

原則的に「信用収縮局面でなければ米株は買いっぱなしにしておくべき」と私は考えます。

ただ「えっ、ここから買うんでっか？」と迷う気持ちもあります。

それは日々刻々判断していますので、どこかでまた米株を買うことになるかもしれません。

(終)

*****[パフォーマンス]*****

2024 年 09 月のパフォーマンス（暫定）

<http://blog.livedoor.jp/contrarian65-wild/archives/51291759.html>

「永久保有」は必需品銘柄の一部が特に弱く、また債券 ETF もドル円下落をカバーできず必需品指数に対して 1.26 ポイント下回りました。

「グローバルマクロ」は永久保有部分のマイナスの上に強烈な「逆流」を食らって MSCI ワールド指数に対し 5.76 ポイント下回りました。

「個別銘柄」も債券 ETF がドル円下落をカバーできず、かつ強烈な「逆流」を食らって MSCI ワールド指数に対し 6.10 ポイント下回りました。

-2.11% 永久保有

-5.66% グローバルマクロ

-6.00% 個別銘柄

円ベース	現地通貨	通貨	
+0.10%	+1.87%	-1.74%	MSCI ワールド指数(*)
+4.87%	+6.72%	-1.74%	MSCI 新興国指数(*)
+0.25%	+2.02%	-1.74%	米 S&P 500 指数
+0.90%	+2.68%	-1.74%	米 NASDAQ 総合指数
-2.46%	-2.46%	+0.00%	東証株価指数 TOPIX
-1.88%	-1.88%	+0.00%	日経平均
-0.85%	+0.90%	-1.74%	米国生活必需品指数(*)
+0.71%	+2.49%	-1.74%	情報技術(*)
+5.23%	+7.09%	-1.74%	一般消費財(*)
+2.81%	+4.63%	-1.74%	コミュニケーション(*)

【参考】(*)印は配当込みの指数です

*****[ブログ]*****

2024 年 09 月 30 日 23:28

【週末だけのグローバル投資】会員レポート DEEP INSIDE 2024 年 09 月号「石破首相誕生！民主党以来の左派政権で日本は沈むか」

<http://blog.livedoor.jp/contrarian65-wild/archives/51291701.html>

2024 年 09 月 29 日 22:30

【週末だけのグローバル投資】石破総裁誕生！極左政権で日本の治安さらに崩壊か。親米タカ派ではなく親特定アジア。自民党は保守・無党派支持失い欧州の混乱へ。

<http://blog.livedoor.jp/contrarian65-wild/archives/51291691.html>

*****[メルマガ]*****

登録がまだの方はこちらへどうぞ。

<http://www.mag2.com/m/0001237271.html>

バックナンバーはこちら

<http://archive.mag2.com/0001237271/index.html>

(20241013) 9 月のパフォーマンス訂正、マイナス大幅縮小。10 月プラスだが指数に対する劣後は厄介。結局米債 ETF を売り、米株を買い戻した。

ワイルドインベスターズ投資戦略アップデート (20241013) 9 月のパフォーマンス訂正、マイナス大幅縮小。10 月プラスだが指数に対する劣後は厄介。結局米債 ETF を売り、米株を買い戻した。

ただいま 2024 年 10 月 14 日 (月) 00:05 です。

*****[チャート集]*****

最新チャートブックは会員サイトからご覧ください。

https://wildinvestors.com/chartbooks_list

ログイン方法や使い方

【週末だけのグローバル投資】ワイルドインベスターズ会員サイトリニューアルオープンのお知らせ (20231218)

<http://blog.livedoor.jp/contrarian65-wild/archives/51287991.html>

トラブルシューティング

ワイルドインベスターズ会員サイト、トラブルシューティングと FAQ (20231218_2)

<http://blog.livedoor.jp/contrarian65-wild/archives/51287992.html>

不都合等があればお知らせください。

wi@wildinvestors.com

*****[公開用動画 (ブログ) と投資戦略]*****

=====

【公開用アップデート概略】

今週は公開用の動画を1本作成しましたので、それに代えさせていただきます。

それを前提に投資戦略を組み立てていますのでご高覧ください。

動画は長いので2倍速推奨です。

【概要】

米大統領選の賭け率はハリス氏が急低下、トランプ氏が逆転して9ポイントリードしています。

実際にはそれ以上に差が開いているでしょう。

なぜなら「どんな手を使っても」トランプ氏が大統領選になることを防ぎたい人々がいるはずで、その分トランプ氏の賭け率はディスカウントされているだろうからです。

**この支持率が逆転した理由は彼女の能力や性格や実績が
バレてしまったからです。**

「ハリス隠し戦略」が破綻しメディア露出を増やしたところ、ドツボに嵌まってしまいました。

インタビュアーがイライラして「ちゃんと答えろ」「現実の話をしているんだ」とツッコんでいます。

ある集会ではプロンプターが壊れ、ハリス氏は「あと32日」ばかり何度も繰り返しました。

原稿がないと何も話せないという噂通りで、本当に検察官なのかと思います。

彼女は不勉強でたびたび構文すら失ってしまいます。

その意味では自分なりに勉強し、構文を使って話す小泉進次郎氏のほうが話は通じそうだと私は思います。

公開用動画07月26日で述べたように、そもそも「史上最低の副大統領」であるハリス氏の能力が今までバレていないことがおかしいのです。

ハリス氏が副大統領であることを知っている支持者は3割程度だと言われています。

つまり7割は彼女が現職副大統領であり、国境問題担当であることを知らないのです。

**「ハリス隠し」は存在感や実績のなさを逆手に取った
凄まじい戦略でした。**

ハリス氏は

「私が大統領になったらトランプが起こした不法移民・インフレ・格差などの問題を解決します！」

「トランプの時代は終わりだ！」

などと、**まるで今の大統領がトランプ氏であるかのような発言**をします。

副大統領候補であるウォルツ氏も「過去4年の繰り返しはもうたくさん！」と言います。

今はバイデン＝ハリス時代なのに、その惨状はトランプ氏がもたらしてきたものだと言っているのです。

奇妙なことだと思いますが、ハリス氏が現職副大統領であることを知らない人々にはアピールできていたのかもしれませんが。

しかしハリス氏のメディア露出が増えたことで、隠していたことが知られて戦略が破綻したということです。

むしろそのデタラメな戦略が、大統領選1か月前までよく通用していたなと思います。

2024年10月13日 12:57

投資戦略動画（公開用）20241013 ハリス隠し崩壊！露出増やして支持率急落。放送事故連発、インタビューがイライラ。構文があるだけ進次郎氏がずっとマシ。

<http://blog.livedoor.jp/contrarian65-wild/archives/51291819.html>

*****[会員さん用動画と投資戦略]*****

投資戦略アップデート（全会員共通）20241006 西側経済から切り離され仕手化する香港株。米金利上昇・ドル高で米株上がる（パターンa）。信用収縮でなければ米株を買うべきだが。

（上のリンクはユーチューブ、下はランブルで同じ動画です）

https://youtu.be/p_VgCmZrzgg

<https://rumble.com/v5ij2st-20241013910etf.html>

ポートフォリオ会員さん、個別銘柄会員さんにはパフォーマンスレポートと動画をリリースしましたので今週はお休みさせていただきます。

=====

【会員さん用アップデート概略】

-
1. 9月のパフォーマンス訂正。マイナス大幅縮小
 2. 10月プラスだが指数に対する劣後は厄介
 3. 結局米債ETFを売り、米株を買い戻した
-

関連リンク

【パフォーマンス訂正済み】

2024年10月06日 16:12

助言パフォーマンス 2024年09月（訂正版）

<http://blog.livedoor.jp/contrarian65-wild/archives/51291759.html>

【1. 9月のパフォーマンス訂正。マイナス大幅縮小】

先月のパフォーマンスを計算しているうちに矛盾を発見し、遅くなってしまいました。

結局は月中に修正したExcelスプレッドシートがおかしかったようで、その再修正とその確認に時間がかかったりしました。

その結果、パフォーマンスのマイナスが大きく縮小しました。

(誤) (正)

-2.11% -0.28% 永久保有

-5.66% -2.75% グローバルマクロ

-6.00% -2.93% 個別銘柄

この損失のほとんどは香港株急反発によるものなので、本流ポジションでいずれ回収できると考えています。

つまり「損失ではあるが大きな問題ではない」ということです。

【2. 10月プラスだが指数に対する劣後は厄介】

10月に入ってからのパフォーマンスはドル円上昇によりプラス。

しかし指数に対する劣後は、株式の代わりに債券ETFを組み入れていたことによるものです。

これは「資産配分のミス」であり、取り返すことは至難だと感じます。

つまり「**利益ではあるが大きな問題**である」ということです。

しかし食らってしまったものは仕方がないので、地道に返して行きたいと思います。

収益率	指数	差	投資戦略
+1.78%	+2.47%	-0.69%	永久保有
+1.83%	+4.12%	-2.29%	グローバルマクロ
+1.73%	+4.12%	-2.39%	個別銘柄

【3. 結局米債ETFを売り、米株を買い戻した】

先週は「原則的に信用収縮局面でなければ米株は買っぱなしにしておくべき」と言いつつ、**「えっ、ここから買うんでっか？」**と迷う気持ちがあると述べました。

結局「耐える」ことをやめ、今週半ばに債券ETFを売って米株を買い戻しました。

愚者の後知恵ですが「米株、もっと早く買うべきだった」と反省しています。

銘柄は最後まで迷いましたが、AIバブルに対して懐疑的であることに変化はありません。

株を買い戻した理由の一部は以下の通りです。

(1) 季節要因

通常、秋は株が売られやすく特に10月中旬近辺に年間の底をつけやすい。しかし今年はそれどころか、史上最高値を更新している。

(2) 米長期金利上昇とドル高にもかかわらず米株がジリジリ上がる（パターンa）。これが米長期金利低下でドル安になると（パターンb）で米株がブチ上がる。

(3) このジリ高はおそらく私のようにドル債券やドル MMF にしたまま株価下落を待っている待機資金が多いのではないかな？

それでも「(パターン a) のうちに買えてよかった」と考えています。

米金利上昇＋ドル高にもかかわらず米株が上昇する（パターン a）は株が強いサイン。

それが米金利低下＋ドル安の（パターン b）に入ると米株はさらに上昇が加速します。

反省することばかりですが、それはそれとして前を向いて行きます。

（終）

*****[パフォーマンス]*****

2024 年 10 月の助言パフォーマンス（暫定）

「永久保有」はドル円上昇の恩恵受けるも債券 ETF が金利上昇により値下がりし米国生活必需品指数を 0.69%ポイント下回りました。

「グローバルマクロ」は永久保有部分に本流ポジションのプラスを上乗せしましたが、債券 ETF の劣後が響いて MSCI ワールド指数に対し 2.29%ポイント下回りました。

「個別銘柄」はドル円上昇と本流の恩恵受けるも債券 ETF が金利上昇により値下がりし MSCI ワールド指数に対し 2.39%ポイント下回りました。

収益率	指数	差	投資戦略
+1.78%	+2.47%	-0.69%	永久保有
+1.83%	+4.12%	-2.29%	グローバルマクロ
+1.73%	+4.12%	-2.39%	個別銘柄

円基準	現地	通貨	指数
+4.12%	+0.28%	+3.83%	MSCI ワールド指数(*)
+2.85%	-0.94%	+3.83%	MSCI 新興国指数(*)
+4.78%	+0.91%	+3.83%	米 S&P 500 指数

+4.71%	+0.85%	+3.83%	米 NASDAQ 総合指数
+2.28%	+2.28%	+0.00%	東証株価指数 TOPIX
+4.45%	+4.45%	+0.00%	日経平均
+2.47%	-1.31%	+3.83%	米国生活必需品指数(*)
+5.90%	+1.99%	+3.83%	情報技術(*)
+1.97%	-1.79%	+3.83%	一般消費財(*)
+3.96%	+0.13%	+3.83%	コミュニケーション(*)

【参考】(*)印は配当込みの指数です

2024 年 09 月の助言パフォーマンス (確定)

<http://blog.livedoor.jp/contrarian65-wild/archives/51291759.html>

「永久保有」は必需品銘柄がほぼ同等の下落。債券 ETF はかなりマシな下げと前月過小評価分の利益約 0.21% が加わって米国生活必需品指数を 0.57 ポイント上回りました。

「グローバルマクロ」は永久保有部分のマイナスの上に強烈な「逆流」を食らって MSCI ワールド指数に対し 2.85 ポイント下回りました。

「個別銘柄」も債券 ETF がドル円下落をカバーできず、かつ強烈な「逆流」を食らって MSCI ワールド指数に対し 3.03 ポイント下回りました。

-0.28% 永久保有

-2.75% グローバルマクロ

-2.93% 個別銘柄

円ベース 現地通貨 通貨

+0.10%	+1.87%	-1.74%	MSCI ワールド指数(*)
+4.87%	+6.72%	-1.74%	MSCI 新興国指数(*)
+0.25%	+2.02%	-1.74%	米 S&P 500 指数
+0.90%	+2.68%	-1.74%	米 NASDAQ 総合指数
-2.46%	-2.46%	+0.00%	東証株価指数 TOPIX
-1.88%	-1.88%	+0.00%	日経平均
-0.85%	+0.90%	-1.74%	米国生活必需品指数(*)
+0.71%	+2.49%	-1.74%	情報技術(*)
+5.23%	+7.09%	-1.74%	一般消費財(*)
+2.81%	+4.63%	-1.74%	コミュニケーション(*)

【参考】(*)印は配当込みの指数です

*****[ブログ]*****

2024 年 10 月 07 日 20:40

【週末だけのグローバル投資】高市降ろし達成で次は予定通り自民降ろし。攻めるポイントに事欠かない石破内閣。自民は保守が離れ、得票と議席減らす。

<http://blog.livedoor.jp/contrarian65-wild/archives/51291761.html>

*****[メルマガ]*****

登録がまだの方はこちらへどうぞ。

<http://www.mag2.com/m/0001237271.html>

バックナンバーはこちら

<http://archive.mag2.com/0001237271/index.html>

(20241019)パフォーマンスはどの戦略も大きく挽回。中国株急騰で米株上昇かと思ったら関係なし。中国、84 兆円住宅支援でさらに供給過剰へ。

ワイルドインベスターズ投資戦略アップデート (20241019) パフォーマンスはどの戦略も大きく挽回。中国株急騰で米株上昇かと思ったら関係なし。中国、84 兆円住宅支援でさらに供給過剰へ。

ただいま 2024 年 10 月 19 日 (土) 22:43 です。

*****[チャート集]*****

最新チャートブックは会員サイトからご覧ください。

https://wildinvestors.com/chartbooks_list

ログイン方法や使い方

【週末だけのグローバル投資】ワイルドインベスターズ会員サイトリニューアルオープンのお知らせ (20231218)

<http://blog.livedoor.jp/contrarian65-wild/archives/51287991.html>

トラブルシューティング

ワイルドインベスターズ会員サイト、トラブルシューティングと FAQ (20231218_2)

<http://blog.livedoor.jp/contrarian65-wild/archives/51287992.html>

不都合等があればお知らせください。

wi@wildinvestors.com

*****[公開用動画 (ブログ) と投資戦略]*****

=====

【公開用アップデート概略】

今週は公開用の動画を3本作成しましたので、それに代えさせていただきます。

それを前提に投資戦略を組み立てていますのでご高覧ください。

動画は長いので2倍速推奨です。

1 本目の動画は米民主党内で「内戦」が起きているという話。

バイデン政権の評判が悪いのでハリス副大統領は距離を置き、「変える！」と言っています。

しかしバイデン氏は「ハリス氏は私の政策の中心人物だった」と抱き付き攻撃。

「お前も共犯や！逃がさへんでえー」ということでしょう。

- ただ米国は保守派弾圧の上にハリス-バイデンの二重内戦。
- 日本も自民対左派政権の上に自民党内で安倍派根絶の二重内戦。

日米の混乱に乗じて中国が台湾を包囲して軍事演習を行ったことを忘れてはなりません。

2 本目の動画は民主党ハリス陣営からカトリック・労働組合・黒人・ヒスパニックなど岩盤支持層が逃げているという話。

おまけにウォルツ副大統領候補やクリントン元大統領までハリス氏の背中から撃っています。

おかげで賭け率は急速に「トランプ勝利」へと傾き始めました。

しかしジョージア州では投票の数え直しが禁止され、「トランプに打撃」と報じられました。

なぜ投票の数え直しがトランプ氏に打撃なのか、よく考えてみてください。

彼らは「最初に報じられた選挙結果に文句を言うな。数え直すな。」と言っているのです。

3 本目の動画はハリス氏が FOX ニュースに乗り込み、放送事故級の大爆死を遂げた話。

おかげで賭け率は59対41で「トランプ勝利」へとさらに傾きました。

ハリス氏は何を聞かれても「トランプは精神的に不安定で民主主義の脅威」と答えます。

しかしこのインタビューを通じて、ハリス氏こそが「精神的に不安定で民主主義の脅威」であることを示しました。

これによって

「大統領戦は終わった。トランプで決まり」

という人もいます。

私は「非合法な手段を使っても彼らはトランプ降ろしを続けるだろう」と想定しています。

2024 年 10 月 15 日 00:27

投資戦略動画（公開用）20241014 逃げるハリス氏にバイデン氏が抱きつき攻撃「お前も共犯」。実績のなさを逆手に取った「ハリス隠し」破綻。日米「多重内戦」で喜ぶ中国。

<http://blog.livedoor.jp/contrarian65-wild/archives/51291844.html>

2024 年 10 月 16 日 23:15

投資戦略動画（公開用）20241016 民主党岩盤支持層が次々に離反！トランプ優勢拡大。「味方撃ち」が止まらない米民主党。投票数え直しが禁じられるとトランプ氏に痛手。

<http://blog.livedoor.jp/contrarian65-wild/archives/51291869.html>

2024 年 10 月 18 日 21:58

投資戦略動画（公開用）20241018 ハリス氏、FOX に乗り込み放送事故級の大爆死。「これで決まり」と言う人も。精神的に不安定で民主主義の脅威はどちらか。

<http://blog.livedoor.jp/contrarian65-wild/archives/51291885.html>

*****[会員さん用動画と投資戦略]*****

投資戦略アップデート（全会員共通）20241006 西側経済から切り離され仕手化する香港株。米金利上昇・ドル高で米株上がる（パターン a）。信用収縮でなければ米株を買うべきだが。

（上のリンクはユーチューブ、下はランブルで同じ動画です）

<https://youtu.be/CgF-yBAhfXk>

<https://rumble.com/v5ja265-2024101984.html>

ポートフォリオ会員さん、個別銘柄会員さんにはこれらを前提にさらに詳しい動画を用意しています。

=====

【会員さん用アップデート概略】

-
1. パフォーマンスはどの戦略も大きく挽回
 2. 中国株急騰で米株上昇かと思ったら関係なし
 3. 中国、84 兆円住宅支援でさらに供給過剰へ
-

関連リンク

中国、未完成住宅への与信をほぼ倍増－84 兆円相当に拡大へ

2024 年 10 月 17 日 11:34 JST 更新日時 2024 年 10 月 17 日 14:11 JST

<https://www.bloomberg.co.jp/news/articles/2024-10-17/SLHAOLT1UMOW00?srnd=cojp-v2>

【1. パフォーマンスはどの戦略も大きく挽回】

今週はどの弊社投資戦略もプラスを上積みし、指数に対する劣後が縮小しました。

債券 ETF を売って株 100%にしたことが、何とか間に合ったようです。

幸いなことに組み入れた成長銘柄がさっそく貢献。

思ったより早く「本流」に戻ったため、09 月の損失をほぼ取り戻したと言えます。

先週「09 月の損失のほとんどは香港株急反発によるもので、本流ポジションでいずれ回収できるため大きな問題ではないと考える」と書いた通りになりました。

【2. 中国株急騰で米株上昇かと思ったら関係なし】

今週は香港株が急反落。

しかし SP500 は上昇継続を継続しました。

先週は「中国株急騰によって米株が上昇したかもしれない」と書きました。

今週の動きを見ると、どうやら関係なかったようです。

【3. 中国、84 兆円住宅支援でさらに供給過剰へ】

中国政府は未完成不動産プロジェクト向けの与信規模を 4 兆元（約 84 兆円）にほぼ倍増。

これは期待に届かなかったようで、その日は「香港上場の不動産銘柄から成るブルームバーグの指数は 8 % 余り下落」となりました。

中国では推計 4800 万戸の未完成マンションにローンをつけて返済させています。

それに住めるようになるという意味では朗報でしょう。

しかしすでに 14 億人の人口に対し 34 億人分の住宅を作ってしまったています。

この政策も **供給過剰に拍車をかけ、民間債務を政府債務に付け替えるだけ**なのです。

中国株はもちろん、中国関連株も決して買わないようにしてください。

(終)

*****[パフォーマンス]*****

2024 年 10 月の助言パフォーマンス（暫定）

「永久保有」は債券から株へのシフトが効き、また成長銘柄が上昇したため大幅改善。米国生活必需品指数への劣後が-0.12%へ縮小しました。

「グローバルマクロ」は永久保有部分の利益が増し本流ポジションのプラスも加わって、MSCI ワールド指数に対し-0.66%へと 1.63P 縮小しました。

「個別銘柄」も銘柄選択と本流が奏功し指数との差が-0.73P に 1.66P 縮小しました。

収益率	指数	差	投資戦略
+3.37%	+3.49%	-0.12%	永久保有
+4.35%	+5.01%	-0.66%	グローバルマクロ
+4.27%	+5.01%	-0.73%	個別銘柄

円基準	現地	通貨	指数
+5.01%	+0.86%	+4.11%	MSCI ワールド指数(*)

+2.75%	-1.31%	+4.11%	MSCI 新興国指数(*)
+5.95%	+1.77%	+4.11%	米 S&P 500 指数
+5.83%	+1.65%	+4.11%	米 NASDAQ 総合指数
+1.63%	+1.63%	+0.00%	東証株価指数 TOPIX
+2.80%	+2.80%	+0.00%	日経平均
+3.49%	-0.60%	+4.11%	米国生活必需品指数(*)
+7.04%	+2.82%	+4.11%	情報技術(*)
+3.49%	-0.59%	+4.11%	一般消費財(*)
+4.60%	+0.48%	+4.11%	コミュニケーション(*)

【参考】(*)印は配当込みの指数です

*****[ブログ]*****

2024 年 10 月 14 日 08:00

【週末だけのグローバル投資】ハリス隠し崩壊！露出増やして支持率急落。放送事故連発、インタビュアーがイライラ。構文があるだけ進次郎氏がずっとマシ。

<http://blog.livedoor.jp/contrarian65-wild/archives/51291833.html>

*****[メルマガ]*****

登録がまだの方はこちらへどうぞ。

<http://www.mag2.com/m/0001237271.html>

バックナンバーはこちら

<http://archive.mag2.com/0001237271/index.html>

(20241025)「選挙前アノマリー」全く効かず日本株下落。しかも円安ドル高なのに売られる激弱くん。自民大敗でいったん日本株は買い戻される。

ワイルドインベスターズ投資戦略アップデート (20241025)「選挙前アノマリー」全く効かず日本株下落。しかも円安ドル高なのに売られる激弱くん。自民大敗でいったん日本株は買い戻される。

ただいま 2024 年 10 月 26 日 (土) 02:28 です。

*****[チャート集]*****

最新チャートブックは会員サイトからご覧ください。

https://wildinvestors.com/chartbooks_list

ログイン方法や使い方

【週末だけのグローバル投資】ワイルドインベスターズ会員サイトリニューアルオープンのお知らせ (20231218)

<http://blog.livedoor.jp/contrarian65-wild/archives/51287991.html>

トラブルシューティング

ワイルドインベスターズ会員サイト、トラブルシューティングと FAQ (20231218_2)

<http://blog.livedoor.jp/contrarian65-wild/archives/51287992.html>

不都合等があればお知らせください。

wi@wildinvestors.com

*****[公開用動画 (ブログ) と投資戦略]*****

=====

【公開用アップデート概略】

今週は公開用の動画を2本作成しましたので、それに代えさせていただきます。

それを前提に投資戦略を組み立てていますのでご高覧ください。

動画は長いので2倍速推奨です。

1 本目の動画はハリス氏がFOXに出演したとき

「私の失政はトランプが立候補したせい」

と責任転嫁した話。

これまでトランプ氏に「嘘つき」のレッテルを貼って責め立てていたハリス氏ですが、同程度の嘘つきだと思われ始めたようです。

一般論として経営者が変な言い訳や他責を始めたなら逃げるべきです。

ハリス=ウォルツの民主党株式会社は他人のせいにしてばかりであることがバレました。

だからトランプ=JD ヴァンスの共和党株式会社に党员もビジネス界も有権者も逃げ出しているのです。

2 本目の動画は一般的に民主党優位の世論調査でトランプ氏がリードする異常事態が起きているという話。

過去2回は直前まで民主党候補の支持率が圧倒していたため、かなり意外です。

もし米国の選挙が「ひとり一票」であれば、トランプ氏の勝利は間違いないでしょう。

しかし「そうさせたくない人々」が、非合法手段を使ってもそれを阻止しようとしています。

2024年10月20日 20:05

投資戦略動画（公開用）20241020 ハリス氏「私の失政はトランプが立候補したせい」。「嘘つきのレッテル貼り」が特大ブーメランに。経営者が変な言い訳や他責を始めたなら逃げろ。

<http://blog.livedoor.jp/contrarian65-wild/archives/51291910.html>

2024 年 10 月 25 日 21:01

投資戦略動画（公開用）20241025 ひとり一票ならトランプ氏が勝つが…予測精度が高い調査機関。
単純平均で互角ならトランプ優勢を意味する。激戦州でリードの異常事態。

<http://blog.livedoor.jp/contrarian65-wild/archives/51291959.html>

*****[会員さん用動画と投資戦略]*****

投資戦略アップデート（全会員共通）20241025 「選挙前アノマリー」全く効かず日本株下落。しかも円安ドル高なのに売られる激弱くん。自民大敗でいったん日本株は買い戻される。

（上のリンクはユーチューブ、下はランブルで同じ動画です）

<https://youtu.be/eYmTC2mRMbU>

<https://rumble.com/v5k3h5p-20241025.html>

ポートフォリオ会員さん、個別銘柄会員さんにはこれらを前提にさらに詳しい動画を用意しています。

=====

【会員さん用アップデート概略】

1. 「選挙前アノマリー」全く効かず日本株下落
2. しかも円安ドル高なのに売られる激弱くん
3. 自民大敗でいったん日本株は買い戻される

関連リンク

株、半世紀ぶり崩れた「選挙は買い」 衆院解散前から 3%安

2024 年 10 月 25 日 15:33

<https://www.nikkei.com/article/DGXZQ0UB2550G0V21C24A0000000/>

解散・総選挙期間は日本株買い、百発百中の定石戦略ー景気対策期待も

2024 年 10 月 9 日 8:25 JST

<https://www.bloomberg.co.jp/news/articles/2024-10-08/SKYPWOT1UMOW00?srnd=co.jp-v2>

選挙と株価のアノマリー【経済コラム】

2024 年 10 月 20 日 13 時 09 分

<https://www3.nhk.or.jp/news/html/20241018/k10014612031000.html>

2021 年 10 月 13 日

株式市場での「解散は買い」のアノマリーは有効かー2000 年以降の衆院解散・総選挙と海外投資家
売買動向

森下 千鶴

<https://www.nli-research.co.jp/report/detail/id=69034?site=nli>

鳩山政権と重なる危うさ 米コロンビア大名誉教授
ジェラルド・カーティス氏

米知日派 4 氏がみる石破首相 「理想主義では短命に」

2024 年 10 月 7 日 9:59

<https://www.nikkei.com/article/DGXZQOCD0602COW4A001C2000000/>

【1. 「選挙前アノマリー」全く効かず日本株下落】

1963 年から 2021 年までの

約 60 年間、衆院解散から選挙まで日経株価指数が上昇する強いアノマリー

がありました。

これは有名な話であり、今回も「鉄板で上昇する」という記事が踊りました。

しかし今回は 3%安で崩れてしまいました。

【2. しかも円安ドル高なのに売られる激弱くん】

しかも今回、ドル円は140円から1か月上げっぱなしでした。

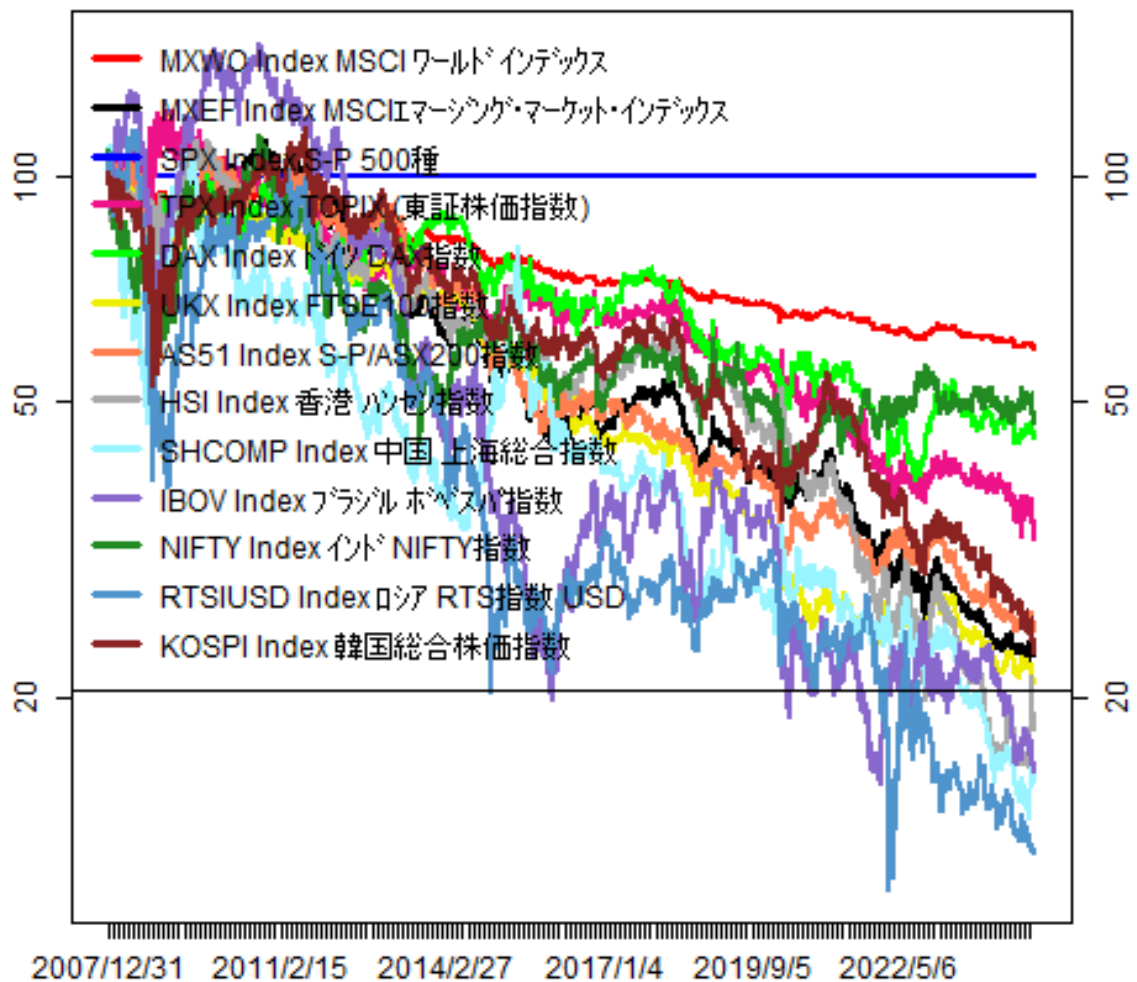
それなのに日経は早々に息切れしたのです。

おかげでドルベース対SP500は安値に並びました（安値面ツラ合わせ）。

しかし実は米ドルとSP500が異様に強いだけで、他の国も相対的に下げています。

韓国やブラジルもけっこうひどい下げ方をしています。

相対株価 vs S-P 500種 (1)



作成: wildinvestors.com, データ元: トムソンロイター, 最終日: 2024/10/25

【3. 自民大敗でいったん日本株は買い戻される】

日本株が弱い根底には、石破政権に対する不安があります。

「石破政権が続けば鳩山政権並みの混迷となるはず」

そのように私が書いたとき、驚いた人がいたかもしれません。

しかし米国側から全く同じ指摘が出ています。

米コロンビア大名誉教授ジェラルド・カーティス氏は「鳩山政権と重なる危うさ」というコメントを日経に寄せました。

「石破氏の言葉は、普天間基地の唐突な移設案や東アジア共同体の構想で米国を怒らせた鳩山由紀夫元首相と不気味なほど重なる。」

と言うのです。

私も全く同感です。

今回の衆院選で、自公政権が過半数を割れの可能性は大きいです。

安倍路線で投票していた自民支持者や無党派層は左翼には投票しません。

ほとんどが国民民主か保守党に流れるでしょう。

仮に自民大敗なら、石破退陣で自民党総裁が選り直されます。

すると高市総裁になる期待で、週明けから日本株は買い戻されるかもしれません。

逆に自民があまり負けなかったり、負けたとしても石破政権が続行するなら引き続き日本株は安いままになると予測しています。

(終)

*****[パフォーマンス]*****

2024 年 10 月の助言パフォーマンス (暫定)

「永久保有」はドル急騰で必需品指数が上昇したにもかかわらず小幅下落で-1.74P に劣後が拡大しました。

「グローバルマクロ」は本流ポジション奏功で劣後が 0.58P へ小幅縮小しました。

「個別銘柄」は本流ポジション奏功も指数に対する劣後が-0.91P へわずかに拡大しました。

収益率	指数	差	投資戦略
+3.25%	+4.98%	-1.74%	永久保有
+4.89%	+5.47%	-0.58%	グローバルマクロ
+4.56%	+5.47%	-0.91%	個別銘柄

円基準	現地	通貨	指数
+5.47%	-0.36%	+5.86%	MSCI ワールド指数(*)
+2.61%	-3.06%	+5.86%	MSCI 新興国指数(*)
+6.73%	+0.82%	+5.86%	米 S&P 500 指数
+7.17%	+1.24%	+5.86%	米 NASDAQ 総合指数
-1.20%	-1.20%	+0.00%	東証株価指数 TOPIX
-0.15%	-0.15%	+0.00%	日経平均
+4.98%	-0.82%	+5.86%	米国生活必需品指数(*)
+8.40%	+2.40%	+5.86%	情報技術(*)
+5.70%	-0.15%	+5.86%	一般消費財(*)
+5.46%	-0.37%	+5.86%	コミュニケーション(*)

+4.11%	+3.89%	「本流」ポジション (SP500 買い、新興国売り)	
+0.49%	+0.46%	MSCI ワールド指数-必需品指数	

【参考】(*)印は配当込みの指数です

*****[ブログ]*****

2024 年 10 月 19 日 22:55

【週末だけのグローバル投資】「お前も共犯」逃げるハリス氏にバイデン氏が抱きつき攻撃。民主

党岩盤支持層が次々に離反！ハリス氏、FOX に乗り込み放送事故級の大爆死。

<http://blog.livedoor.jp/contrarian65-wild/archives/51291898.html>

*****[メルマガ]*****

登録がまだの方はこちらへどうぞ。

<http://www.mag2.com/m/0001237271.html>

バックナンバーはこちら

<http://archive.mag2.com/0001237271/index.html>



03 【再掲】投資戦略[特別]メール

25. 【再掲】投資戦略アップデート[特別]メール

今月も整理する時間がなかったので、後日まとめます